

目 次

弘徳豊岡教育Ⅰ	1
弘徳豊岡教育Ⅱ	3
環境と人間	5
環境と人間	7
憲法	10
情報リテラシーと処理技術	12
健康科学	14
スポーツ(実技)	16
英語コミュニケーション	18
キャリアアップⅠ	20
キャリアアップⅡ	22
キャリアアップⅢ	23
こども家庭福祉	25
社会福祉論	27
こども家庭支援論	29
こどもの発達と家庭支援	31
健康論	33
環境論	35
人間関係論	37
音楽表現論	39
造形表現論	40
こどもと造形	41
表現とこどもの運動	43
幼児造形	45
言葉とこどもの文化	46
こどもの保健	48
こどもの健康と安全	50
子育て支援	52
保育原理	54
社会的養護Ⅰ	56
精神保健	58
こどもの食と栄養	60
障害児保育	62
地域ボランティア	64
こどもと器楽・うたⅡ	66

特別研究Ⅰ	68
特別研究Ⅱ	70
特別研究Ⅲ	72
特別研究Ⅳ	74
こどもと器楽・うたⅠ	76
教職論	78
教育原理	80
教育心理学	82
特別支援教育	84
発達心理学	86
教育課程論	88
保育内容総論	90
こどもの指導法「健康」	92
こどもの指導法「人間関係」	94
こどもの指導法「環境」	95
こどもの指導法「言葉」	97
こどもの指導法「リズム表現」	99
こどもの指導法「造形表現」	100
こどもの指導法「言語表現」	102
こどもの指導法「音楽表現」	104
教育方法論	107
こどもの理解と相談支援	109
乳幼児保育Ⅰ	111
乳幼児保育Ⅱ	113
社会的養護Ⅱ	115
教育実習	117
教育実習事前・事後指導(2年生)	119
教育実習事前・事後指導(1年生)	121
保育実習Ⅱ	123
保育実習指導Ⅱ	124
保育実習Ⅲ	126
保育実習指導Ⅲ	127
保育・教職実践演習(幼稚園)	129
幼児実習基礎	131
保育実習Ⅰ(保育所)	133
保育実習Ⅰ(施設)	134
保育実習指導Ⅰ(保育所)	135
保育実習指導Ⅰ(施設)	137

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	1年	1単位（30時間）	必修
担当教員			
原田 敬文、西村 豊、学科教員全員			
科目ナンバリング：1001AB⑤⑥	授業形態：演習	保選必	
添付ファイル			

授業概要	本学の建学の精神「教育の目的は、人に愛される人 信頼される人 尊敬される人を育成することにある」の理解と、本学が掲げる「共生の心」を備えた人材の育成に基づき、本学で学ぶための基礎的な心構えと態度を養い、卒業後も視野にいたれた社会人基礎力を養います。 また、体験的な学習、アクティブラーニングを多く取り入れ、学生間、学生と教職員といった様々な人間関係に基づく、コミュニケーション力の向上、課題解決力の向上を目指します。		
授業計画	1	学校法人弘徳学園で学ぶことの意義 1 建学の精神、共生の心、学園歌	
	2	学校法人弘徳学園で学ぶことの意義 2 社会人基礎力を付ける：豊岡短期大学で学ぶということ・働く意義・先輩に学ぶ	
	3	共生の心1（弘徳豊岡合宿） オリエンテーション・朝の集い	
	4	共生の心2（弘徳豊岡合宿） 生活体験（昼食作り・朝食作り）	
	5	共生の心3（弘徳豊岡合宿） 生活体験（昼食作り・朝食作り）	
	6	共生の心4（弘徳豊岡合宿） 交流事業（ミニ運動会）、グループ行動	
	7	共生の心5（弘徳豊岡合宿） 交流事業（ミニ運動会）、グループ行動	
	8	共生の心6（弘徳豊岡合宿） 交流事業（ミニ運動会）、グループ行動	
	9	共生の心7（弘徳豊岡合宿） 交流事業（ミニ運動会）、グループ行動	
	10	共生の心8（弘徳豊岡合宿） 交流事業（ミニ運動会）、グループ行動	
	11	共生の心9（弘徳豊岡合宿） 自然体験（キャンプファイアー等）、文化体験（豊岡踊り）	
	12	社会人基礎力1 社会有為な人材育成（映画鑑賞から学ぶ）	
	13	社会人基礎力2 社会有為な人材育成（映画鑑賞から学ぶ）	
	14	社会人基礎力3 多様性について学ぶ：交際交流を通して（障がい者・LGBTQ）	
	15	社会人基礎力4 現代社会の理解（パネルディベート（映画鑑賞、国際交流のまとめ））	
授業科目の目的	本学の「建学の精神」を理解し、「共生の心」を身につけ、本学の学びが、人格形成や社会人基礎力を育み、卒業後の進路において、より豊かな人生をおくれるような人材育成を行います。 また、短期大学で学ぶという観点から、勉学、研究、実習など、物事に積極的に取り組む力を身につけることを目的としています。		
学修成果	建学の精神にもとづき、下記の5点が学習成果となります。 1. 人間は人間だけで生きているのではなく、自然のなかで他の生命とともに、生かされているという認識を持つとともに、その思想を実践する力を身につけることができるようにします。 2. 専門職業人としての基本的な倫理観を養うとともに、他人を思いやる心を身につけることができるようにします。 3. 専門職に必要な基礎的知識・技術を修得するとともに、創造性を身につけることができるようにします。 4. 社会・歴史に対する深い洞察力を身につけるとともに、豊かな人間性を身につけることができるようにします。 5. 国際社会に適応しうる感性を育むとともに、異文化を理解しうる力を身につけることができるようにします。		
テキスト	随時資料を配付します。		

参考書	随時紹介します。
授業外学修	本授業に対する予習復習は、自身の教養を深めるために、本を読むこととし、その読んだ内容について、教員や学生同士で話し合うよう心がけてください。この予習復習にそれぞれ30～60分要します。
フィードバックの方法	各授業の最後に、振り返りシートを提出してもらいます。各教員が、振り返りシートを添削し、返却します。その際、さらに学びを深めてほしい内容等を紹介します。
定期試験の有無	無
成績評価基準	各授業ごとの授業態度・意欲30%、課題（振り返りシート含む）を70%として評価し、校内での授業と合宿での学びを総合して評価します。
受講の心構えとメッセージ	本授業は、皆さんが本学に入学してから卒業するまでの間、どのように学んでいくべきなのかを体系的に学ぶことが求められています。 豊かな人生を送るためには、普段から自身の考えを持ち、主体的に行動をしていく必要があります。 本学に入学した皆さんには、普段から、「建学の理念」と「共生の心」を核とし、学びの姿勢を持ち続け、日常生活でも実践していただけることを求めます。
オフィスアワー	この授業は、複数教員での担当になります。各担当教員のオフィスアワーは、mellyで確認するようにしてください。
実務経験の有無	無
実務経験の概要	
その他の事項	この授業では、宿泊形式の「弘徳合宿」があります。詳細は、追って連絡します。 合宿を欠席した場合は、別途補講を受講することとします。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	2年	1単位（30時間）	必修
担当教員			
原田 敬文、西村 豊、学科教員全員			
科目ナンバリング：1002CD⑤⑥	授業形態：演習	保選必	
添付ファイル			

授業概要	本学の建学の精神「教育の目的は、人に愛される人 信頼される人 尊敬される人を育成することにある」の理解と、本学が掲げる「共生の心」を備えた人材の育成に基づき、本学で学ぶための基礎的な心構えと態度を養い、卒業後も視野にいたれた社会人基礎力を養います。 また、体験的な学習、アクティブラーニングを多く取り入れ、学生間、学生と教職員といった様々な人間関係に基づく、コミュニケーション力の向上、課題解決力の向上を目指します。		
授業計画	1	学校法人弘徳学園で学ぶことの意義 1 建学の精神、共生の心、学園歌	
	2	学校法人弘徳学園で学ぶことの意義 2 社会人基礎力を付ける：豊岡短期大学で学ぶということ・働く意義・先輩に学ぶ	
	3	共生の心 1（弘徳豊岡合宿） オリエンテーション（朝の集い）	
	4	共生の心 2（弘徳豊岡合宿） 生活体験（昼食作り・朝食作り）	
	5	共生の心 3（弘徳豊岡合宿） 生活体験（昼食作り・朝食作り）	
	6	共生の心 4（弘徳豊岡合宿） 交流事業（ミニ運動会）・グループ行動	
	7	共生の心 5（弘徳豊岡合宿） 交流事業（ミニ運動会）・グループ行動	
	8	共生の心 6（弘徳豊岡合宿） 交流事業（ミニ運動会）・グループ行動	
	9	共生の心 7（弘徳豊岡合宿） 交流事業（ミニ運動会）・グループ行動	
	10	共生の心 8（弘徳豊岡合宿） 交流事業（ミニ運動会）・グループ行動	
	11	共生の心 9（弘徳豊岡合宿） 自然体験（キャンプファイアー等）、文化体験（豊岡踊り）	
	12	社会人基礎力 1 社会有為な人材育成（映画鑑賞から学ぶ）	
	13	社会人基礎力 2 社会有為な人材育成（映画鑑賞から学ぶ）	
	14	社会人基礎力 3 多様性について学ぶ：国際交流を通して（障がい者・LGBTQ）	
	15	社会人基礎力 4 現代社会の理解（パネルディベート（映画鑑賞の続き、国際交流のまとめ））	
授業科目の目的	本学の「建学の精神」を理解し、「共生の心」を身につけ、本学の学びが、人格形成や社会人基礎力を育み、卒業後の進路において、より豊かな人生をおくれるような人材育成を行います。 また、短期大学で学ぶという観点から、勉学、研究、実習など、物事に積極的に取り組む力を身につけることを目的としています。		
学修成果	建学の精神にもとづき、下記の5点が学習成果となります。 1. 人間は人間だけで生きているのではなく、自然のなかで他の生命とともに、生かされているという認識を持つとともに、その思想を実践する力を身につけることができるようにします。 2. 専門職業人としての基本的な倫理観を養うとともに、他人を思いやる心を身につけることができるようにします。 3. 専門職に必要な基礎的知識・技術を修得するとともに、創造性を身につけることができるようにします。 4. 社会・歴史に対する深い洞察力を身につけるとともに、豊かな人間性を身につけることができるようにします。 5. 国際社会に適応しうる感性を育むとともに、異文化を理解しうる力を身につけることができるようにします。		
テキスト	随時資料を配付します。		

参考書	随時紹介します。
授業外学修	本授業に対する予習復習は、自身の教養を深めるために、本を読むこととし、その読んだ内容について、教員や学生同士で話し合うよう心がけてください。この予習復習にそれぞれ30～60分要します。
フィードバックの方法	各授業の最後に、振り返りシートを提出してもらいます。各教員が、振り返りシートを添削し、返却します。その際、さらに学びを深めてほしい内容等を紹介します。
定期試験の有無	無
成績評価基準	各授業ごとの授業態度・意欲30%、課題（振り返りシート含む）を70%として評価し、校内での授業と合宿での学びを総合して評価します。
受講の心構えとメッセージ	本授業は、皆さんが本学に入学してから卒業するまでの間、どのように学んでいくべきなのかを体系的に学ぶことが求められています。 豊かな人生を送るためには、普段から自身の考えを持ち、主体的に行動をしていく必要があります。 本学に入学した皆さんには、普段から、「建学の理念」と「共生の心」を核とし、学びの姿勢を持ち続け、日常生活でも実践していただけることを求めます。
オフィスアワー	この授業は、複数教員での担当になります。各担当教員のオフィスアワーは、mellyで確認するようにしてください。
実務経験の有無	無
実務経験の概要	
その他の事項	この授業では、宿泊形式の「弘徳合宿」があります。詳細は、追って連絡します。 合宿を欠席した場合は、別途補講を受講することとします。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1 年	2 単位 (30時間)	選択
担当教員			
西村 豊、川端 義明			
科目ナンバリング：1005B⑥	授業形態：講義	保選	
添付ファイル			

授業概要	(自然環境) 幼児期の教育において、自然や動植物とのかかわりが欠かせません。本授業では、「自然や動植物」と関わろうとする幼児を支援するために必要な「自然や動植物」及び「自然環境」に関する基礎知識を習得し、野外での幼児の遊びに通ずることを目指します。主に「講義」と屋外でのフィールドワークで構成します。 (社会環境) こどもが育つ上で、家庭環境も含めた社会環境は大きな意味を持ちます。その社会環境がどのように変化し、どのような影響を子どもたちに与えてきたのか、現在の社会環境はどのような状況になっているのかを多角的に考える機会とします。講義形式を基本とし、内容によってはグループワークや討議を行います。		
授業計画	1 オリエンテーション 自然環境と社会環境の授業概要についての説明 ○こどもと自然体験について（教育要領との関連…身近な環境との関わりに関する領域「環境」） ・教育現場の指導者の姿勢 2 社会環境 1 移り変わる社会の中の子ども 3 自然環境 1 （1）こどもと自然体験との関わりについて ○幼児の深い学びを可能にする指導者の身近な環境への関わり方・姿勢 （2）人里（認定こども園周辺）に生息・生育する虫や草花① ～秋見つけ～ ○フィールドワークの概要・班編成・計画立案 4 社会環境 2 子どもと家族（こども観の変遷と多様な家族のあり方） 5 自然環境 2 人里（認定こども園周辺）に生息・生育する虫や草花② ～秋見つけ～ ○フィールドワーク ・身近な秋の生き物や草花の観察 ・身近な草花を使ったこどもの遊び 6 社会環境 3 子どもと貧困（変遷と現状）（1） 7 自然環境 3 人里（認定こども園周辺）に生息・生育する虫や草花③ ～秋見つけ～ ○フィールドワーク及びマップの作成 ・身近な秋の生き物や草花の観察 ・身近な草花を使ったこどもの遊び 8 社会環境 4 子どもと貧困（変遷と現状）（2） 9 自然環境 4 人里（認定こども園周辺）に生息・生育する虫や草花④ ～秋見つけ～ ○フィールドワーク及びマップの作成 ・身近な秋の生き物や草花の観察 ・身近な草花を使ったこどもの遊び 10 社会環境 5 「子育て」：誰が担うのか、担ってきたか（晩婚化、未婚化との関係において） 11 自然環境 5 人里（認定こども園周辺）に生息・生育する虫や草花⑤ ～秋見つけ～ ○フィールドマップの作成及び発表会に向けての準備 ・身近な草花を使ったこどもの遊び ・園外保育の留意点（危険な生き物や植物への対処法・安全確保の方法等） 12 社会環境 6 「子育て」：子どもと体験活動（成長との関係性） 13 自然環境 6 人里（認定こども園周辺）に生息・生育する虫や草花⑥ ～秋見つけ～ ○フィールドマップの発表及び成果物の披露 ・質疑応答、講評 ・相互評価 14 社会環境 7 少子化時代における「子育て」政策と今後について 15 自然環境 7 全体のまとめ及び振り返り（自己評価）		
授業科目の目的	(自然環境) この授業では、身近な自然環境について理解を深め、子どもと自然との関わりを促すための基礎的知識や野外での子どもの遊びを支援する方法を習得します。 (社会環境)		

	この授業では、こどもの成長にかかわる家庭を含めた社会環境を多角的な視点から見つめることによって、社会環境がこどもにどのような影響を与えるのかを理解できるようになります。
学修成果	(自然環境) 1. 幼児が自然に親しむきっかけを与える能力を身につけることができますようにします。 2. 幼児を野外に引率する際に必要な安全確保に関する基礎的知識を身につけることができますようにします。 (社会環境) 3. こどもと家族を含めた社会環境の関係や現代のこどもに関わる様々な問題を多角的に考察することができますようにします。
テキスト	講義用に作成したプリント等を必要に応じて、その都度配付します。
参考書	(自然環境) 自然観察ハンドブック／日本自然保護協会／平凡社（ISBN9784783501190） 野外における危険な生物／日本自然保護協会／平凡社（ISBN9784582540123） (社会環境) こども学序説 変わる子ども変わらぬ子ども／浜田寿美男／岩波出版（ISBN9784000228862） 子ども白書（2020）／日本子どもを守る会／かもがわ出版（ISBN9784780311013）
授業外学修	(自然環境) 予習：フィールドマップ作成及び発表に向けての準備の進行状況によって自主学習を行ってください。この予習には90分から120分程度の学習時間を要します。 復習：「授業記録」を用いて授業内容を振り返ってください。この振り返りには、90分から120分前後の学習時間を要します。また、生き物の種名と実体は、通学、教室移動などの機会に繰り返し確認を行ってください。フィールドマップ及びレポート作成に向けて、関連する書籍を読んだり、身近な自然を意識して、観察することに取り組んでください。 (社会環境) 予習：各回の授業テーマについて、身近な年代の異なる人たちと話をしたり、書籍を読んだり、学ぶ前の準備に取り組んでください。この予習には90分から120分程度の学習時間を要します。 復習：振り返りプリントを用いて授業内容を振り返ってください。この振り返りには90分から120分前後の学習時間を必要とします。
フィードバックの方法	(自然環境) 授業終了時に、授業記録の提出を求め、提出を受けた授業記録には助言等を付して返却します。 (社会環境) 授業終了時に、振り返りプリントの提出を求め、提出を受けた振り返りプリントには助言等を付して返却します。
定期試験の有無	有
成績評価基準	定期試験60%、レポート等30%、授業態度10%により、総合的に評価します。
受講の心構えとメッセージ	(自然環境) ・野外観察を行うことがあります。必要に応じて指示しますので、活動しやすい服装、運動靴を用意してください。 ・野外観察時には、土や草木に抵抗なく触れることができるようにしてください。 (社会環境) ・こどもが育つ環境がこどもの成長にどのような影響を与えるのかを考える機会とし、今後のこども理解に繋がってくれることを期待しています。
オフィスアワー	授業、会議、出張などにより不在となる場合を除き、随時オフィスアワーとして対応します。事前に声を掛けてくれると確実です。
実務経験の有無	無
実務経験の概要	
その他の事項	<自然環境> 「身近な自然」、「幼児の遊び」に関するレポート課題を課します。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1年	2単位（30時間）	選択
担当教員			
野畑 健太郎			
科目ナンバリング：1005B⑥	授業形態：講義	保選	
添付ファイル			

授業概要	本授業では、人間にとっての「環境」を、人間の生活環境を指す社会環境に着目して、社会環境の主体を保育の対象となる「子ども」に焦点を当てて、子どもの権利擁護環境を構成する諸法、すなわち憲法、民法、教育基本法、学校教育法、子どもの権利条約、児童福祉法、児童虐待防止法、いじめ防止対策推進法、こども基本法などの法規が、子どもの権利についてどのように定め、どのような権利をどのように擁護・保障しているかについて学び、その具体的な規定内容と擁護・保障内容を理解することを目的とする授業を行います。		
授業計画	1	オリエンテーション（授業概要等）／ 令和7年度に制度化された「こども誰でも通園制度」について 1. 授業概要等について 2. いわゆる「こども誰でも通園制度」について (1) 「こども誰でも通園制度」創設に至る経緯 (2) 「子ども・子育て支援法等の一部を改正する法律」の成立（令和6年6月公布）と「乳児等通園支援事業」の創設 (3) 令和7年4月施行の改正「児童福祉法」が規定する「乳児等通園支援事業」 (4) 乳児等通園支援事業が実施される施設 (5) 令和8年4月施行の改正「子ども・子育て支援法」が規定する「乳児等通園支援事業」 (6) こども基本法とこども誰でも通園制度の創設 (7) 子ども・子育て支援法等の一部を改正する法律（令和6年法律第47号）の成立と「こども誰でも通園制度」の給付化	
	2	令和7年4月の改正「児童福祉法」と子どもの権利擁護 1. 「児童福祉法等の一部を改正する法律」（令和7年法律第29号）が規定する施策 (1) 保育人材の確保等に関する体制の整備 ① 保育士・保育所支援センターの法定化 ② 保育体制の整備に係る特例の一般制度化と「地域限定保育士」資格の創設 (2) 虐待を受けた児童等への対応の強化 ① 保育所等職員による虐待に関する通報義務等の創設 ② 一時保護委託の登録制度の創設 ③ 児童虐待を行った保護者の面会通信等制限 (3) 令和4年の改正「児童福祉法」による＜児童の意見聴取＞体制の整備 (4) 令和8年4月施行の改正「児童福祉法」第33条の3の3の内容	
	3	「児童福祉法」と子どもの権利擁護 ―その1― 1. 子どもの福祉と「児童福祉法」 2. 「児童福祉法」の沿革と変容 (1) 「児童憲章」の制定とその意義 (2) 平成28年の改正「児童福祉法」の内容 ① 理念の明確化の背景 ② 理念明確化規定成立の意義 ③ 理念規定改正の趣旨 ④ 改正理念規定の概要 (3) 市町村の「要保護児童対策地域協議会」（要対協）の創設 ① 「要対協」の法定化・設置の努力義務化・機能強化 ② 「要対協」の支援対象等の拡大と課題 (4) 児童相談所設置自治体の拡大	
	4	「児童福祉法」と子どもの権利擁護 ―その2― 1. 「児童福祉法等の一部を改正する法律」（平成28年法律第63号）による施策 (1) 児童相談所の体制強化 (2) 一時保護の目的の明確化 2. 平成29年の改正「児童福祉法」の内容 (1) 児童福祉分野への司法関与に関する事項の改正 (2) 保護者の指導に関する家庭裁判所の勧告等に関する事項 (3) 一時保護に関する事項 3. 令和4年の改正「児童福祉法」の内容 (1) 子育て世帯に対する包括的支援のための体制強化と事業の拡充 ① 従来の支援体制の問題点の解消と「こども家庭センター」の設置 ② サポートプランの作成 (2) 児童の意見聴取仕組みの整備 ① 都道府県知事・児童相談所長の＜最善の利益の考慮＞と意見聴取等措置義務 ② 令和6年施行の改正「児童福祉法」に見る「子どもの権利条約」の反映・影響 (3) 一時保護の判断に関する司法審査の導入 ① 令和7年6月施行の児童福祉法が定める一時保護の要件 ② 一時保護開始時の判断における司法審査の導入	
	5	「児童福祉法」(3)・「児童虐待防止法」と子どもの権利擁護 I 「児童福祉法」と子どもの権利擁護（その3） [前回の続き] 4. 令和4年の改正「児童福祉法」の内容	

	(6) 子ども家庭福祉の実務者の専門性の向上 ①「子ども家庭ソーシャルワーカー」を規定する改正「児童福祉法」の内容 ②「子ども家庭ソーシャルワーカー」の要件を規定する「内閣府令」等の内容 (7) 児童をわいせつ行為から守る環境整備等 Ⅱ 児童虐待防止法と子どもの権利擁護 1. 令和7年の改正「児童虐待防止法」 (1) 一時保護中の児童の保護者の面会通信等制限 (2) 子どもの意見聴取の義務化 2. 児童虐待から子どもを守る法令等の推移 (1) 子ども権利条約の批准と国連子どもの権利委員会による勧告（平成10年） (2) 平成12年の「児童虐待の防止等に関する法律」（児童虐待防止法）の制定 (3) 平成16年の改正「児童虐待防止法」 ① 児童虐待の定義・早期発見等 ② 児童虐待に係る通告・送致を受けた場合の措置 ③ 児童虐待を行った保護者に対する指導、面会・通信の制限等 ④ 児童虐待を受けた児童等に対する支援 (4) 平成19年の改正「児童虐待防止法」 ① 児童の安全確認等のための立入調査等の強化 ② 保護者に対する面会・通信等の制限の強化
6	- 児童虐待防止法と子どもの権利擁護 ―その2― (1) 平成28年の改正「児童虐待防止法」 ① 児童虐待発生時の迅速・的確な対応 ② 被虐待児童への自立支援 ③ しつけを名目とした児童虐待の禁止 (2) 平成29年の改正「児童虐待防止法」 ① 児童虐待を行った保護者への「つきまとい」・「はいかい」行為禁止命令 ③ 令和元年の改正「児童虐待防止法」 ① 親権者による「体罰」の禁止 ② 児童の福祉に職務上関係のある者の守秘義務 ③ 児童虐待の再発防止のための措置 ④ 児童が転居する場合の措置 (4) 令和4年の改正「児童虐待防止法」 ① 「一時保護時の司法審査」の創設 ② 「懲戒」の削除と「児童の人格を尊重」の規定化 ③ 改正「児童虐待防止法」における「児童虐待」の定義 (5) 児童虐待行為類型の具体例
7	- 日本国憲法と子どもの権利擁護 (1) 「人権」としての子どもの権利 (2) 日本国憲法上の子どもの人権保障： ① 子どもの人権享有主体性、 ② 子どもの「教育を受ける権利」（憲法26条1項）、 ③ 児童酷使の禁止（憲法27条3項） (3) 「子どもの人権」わが保障をめぐるわが国の重要学説・判例について： ① 子どもの学習権説、 ② 旭川学力テスト事件最高裁判決等
8	「子どもの権利条約」と子どもの権利擁護 ―その1― (1) 「子どもの権利条約」成立に至る経緯 (2) 子どもの権利に関するコルチャックの思想 (3) 「子どもの権利条約」成立の意義 (4) 「子どもの権利条約」の規定内容 (5) 子どもを「権利の主体」と位置づける規定
9	- 子どもの権利条約と子どもの権利擁護 ―その2― (1) 条約の批准・発効に伴う国内法改正への政府対応の推移 (2) 既存の「人権擁護委員」制度（昭和23年創設）等の活用 (3) 国連子どもの権利委員会の日本への第4回「総括所見」（2019年）の勧告内容 (4) 第4回「総括所見」（2019年）の勧告内容と我が国の国内法令の内容変更：①家庭・代替的養育現場における全面的体罰禁止の法定化（2019年）、②2022年12月の民法改正による「懲戒権」規定の削除 (5) 国連子どもの権利委員会の勧告に対する我が国の対応と課題
10	Ⅰ 成育基本法・Ⅱ 教育機会確保法と子どもの権利擁護 Ⅰ 成育基本法と子どもの権利擁護 (1) 「成育過程にある者及びその保護者並びに妊産婦に対し必要な成育医療等を切れ目なく提供するための施策の総合的な推進に関する法律」（令和5年4月1日施行） (2) 「子どもの権利条約」の精神にのっとった理念法としての意義 (3) 子どもの権利に関する「成育基本法」の規定内容 (4) 政府による「成育医療等基本方針」の策定 (5) 「成育基本法」附則における「総合的に推進するための行政組織」設立の検討 Ⅱ 教育機会確保法と子どもの権利擁護 (1) 「義務教育の段階における普通教育に相当する教育の機会の確保等に関する法律」（平成28年法律第105号）（2016年成立、2017年施行） ① 「教育機会確保法」の成立とその意義 ② 学校教育領域における「子どもの権利条約法制」の形成 ③ こどもの権利に関する「教育機会確保法」の規定内容
11	Ⅰ 教育基本法・Ⅱ 学校教育法と子どもの権利擁護 Ⅰ 教育基本法と子どもの権利擁護 1. 昭和22年制定の旧「教育基本法」 2. 平成18年改正の現行「教育基本法」（平成18年法律第120号） (1) 法規定の内容 (2) 「教育基本法法制」の成立とその課題 Ⅱ 学校教育法と子どもの権利擁護 1. 学校教育法（昭和22年法律第26号）

	1 2 (1)「学校教育法」・関係法令の規定内容 (2)「学校教育法」上の幼稚園と「児童福祉法」上の保育所について (3)「認定こども園法」の成立とその法内容 (4)「認定こども園法」の改正と「幼保連携型認定こども園」の創設 (5)「幼保連携型認定こども園」の教育基本法・学校教育法上の地位 (6)「幼保連携型認定こども園」の特質 民法と子どもの権利擁護 (1)子どもの権利に関する「民法」の規定内容 (2)民法における未成年者の位置づけ (3)民法における親権者の懲戒権規定の修正と削除 (4)令和4年の民法改正と子どもの人格尊重規定の新設 (5)離婚における子どもの親権争い (6)親権者と監護〔権〕者に関する「民法」の規定内容 (7)令和6年の民法改正と離婚後の単独親権・共同親権選択制の導入 (8)単独親権・共同親権選択制の内容と課題 1 3 I 生殖補助医療法・II「子ども・若者育成支援推進法」と子どもの権利擁護 I 生殖補助医療法と子どもの権利擁護 (1)令和2年成立の「生殖補助医療法」 ①「生殖補助医療法」の規定内容 ②令和2年「生殖補助医療法」の課題 ③令和2年「生殖補助医療法」の検討内容 ④令和6年「特定生殖補助医療法案」の「要綱案」公表 II「子ども・若者育成支援推進法」と子どもの権利擁護 (1)平成21年の「子ども・若者育成支援推進法」 ①法制定の主要目的と法内容 ②「子ども・若者総合相談センター」体制の確保 ③「子ども・若者支援地域協議会」設置の努力義務化 (2)令和6年の改正「子ども・若者育成支援推進法」 ①ヤングケアラーの支援強化 1 4 いじめ防止対策推進法と子どもの権利擁護 1. 平成25年6月成立の「いじめ防止対策推進法」 (1)法成立に至る経緯 (2)法成立の背景と「大津いじめ自殺事件」の概要 (3)「いじめ防止対策推進法」における「いじめ」の定義 ①「いじめ」という言葉の意味を広く設定 ②第2条第1項（定義）の3つのポイント (4)「いじめ防止対策推進法」の規定内容 ①児童等に対する＜＜「いじめ」の禁止 ②国に対する＜＜いじめ防止対策の策定・実施 ③地方公共団体に対する＜＜「地方いじめ防止基本方針」の策定＞（努力義務 ④保護者に対する＜＜いじめ防止のための児童の指導・保護、学校への協力 ⑤学校（・教職員）に対する＜＜基本的施策の実施 ⑥市町村教育委員会に対する＜＜学校措置に関連する措置の実施 ⑦「重大事態」への対処 2. 「大津いじめ自殺事件」訴訟と本事件判決の意義 (1)一審・大津地裁判決 (2)控訴審・大阪高裁判決 (3)上告審・最高裁決定 (4)いじめと自殺の因果関係（認めた画期的な判決） 1 5 I「こども基本法」・II「子ども・子育て支援法」と子どもの権利擁護 I「こども基本法」と子どもの権利擁護 1. 令和4年6月成立の「こども基本法」 (1)制定の背景と法成立に至る経緯 (2)「こども基本法」の規定内容 ①「こども基本法」の基本理念 ②「こども」の定義と「こども施策」 ③基本的施策と「こども大綱」が目指す基本的な方針 2. 「こども家庭庁設置法」（令和4年法律第75号） (1)制定法の概要 (2)こども家庭庁の設置 ①「こども政策推進会議」の設置 ②「こども政策推進会議」の任務内容 II「子ども・子育て支援法」と子どもの権利擁護 1. 平成24年の「子ども・子育て支援法」 (1)法制定の目的・理念 (2)法内容 2. 令和6年の改正「子ども・子育て支援法」 (1)法改正の趣旨 (2)法改正の内容 ①育児時短就業給付の創設 ②子ども・子育て支援特別会計（「こども金庫」）の創設等
授業科目の目的	本授業では、いわゆる「子どもの権利条約法制」が2016年の児童福祉法の改正を契機として拡大・強化してきている現象を、「子ども」を取り巻く法的「環境」への考察を通して実証的に明示するため、特に、子どもの権利条約やこども基本法はもちろんのこと、教育機会確保法、成育基本法、子ども・若者育成支援推進法、こども家庭庁設置法など一般には周知されているとはいえない法規も取り上げて考察します。その目的は、これら諸法が、2016年の「児童福祉法」の改正を端緒として、わが国の法規上、「子どもの権利」を明記し、「子どもの権利条約」を「子どもの権利」保障の根拠法として位置づける法規として成立していること、別言すれば、国内法制上、「子ども」を取り巻く権利擁護環境の変化（「パラダイム転換」ともいえます。）をも

	たらしめている法規であり、いわゆる「子どもの権利条約法制」を形成している法規であることを“実感”してもらう点にあります。
学修成果	保育の対象となる子どもの権利を取り巻くわが国の法的環境の整備が進むなかで、子どもの権利を擁護するためにどのような法規が存在し、それらの法規によって、子どもの、どのような権利がどのように擁護ないし保障されているかを知ることができることになり、そのことによって、保育者を目指す受講生の子どもの権利に関する意識が高まるという成果を期待できます。
テキスト	講義用に作成した教材を毎回、講義日前に配信し、授業時に当該教材のコピーを配付します。
参考書	子どもと法／丹羽徹編／法律文化社（ISBN9784589037862） 子どもの権利／日本弁護士連合会子どもの権利委員会編／明石書店（9784750345284） 子ども若者の権利とこども基本法／末富芳編／明石書店（ISBN9784750356587）
授業外学修	[予習] 授業前に次回授業用「配信教材」を熟読し、難解事項について下調べしておいてください。予習で理解できない事項は課題として残して、授業に臨んでください。この予習には約90分から120分の学習時間を要します。 [復習] 授業後にMelly「課題」（質問）への解答を作成し、期限内に当該解答を提出してください。「課題」（質問）への解答作成を通して、授業で学んだ重要事項を復習してください。この復習には約90分から120分の学習時間を要します。 確かな学びの獲得のためには、上記の予習・復習が必要です。
フィードバックの方法	必要に応じて適宜、「課題」として出題した「質問」（授業内容理解度を把握するための「確認テスト」）についての解説を行います。
定期試験の有無	有
成績評価基準	定期試験70%および提出物（含「確認テスト」成績）30%により総合的に数量化して評価します。
受講の心構えとメッセージ	保育・教育現場の「子どもの権利」への認知度について、「内容までよく知っている」という回答が27.9%という調査結果（2023年11月22日のコドモンとセーブ・ザ・チルドレンの共同調査結果）が出ています。この調査結果は、子どもの権利を尊重し子どもとの向き合い方を実践する立場にある保育者の、子どもの権利への理解が十分といえないことを示しています。 授業を通して、受講者は（「子どもの権利」擁護諸法の根底にある）子どもを権利の主体と認め、ひとりの人間として尊重し扱っていかうとする考え方・姿勢を学ぶことになります。それは、子どもの独自性・固有性を大切にし、子どもをそれ自体独立した人間そのものとして捉えることを志向する考え方・姿勢にほかなりません。別言すれば、それは、“大人を基準として”子どもを捉えて、子どもを“未完成の大人にすぎない”とする見方を否定し、子どもの独自性・固有性を大切に、子どもを“子どもとして完成した人間”として捉え尊重し扱っていかうとする見方であり、子どもの権利を尊重し子どもとの向き合い方を実践する立場にある保育者に求められている見方であるといえます。 こうして、保育者を目指す受講者が「子どもの権利」・「子どもの法」を学ぶことには意義があると考えます。授業では、受講者が「子どもの権利」擁護諸法に親しみがわき、少しでも理解の助けとなるよう、ビジュアルなパワーポイントを使用して授業を進めます。授業は配信・配布教材の内容に沿って進めていきますから、配信・配布教材による予習・復習が可能です。受講生の積極的な予習・復習を期待しています。
オフィスアワー	授業時にオフィスアワーの曜日と時間をお伝えします。
実務経験の有無	無
実務経験の概要	
その他の事項	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1年	2単位（30時間）	選択
担当教員			
野畑 健太郎			
科目ナンバリング：1007B⑥	授業形態：講義	幼免必、保選	
添付ファイル			

授業概要	保育者をめざす学生にとって「憲法」を学ぶ意義は何かという視点から、日本国憲法の人権保障と統治機構に関する主要な諸規定、日本国憲法に特徴的な諸規定等についての分かりやすい説明を行います。考察の対象となる憲法諸規定の解説については、可能なかぎり判例や有権解釈に触れつつ、通説的見解に基づいた解説を行います。 授業では、憲法への親しみが湧くよう、ビジュアルな要素を取り入れたパワーポイントによる授業を実施します。毎回、Melly（「課題」欄）を用いて、授業内容に関する確認テストを実施します。 授業の進行と毎回の授業内容は、「配信（配付）教材」に依拠して行います。		
授業計画	1	子どもの保育・教育と憲法／憲法とは何か／日本国憲法の成立／人権総論(1) (1)子どもの教育・教育と日本国憲法 (2)憲法の意味・概念、憲法の分類、近代憲法の特徴、立憲主義の展開 (3)日本国憲法の制定過程、日本国憲法成立の法理、日本国憲法の基本原理、憲法前文の法的性格 (4)人権の概念、人権宣言の歴史①	
	2	人権総論(2) (1)人権宣言の歴史② (2)日本国憲法の人権保障 (3)人権の享有主体 (4)人権保障の限界と公共の福祉①	
	3	人権総論(3)／国民主権／象徴天皇制 (1)人権保障の限界と公共の福祉② (2)人権の私人間適用 (3)日本国憲法の基本原理、国民主権の意味 (4)国民主権と天皇制、天皇の地位、天皇の権能	
	4	平和主義／戦争の放棄／個人の尊重原理と幸福追求権(1) (1)平和主義の原理、日本国憲法の平和主義の特徴 (2)憲法9条の解釈：「戦争」の放棄、「戦力」の不保持、「交戦権」の否認 (3)憲法13条の構造、「新しい人権」、包括的基本権、幸福追求権の意義 (4)幸福追求権から導出される権利①：プライバシーの権利、名誉権	
	5	個人の尊重原理と幸福追求権(2)／法の下での平等 (1)幸福追求権から導出される権利②：環境権、自己決定権 (2)平等概念の歴史的展開 (3)法の下での平等の意味、平等原則と平等の権利 (4)日本国憲法における「法の下での平等」、法適用の平等と法内容の平等、憲法14条1項後段の列举事由 (5)平等原則違反の事例（判例）	
	6	思想・良心の自由／信教の自由 (1)思想・良心の自由の意味、保障の限界 (2)信教の自由の意義、信教の自由の内容、保障の限界 (3)政教分離の原則、政教分離の限界、政教分離に関する判例	
	7	学問の自由／表現の自由(1) (1)学問の自由の内容、保障の限界、大学の自治 (2)表現の自由の意味、表現の自由と知る権利（送り手の権利と受け手の権利） (3)マスメディア・インターネット上の表現の自由、報道・取材の自由、性表現	
	8	表現の自由(2)／集会・結社の自由／職業選択の自由／居住・移転の自由／財産権の保障／人身の自由(1) (1)名誉棄損表現 (2)表現の自由の限界、二重の基準の理論、事前抑制の理論 (3)集会の自由、集団行動の自由、結社の自由、通信の秘密 (4)職業選択の自由の意義と限界、居住・移転の自由の意義、海外渡航（外国旅行）の自由、国籍離脱の自由 (5)財産権保障の意義、財産権の制限と補償の要否、「正当な補償」の意味 (6)奴隷的拘束からの自由、憲法31条と適正手続、告知と聴聞、憲法31条と行政手続 (7)不法な逮捕・抑留・拘禁からの自由	
	9	人身の自由(2)／参政権／国務請求権 (1)不法な逮捕・抑留・拘禁からの自由② (2)公平な裁判所の迅速な公開裁判を受ける権利、証人審問権・喚問権、弁護人依頼権 (3)自己負罪の拒否、自白、事後法と「一事不再理・二重処罰の禁止」 (4)残虐刑の禁止 (5)参政権の意義、選挙権の法的性格、選挙権の内容 (6)請願権、裁判を受ける権利、国家賠償請求権、刑事補償請求権	

	10 社会権・生存権／教育を受ける権利 (1)社会権の特質、生存権の保障、生存権の法的性格 (2)教育を受ける権利、子どもの学習権と国の責務、教育の自由と教育権の所在、義務教育の無償 11 勤労の権利／労働基本権／環境権／国会と立法権(1) (1)勤労の権利 (2)労働基本権、公務員の労働基本権 (3)環境権 (4)権力分立の原理 (5)国会の地位①：国民の代表機関 12 国会と立法権(2)／内閣と行政権(1) (1)国会の地位②：国権の最高機関、唯一の立法機関、 (2)国会の組織と活動：二院制、選挙制度、国会議員の地位、国会の会期・会議の原則 (3)国会と議院の権能 (4)内閣の組織①：行政権の主体 13 内閣と行政権(2)／裁判所と司法権(1) (1)内閣の組織②：内閣総理大臣、国务大臣、行政各部、独立行政委員会 (2)内閣の権限：「行政権」の意味・概念、憲法73条が列举する内閣の権限 (3)国会との関係における内閣の権限と責任：議院内閣制、衆議院の解散権 (4)司法権の意味と範囲：司法権の観念、法律上の争訟、司法権の範囲、司法権の限界 (5)裁判所の組織と権能①：裁判所の構成と権限、特別裁判所の禁止、裁判の公開 14 裁判所と司法権(2)／財政／地方自治(1) (1)裁判所の組織と権能②：裁判員制度 (2)司法権の独立の意義、裁判官の職権の独立、裁判官の身分保障 (3)財政の基本原則：財政民主主義、租税法律主義、予算、公金支出制限、決算 (4)地方自治の本旨、団体自治と住民自治、自治権の根拠、地方公共団体の種類と組織 15 地方自治(2)／憲法保障制度／憲法改正の手続と限界／違憲審査制 (1)条例の意義、条例制定権の範囲 (2)憲法の最高法規性、国家緊急権 (3)硬性憲法と憲法改正の意義、憲法改正手続、憲法改正の限界 (4)違憲審査制の意義と根拠、違憲審査制の対象、最高裁による違憲判断例
授業科目の目的	この授業では、近代憲法の嫡流にあり、現代憲法的特徴を併有する日本国憲法を考察対象として、近代憲法および現代憲法の価値・原理を内包しつつ独自の成立事情を背景にもつ日本国憲法の特徴を理解することをねらいとします。とりわけ、日本国憲法の基本原理や人権保障についての学修が、本学の教育方針中の「専門職業人としての基本的な倫理観を養うとともに、他人を思いやる心を培う」という教育目標の達成に、また、「日本国憲法の統治機構」および「憲法成立に至る経緯とその後の展開」についての学修が、「社会・歴史に対する深い洞察力を身に付けるとともに、豊かな人間性を培う」という教育目標の達成に資することを目的としています。
学修成果	1. 日本国憲法の特徴と人権保障・統治構造の基本事項について、説明できるようにします。 2. 日本国憲法について修得した重要事項を保育と関連づけて説明することができるようにします。 3. 日本国憲法の基本的な諸規定や諸事項について通説・判例の見解を説明できるようにします。
テキスト	「配信（配付）教材」
参考書	『憲法 第八版』／芦部信喜（高橋和之補訂）／岩波書店／2023年
授業外学修	1. [予習] 授業前に次回授業用「配信教材」を熟読し、難解事項について下調べしておいてください。予習では、テーマに関する基本的事項・重要事項を理解できるように熟読し、理解できない事項は課題として残して、授業に臨んでください。講義は、理解できた事項を確認し、理解できなかった事項について理解の助けとなる説明を行うことを主眼とします。この予習には約90分から120分の学習時間を要します。 2. [復習] 授業後にMelly「課題」（質問）への解答を作成し、期限内に当該解答を提出してください。「課題」（質問）への解答作成を通して、授業で学んだ「日本国憲法」に関する基本的事項・重要事項を復習し、「保育と関連づけることができる」ように、さらには、自分なりに「説明できる」ようにしてください。この復習には約90分から120分の学習時間を要します。
フィードバックの方法	授業理解度をチェックする「Melly『課題』チェックカード」を有効に活用し、受講生の理解が不十分と思われる事項を提出物（解答）の内容から探り出し、必要に応じて適宜、授業で当該事項について再度説明を加えるようにします。
定期試験の有無	有
成績評価基準	授業態度・確認テスト30%、定期試験70%により総合的に数量化して評価します。
受講の心構えとメッセージ	「日本国憲法」は、社会科の教科書にも出てくる基本学習項目で、「とっつきやすい」科目といえますが、憲法は間口が広いとともに、法律科目の中でも、特に奥行きが深い科目です。憲法に関する多量で多様な事柄に接したとき、何を、どのように学べばよいのか、戸惑いを感じる受講者が少なくないと思います。確かな学びの獲得のためには、上記の予習・復習が必要です。 授業では、受講者が憲法への親しみがわき、憲法を少しでも理解できるよう、ビジュアルな要素を取り入れたパワーポイントを使用して授業を進めます。授業は「配信（配付）教材」の内容に沿って進めていくので、「配信（配付）教材」による予習・復習が可能です。
オフィスアワー	授業時に曜日と時間はお伝えします。
実務経験の有無	無
実務経験の概要	
その他の事項	授業中の私語を禁じます。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年	2単位（30時間）	選択
担当教員			
大塚 貴之			
科目ナンバリング：1008A⑤	授業形態：演習	幼免必、保選	
添付ファイル			

授業概要	デジタルリテラシーに関する「基礎知識」、情報セキュリティや著作権の保護などの観点から「デジタルシティズンシップ」について学びます。さらに、パーソナルコンピュータ（PC）を使用して、文章作成、表計算、プレゼンテーション等の活用技術習得に向けた演習を行います。「演習」部分は、PCを使用して進めます。また、毎時間、タイピング練習によるキーボード操作力の向上を目指します。		
授業計画	1	Windows操作 起動、ファイル管理、ブラウザ操作、プリンタ管理、ソフトウェア起動方法の理解	
	2	ワープロソフト基本1 文字情報、フォント設定、レイアウト設定、ヘッダーの活用、文章入力、罫線処理	
	3	ワープロソフト基本2 文書レイアウトの設定、図形挿入、画像挿入、印刷操作	
	4	表計算ソフト基本1 フォント設定、シートの活用、罫線処理、ヘッダーの活用、印刷操作	
	5	表計算ソフト基本2 セルの書式設定、図形挿入、画像挿入	
	6	ワープロソフト応用1 文書体裁関連用語の理解、文書体裁、文字体裁、オートコレクト	
	7	ワープロソフト応用2 テキストボックスの活用、「おたより」の作成演習	
	8	表計算ソフト応用1 計算式と関数	
	9	表計算ソフト応用2 表の作成と関数を使った集計	
	10	表計算ソフト応用3 グラフの作成	
	11	プレゼンテーションソフト1 入力、印刷、スライドショー	
	12	プレゼンテーションソフト2 アニメーション、画面切り替え、オブジェクトの活用	
	13	情報モラル 知的財産、著作権、個人情報の保護の理解	
	14	情報セキュリティ 情報の機密性・完全性・可用性、情報漏洩と対策。情報漏洩と防止、ネットワーク対策の理解	
	15	I C T活用の展望 ユビキタスコンピューティング、クラウドコンピューティング、VR、AR、IoTについての理解	
授業科目の目的	・コンピュータのハードウェア及びソフトウェアに関するデジタルリテラシーの習得を図ります。 ・情報セキュリティ対策や著作権の保護などの「情報モラル」について理解を深めます。 ・文書作成、表計算、プレゼンテーション等を保育者を意識し現場で活用する技術の習得を図ります。		
学修成果	1. PCの仕組みと基本操作を理解することができます。 2. インターネットの基本概念を理解し、活用する能力を身につけることができます。 3. 情報セキュリティ・デジタルシティズンシップについての知識と能力を身につけることができます。 4. 文章作成ソフトを活用し、文書や図を作成する能力を身につけることができます。 5. 表計算ソフトを活用し、表、グラフを作成する能力を身につけることができます。 6. プレゼンテーションソフトを活用し、説明する能力を身につけることができます。		
テキスト	授業内でプリント等を配付します。		
参考書	改訂新版 よくわかる情報リテラシー（標準教科書）／技術評論社（ISBN 978-4-7741-9142-3） 演習でまなぶ 情報処理の基礎／朝倉書店（ISBN978-4-254-12222-0） 保育者のためのパソコン講座 Windows10/8.1/7対応版／萌文書林（ISBN：978-4-89347-283-0）		
授業外学修	・講義で学んだPC操作に習熟するため、日々30分程度の復習を行ってください。 ・ブライントタッチ習得ため、日々10分程度、次回内容を入力する予習を行ってください。		
フィードバックの方法	・小テストの結果は、次回授業で返却し、理解が十分でない箇所について、再度説明します。		

定期試験の有無	有
成績評価基準	定期試験60%、提出課題等30%、学習態度10%により総合的に評価します。
受講の心構えとメッセージ	・授業の始めに、タイピング練習を実施します。 ・PCを使用する演習では、文書、表、スライド等の提出を課します。
オフィスアワー	授業、会議、出張などにより不在となる場合を除き、随時オフィスアワーとして対応します。事前に声を掛けてくれると確実です。
実務経験の有無	無
実務経験の概要	
その他の事項	・進捗状況、環境などの関係により、授業順序・内容が変更になる場合があります。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1年	1単位（15時間）	選択
担当教員			
川端 義明			
科目ナンバリング：1009B⑥	授業形態：講義	幼免必、保必	
添付ファイル			

授業概要	身近な健康問題について、視聴覚教材を使用した講義と演習で学びます。グループワークを取り入れ、グループで課題研究、演習、その内容の発表も行います。		
授業計画	1	テーマ「生涯を通じた健康づくりとその指導」 になりたい自分になるために ～過去・現在・未来をつなぐ～ ○「なぜ？」を大切にしたい教育 授業の目的（なぜ「健康科学」を学ぶのか） ○受講における心構えと学びの視点、今後の予定 ○第Ⅰ章「現代社会における体育教育」 第Ⅱ章 「現代社会と健康」	
	2	講義（第Ⅲ章「運動の生理」 第Ⅳ章「運動の基礎理論」 第Ⅴ章「生活と運動」） ○運動と呼吸 運動と筋肉 ○ウォーミングアップとクーリングダウン ○運動と健康、生活習慣病との関連について ○睡眠記録票の記入について	
	3	講義（第Ⅵ章「運動処方」） グループ討議及び課題研究の概要説明 ○有酸素性運動と無酸素性運動について ○グループ討議「自身の健康に対する意識を踏まえ、保育者として幼児の健康教育にどう取り組むか」 ○課題研究について（テーマ決定・グループ編成・計画・役割分担・資料収集）	
	4	講義及び課題研究 1 ○協働的な学習と協同的な学習の違い ○グループワークにおける自己評価・他己評価について ○プレゼンに向けてパワーポイント作成	
	5	講義及び課題研究 2 ○自分の思いや考えを伝える 5つの言語意識について ○プレゼンに向けてパワーポイント作成・発表練習	
	6	講義及び課題研究 3（成果発表会） ○課題研究の成果発表会及び振り返り ○第Ⅶ章「健康な生活設計」 第Ⅷ章「現代社会とストレス」	
	7	講義（課題研究総括・睡眠記録票分析・心肺蘇生法・熱中症予防対策） ○自己管理の意義（自身の睡眠記録票から考える） ○命を守る教育（心肺蘇生法・熱中症予防対策から考える）	
	8	授業のまとめと振り返り ○学びなおし（理論と現場の子どもの事実をつなげる）	
授業科目の目的	日々の勉強や仕事に打ち込むには、心身ともに健康でなければなりません。今日、私たちを取り巻く社会や環境、生活の変化は、私たちの健康に多大な影響を及ぼしています。本講義では、そのことについて客観的に分析し、科学的な健康づくりを学ぶことにより、自己の健康づくり及び保育者として幼児から高齢者までの健康づくりの指導ができるようになることを目的としています。		
学修成果	1. 自己の体力増進や健康管理ができるとともに、保育者・指導者として自己や周囲の人への健康管理を考えることができるようにします。 2. 生涯における健康な生活設計(薬物・アルコール・たばこ等) への自己の認識を確立し、実践できるようにします。		
テキスト	健康科学／長谷川定宣／豊岡短期大学		
参考書	必要に応じて紹介します。		
授業外学修	予習として、課題解決学習におけるパワーポイントの作成及び資料の収集を行う。復習として、学びの要点を講義資料や授業での口頭説明、参考書等を用いてワークシートにまとめる。この予習や復習には約90分から120分の学習時間を要します。		
フィードバックの方法	発表や課題については、授業の中でその内容を取りあげてフィードバックし、理解をより深められるようにしていきます。		
定期試験の有無	有		
成績評価基準	意欲・関心・態度20%、グループ活動、発表及び課題30%、定期試験50%により総合的に評価します。		
受講の心構えとメッセージ	日頃からの自己の健康管理を考え実践してください。 様々な健康問題に目を向けられるよう心がけてください。また、予習・復習としては、学外でのスポーツやレクリエーションに取り組み、科学的な根拠に基づく健康づくりを実践することを求めます。		
オフィスアワー	初回の授業時に曜日と時間はお伝えしますが、オフィスアワーは週1回90分です。事前に、「melly」を使って予約を取ってください。		
実務経験の有無	有		

実務経験の概要	小学校・中学校に36年間勤務した実務経験があります（幼稚園長3年間含む）。
その他の事項	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年	1単位（30時間）	選択
担当教員			
川端 義明			
科目ナンバリング：1010A⑤	授業形態：実技	幼免必、保必	
添付ファイル			

授業概要	スポーツの多様な価値観や特性を理解し、各種のスポーツを仲間とともに体験するなかで、スポーツをする・見る・支えるなど様々な関わり方を学びます。 仲間と身体活動を行う中で自己の体力向上及び健康の保持増進を図り、保育者や指導者としての子ども達への指導法や競技の運営についても考えていきます。 授業は体育館やホールで実際に体を動かすことを主体としています。講義の中や授業冒頭で伝えていく理論や注意点を確認しその内容を踏まえた上で実践を行う形式をとります。 実施するスポーツについてはバレーボール、バドミントンとしていますが、学生の運動状況、体育館や教材の状況によって適宜変更します。		
授業計画	1	ガイダンス 1 アイスブレイク ○自己紹介 「スポーツ（運動）とわたし」 ○受講における心構えと今後の予定 ○保育者（指導者）としての観点からスポーツ実技を考える	
	2	ガイダンス 2 講義及び実技 ○スポーツの運営（準備・片付け含む）トーナメント・リーグ戦について ○安全なスポーツの運営をする上での体力づくりや安全面・体の可動について体験 ○ラジオ体操・ストレッチ ダンス発表会について	
	3	スポーツ（1） バドミントン 1 ○競技の説明及び基本練習・試合（シングルス） 振り返り ○ダンス発表会に向けて 1	
	4	スポーツ（2） バドミントン 2 ○競技の説明及び基本練習・試合（ダブルス） 振り返り	
	5	スポーツ（3） ニュースポーツ 1（ティーボール） ○競技の説明及び試合 振り返り ○ダンス発表会に向けて 2	
	6	スポーツ（4） 卓球 1 ○競技の説明及び基本練習・試合（シングルス） 振り返り ○ダンス発表会に向けて 3	
	7	スポーツ（5） 卓球 2 ○競技の説明及び基本練習・試合（ダブルス） 振り返り	
	8	スポーツ（6） バレーボール 1 ○競技の説明及び基本練習 振り返り ○ダンス発表会に向けて 4	
	9	スポーツ（7） バレーボール 2 ○ルールの確認及び基本練習・試合 振り返り	
	10	スポーツ（8） バスケットボール 1 ○競技の説明及び基本練習 振り返り ○ダンス発表会に向けて 5	
	11	スポーツ（9） バスケットボール 2 ○ルールの確認及び基本練習・試合 振り返り	
	12	スポーツ（10） サッカー 1 ○競技の説明及び基本練習 振り返り ○ダンス発表会に向けて 6	
	13	スポーツ（11） サッカー 2 ○ルールの確認及び基本練習・試合 振り返り	
	14	スポーツ（12） ソフトバレーボール ○競技の説明及び基本練習・試合 振り返り ○ダンス発表会に向けて 7	
	15	まとめ ダンス発表会 授業のまとめと振り返り	
授業科目の目的	生涯にわたり有意義な生活を送るために、運動やスポーツを自ら実践し健康と体力を向上するとともに、生涯スポーツを理解することを目的とします。 自己の身体特性や技術水準に合わせて、個人・集団で安全・公正にスポーツを楽しむ態度や社会的スキルを養うとともに、健康の保持・増進に向けて、継続的な運動習慣を身に付けることを目指します。 各種のスポーツを仲間とともに楽しみ、競技の運営方法や自己の体力向上及び健康の保持・増進について学び考えていきます。		
学修成果	1．様々なスポーツの技術、ルール、戦術を理解し、安全にゲームを楽しむことができる。 2．既存のルールにとらわれずに自分たちに適したルールに修正し、ゲームを楽しむことができる。 3．スポーツをするだけでなく、ゲームにおける審判や準備・片付けなど、様々な立場からスポーツに関わることができる。		
テキスト	特に指定はせず、講義に関連した資料を必要に応じて配布します。		

参考書	必要に応じて紹介します。
授業外学修	予習：授業各回に行う種目について、書籍やインターネットを使って、その特性、技能やルール等について調べてみてください。この予習には45分を要します。また授業に応じて教員が課題を設定します。 復習：体験した身体運動活動のなかで、自分自身で感じたことをまとめながら、余暇を使ってスポーツやレクリエーションに取り組んでください。
フィードバックの方法	技能獲得は各スポーツ実技の中で課題を行っていきます。その結果は、次回以降の授業時にフィードバックします。 定期試験の結果については、成績公表後、希望者が各自で質問に来た際にフィードバックします。
定期試験の有無	有
成績評価基準	授業態度15%、技能獲得35%、定期試験50%により総合的に評価します。
受講の心構えとメッセージ	本授業を通して、スポーツをすることの意義や効果をあらためて考えてみることで、その魅力や関わり方を再発見することができます。また、自分以外の人を応援することでスポーツの楽しさが倍増します。常に保育者や指導者としての視点で、子ども達への指導法や競技の運営について考え授業に取り組んでください。見学・欠席しないように日頃の健康管理に十分留意してください。怪我・疾病等で見学する場合は授業開始前までに担当教員へ連絡してください。本授業は実技を伴う科目となりますので水分補給・運動に適した服装の準備をお願いします。
オフィスアワー	初回の授業時にあらためて場所と時間はお伝えしますが、授業の前後の時間をオフィスアワーとします。
実務経験の有無	有
実務経験の概要	小学校・中学校に36年間勤務した実務経験があります（幼稚園長3年間含む）。
その他の事項	環境や安全性などの条件により、内容の変更、順番の変更が発生する場合があります。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1年	2単位（30時間）	選択
担当教員			
西村 豊			
科目ナンバリング：1011B⑤	授業形態：演習	幼免必、保選	
添付ファイル			

授業概要	テキストは、保育園での生活を題材にしたものです。保育園での1年間の様子が描かれた英文を読み、園生活のさまざまな場面での保育者と子どもや保護者との会話に使われる英語表現を学習します。 この授業は、講義形式が基本です。講義に加えて、演習や発表を行います。各課の終了後には「小テスト」を実施し、理解状況を確認します。また、英語は言語であり、言語においては音声が重要であるという認識のもとに、発音練習やリスニング演習なども行います。		
授業計画	1	実力測定 今までの英語学習の振り返り	
	2	1 The School Year Begins 本文の読解	
	3	1 The School Year Begins 基本表現、演習	
	4	2 Arrival 本文の読解	
	5	2 Arrival 基本表現、演習	
	6	3 Playtime in the Classroom 本文の読解	
	7	3 Playtime in the Classroom 基本表現、演習	
	8	4 In the Sandbox 本文の読解	
	9	4 In the Sandbox 基本表現、演習	
	10	5 In the Playground 本文の読解	
	11	5 In the Playground 基本表現、演習	
	12	6 Lunchtime 本文の読解	
	13	6 Lunchtime 基本表現、演習	
	14	7 Changing Clothes and Story Time 本文の読解	
	15	7 Changing Clothes and Story Time 基本表現、演習	
授業科目の目的	急速にグローバル化が進む現代社会において、幼稚園や保育所に日本語を母語としない外国人の園児が入園してくることもあり、英語を使う機会も増えています。保育の現場で必要な基本的な英語表現を身につけることを目的とします。また、英語を学ぶことを通じて、日本語の表現力の向上も目指します。		
学修成果	1. 保育園での生活に関する英文を読み、保育園に関する理解を深めることができますようにします。 2. 保育者と子どもや保護者との会話に使われる英語表現を身につけることができますようにします。 3. 保育者と子どもや保護者との会話に使われる英語表現を学ぶとともに、日本語との違いや日本語に対する意識も高め、表現力を向上させることができますようにします。 4. 「将来の職場」である園生活の具体的な場面を学習していく中で、未来の保育者という能動的な態度・意識を身につけることができますようにします。		
テキスト	新・保育の英語／森田和子／三修社／2,090円（ISBN 9784384333992）		
参考書	保育の英会話／赤松直子、久富陽子／萌文書林（ISBN 9784893470775） 保育英語の練習帳／宮田学、高橋妙子／萌文書林（ISBN 9784893471932）		
授業外学修	予習：授業内容進行表を参考にして、授業予定箇所をノートに写し、辞書を用いて分からない単語・熟語を調べ、本文の読解や演習問題を解いておいてください。この予習には90分～120分を要します。 復習：各单元ごとに、まとめの小テストを実施します。そのためにも、授業の終わった後に、必ず学習したことについての復習をしてください。特に分からない箇所については必ず分かるようにしてください。この復習には90～120分を要します。		

フィードバックの方法	授業のノート提出してもらい、点検します。その中で、ノートがしっかりと取れておらず、理解が不十分と思われる項目等について追加説明を行います。 単元ごとに小テストを実施し、次の授業時に返却します。その結果の分析から理解が不十分と思われる箇所については、再度説明を行います。 各単元の2回目の授業では、1回目の授業のフィードバックからはじめていきます。
定期試験の有無	有
成績評価基準	定期試験 60%、小テスト・ノート 30%、授業態度 10%で総合的に評価します。
受講の心構えとメッセージ	テキストと英和辞書、ノートを持参し、積極的に授業に取り組んでください。 辞書は電子辞書ではなく紙の辞書をできるだけ活用してください。 ノートは新しいA4版のノートを用意してください。 授業ノートのつくりかたについては最初の授業で指導します。
オフィスアワー	初回の授業時に曜日と時間はお伝えしますが、週1回、120分をオフィスアワーとしていますので、自由に研究室においでください。ただし、臨時の会議や出張などにより不在となる可能性もありますので、事前に声を掛けてくれると確実です。
実務経験の有無	有
実務経験の概要	高等学校に38年間勤務した実務経験があります。
その他の事項	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年	1単位（15時間）	選択
担当教員			
野畑 健太郎			
科目ナンバリング：1012A⑤	授業形態：演習		
添付ファイル			

授業概要	大学生として必要な基礎的知識・スキルと、保育者として求められる知識・スキルの向上を目指します。授業では、建学の精神に基づく人材の養成に資する大学の学修において求められる基礎的な知識・スキルの修得を「小論文」の授業（演習）を通して行います。「小論文」は、小論文を構成・作成・発表するという学修を通して、文章構成力、文章表現力、教養力などの向上を目指した授業（演習）を展開していきます。
授業計画	1 オリエンテーション ・本授業では、文章を構成・作成・表現する力が求められる分野において、専門的な知識やスキルを身に付け社会人基礎力・教養力を向上させることによって、卒業後も、キャリアアップという経歴を高める効果に繋がっていく演習の展開を試みるが、この試みについてのオリエンテーションを行う。 ・「小論文とは何か」についての説明と質疑・応答を演習の導入として行う。 2 小論文の基礎 [1] (1)原稿用紙の使い方 (2)小論文と作文の違い (3)小論文例の検討[1] 3 小論文の基礎 [2] (1)小論文のルール (2)「作文」的文章の検討 (3)小論文例の検討[2] 4 小論文の構成 [1] (1)基本的な書き方（3段構成） (2)小論文（3段構成）作成練習[1] (3)小論文例の検討[3] 5 小論文の構成 [2] (1)実践的文章構成のしかた (2)小論文（3段構成）作成練習[2] (3)小論文例の検討[4] 6 小論文の書き方 [1] (1)「書くべからず」文例[1] (2)小論文（3段構成）作成練習[3] (3)小論文例の検討[5] 7 小論文の書き方 [2] (1)「書くべからず」文例[2] (2)小論文（3段構成）作成練習[4] (3)小論文例の検討[6] 8 小論文の書き方 [3] (1)小論文の構成・書き方についてのまとめ (2)小論文例の検討[7] (3)小論文を書く
授業科目の目的	本学の建学の精神や3つのポリシー（アドミッション・カリキュラム・ディプロマ）に基づいたキャリアアップを図るために大学で求められる基本的な学修事項を学びます。卒業後の自分をイメージしながら、大学で学ぶべきこと、社会で活動するための基礎力を養うことが目的です。また、大学生として、社会人・保育者として必要な社会人基礎力や教養力を身につけることを目指します。
学修成果	1. 小論文の授業（演習）を通して、文章の構成力・作成力、表現力などの向上を図ることができるようにします。 2. 保育者を目指す大学生として必要な教養を身につけ、それを社会において活用することができるようにします。
テキスト	授業日前に教材を配信し、授業時に当該教材のコピーを配布します。
参考書	授業時、適宜紹介します。
授業外学修	1. [予習] 授業前に次回授業用「配信教材」を熟読し、教材中の質問事項について下調べしておいてください。予習では、「小論文」に関する基本的事項・重要事項を理解できるように熟読し、理解できない事項は検討課題として残して、授業に臨んでください。授業は、理解できた事項を確認し、理解できなかった事項について理解の助けとなる説明と練習を行うことを主眼とします。この予習には約90分から120分の学習時間を要します。 2. [復習] 授業で学んだ「小論文」（作成）に関する基本的事項・重要事項を復習し、授業で提出された課題（論題）について、小論文として構成し記指摘述できるようにしてください。返却された「課題」への自分の解答文について、担当教員によって添削（指摘）された箇所があれば、その箇所について相応の時間をかけて検討してみてください。この復習には約90分から120分の学習時間を要します。

フィードバックの方法	課題に対する答案等を返却する際に、助言を行い、弱点の補強を行います。また、授業中に受講生に共通する補強点を説明することで、補強点への理解を深めます。
定期試験の有無	無
成績評価基準	上記の学習成果について、答案等の成績、授業態度等により成績評価を行います。具体的には、答案等の成績70%、授業態度等30%として総合的に評価します。
受講の心構えとメッセージ	「小論文」の授業（演習）を通して修得されることは、大学の専門科目の学修においても、卒業後の職務の遂行においても、有用な社会人基礎力・教養力向上の礎石となるものです。毎回の授業において提出される課題には、主体的・積極的に取り組んでください。毎回の学びは、日常の生活の中でもすぐに実践できるものもあります。授業後には、授業内容を思い出しながら、配布教材をよく読み返し、より理解を深めてください。
オフィスアワー	オフィスアワーは、授業時にお知らせします。
実務経験の有無	無
実務経験の概要	
その他の事項	配布された教材等は、各自ファイルに綴じて冊子化してください。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1 年	1単位（15時間）	選択
担当教員			
原田 敬文、小西 浩美			
科目ナンバリング：1013B①⑤	授業形態：演習		
添付ファイル			

授業概要	将来の保育者として必要な知識・スキルを身に付けるために、保育現場でのインターンシップを行います。保育現場で、子どもの成長発達を観察しながら、「保育者」としての関わり方を学びます。保育者としての保育観察等を通して、実習や専門職に就くための力を付ける授業を展開します。実際にインターンシップで保育実践を体験し、その内容をディスカッションします。		
授業計画	1 オリエンテーション 保育者としての姿勢・心構え インターンシップ先の見つけ方 2 事前準備① 手遊び、読み聞かせの準備・練習 3 事前準備② 手遊び、読み聞かせの準備・練習 4 インターンシップ① 保育現場でのインターンシップ（半日以上） 5 インターンシップ② 保育現場でのインターンシップ（半日以上） 6 インターンシップ③ 保育現場でのインターンシップ（半日以上） 7 ふりかえり① 保育記録、体験発表 8 ふりかえり② 保育記録、体験発表、まとめ		
授業科目の目的	他の授業での学びをさらに深め、保育者になるということの魅力に触れ、将来の「保育者」としての資質向上に努めます。学生一人一人が、「保育」の営みに実際に触れることで本学の建学の精神や3つのポリシー（アドミッション・カリキュラム・ディプロマ）に基づき、自身のキャリアをさらに向上させ、保育者として必要なマナーや教養を身に付け、実践していくことを目的とします。		
学修成果	1. 社会人・保育者として、自身の課題を身に付け、その課題を解決することができるようにします。 2. 社会人・保育者として、子どもの成長発達を理解することができるようにします。 3. 社会人・保育者として、時代のニーズに合った保育計画を立て、実践することができるようにします。		
テキスト	授業の中でプリントを配布します。		
参考書	授業の中でプリントを配布します。		
授業外学修	予習としては、自身の保育者像を思い浮かべどのような保育者になりたいのか、今の自分の魅力とあわせ、何を身に付けていくべきなのかをまとめるようにしてください。 授業後には、復習として、配布された資料をよく読み返し、自分なりの保育者像を思い浮かべ、読み聞かせや手遊びの練習をしてください。予習復習には各々90分から120分程度を要します。		
フィードバックの方法	インターンシップでは毎回振り返りシートを記入し、担当教員へ提出します。その振り返りシートの返却の際に、実習や就職に向け、どのような学びを深めていくべきなのかなどをフィードバックします。		
定期試験の有無	無		
成績評価基準	上記の3つの学修成果について、インターンシップ、授業態度・意欲、課題提出により達成度を総合的に評価します。インターンシップ60%、授業態度・意欲20%、課題提出20%として総合的に評価します。		
受講の心構えとメッセージ	今後、保育者として社会で働く際に必要となる学びです。毎回の授業の課題のみならず、日常生活の中でも、しっかりアンテナを張ってください。 保育現場でのインターンシップを通じて「守られる人から守る人へ」と変容するための自身の成長につなげてください。		
オフィスアワー	Mellyで確認してください。		
実務経験の有無	無		
実務経験の概要			
その他の事項	配布されたプリント類は、各自ファイルに綴じてください。		

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2年	1単位（15時間）	選択
担当教員			
原田 敬文、西村 豊、稲田 達也、川端 義明			
科目ナンバリング：1014C⑤	授業形態：演習		
添付ファイル			

授業概要	社会人として必要な知識・スキルと、保育者として活躍するための知識・スキルの向上を目指します。本講では、「社会情勢の理解」「文章表現」「面接表現」の3つの分野から、建学の理念に基づく人材の養成を行うため、キャリアアップを図ります。「社会情勢の理解」は、時事問題をテーマに自分なりの考えをまとめたり、ディスカッションを行ったりすることで、社会を理解する力を養います。「文章表現」は、自身の考え方を論理的にまとめ上げ、文章表現し、校正する力を養います。「面接表現」は、自己理解を深め、自身の長所や短所を客観的に表現できる力を養います。これらを通して、実習や専門職に就くための力をつける授業を展開します。討論や実践などアクティブラーニングを取り入れます。		
授業計画	1	オリエンテーション 社会人になるための知識 ・スキルの向上 (社会情勢の理解、話し方・聞き方、小論文の書き方、履歴書の書き方、面接作法・技法)	
	2	社会情勢の理解 1 (講義及び情報収集) ○課題1 社会情勢について (コミュニケーション) ○課題2 「こども家庭庁」と「こども基本法」について (情報収集及び整理・講義) ○グループディスカッション・ディベートについての説明 (話し方・聞き方) ○振り返り	
	3	社会情勢の理解 2 (演習) ○「『こども家庭庁』の役割の概要」及び「『こども基本法』と『こども家庭庁』との関係」 (原稿作成) ○スピーチ原稿をもとにグループディスカッション ○ディベートに向けての準備 (グループワーク)	
	4	社会情勢の理解 3 (演習) ○人を説得する3つの要素 ロゴス パトス エトス ○論題「『幼保一元化』は早急に実現すべき課題である」 (ディベート) 振り返り (学び・自己他己評価) ○授業全体のまとめと振り返り	
	5	文章表現 1 自己PRの書き方の基本 (原稿用紙の使用法を含む) 履歴書の書き方 小論文の書き方	
	6	文章表現 2 自己PRの書き方の基本 (原稿用紙の使用法を含む) 履歴書の書き方 小論文の書き方	
	7	文章表現 3 自己PRの書き方の基本 (原稿用紙の使用法を含む) 履歴書の書き方 小論文の書き方	
	8	面接作法・表現 面接の作法・技法 敬語の使い方	
授業科目の目的	「キャリアアップⅠ」「キャリアアップⅡ」の学びをより深め、卒業後のビジョンを明確に持ち、社会の中で、自身の意見をきちんと表明し、より豊かな生活を送られるように、学生一人ひとりが、本学の建学の理念や3つのポリシー〈アドミッション・カリキュラム・ディプロマ〉に基づいた、自身のキャリアアップを目指します。		
学修成果	1. 社会人・保育者として、社会情勢を理解し、自分の意見をまとめ、討論することができるようにします。 2. 社会人・保育者として、自身の考えを論理的に文章にまとめ、スピーチできるようにします。 3. 社会人・保育者として、自身についての理解を深め、履歴書や経歴書、面接等で表現することができるようにします。		
テキスト	授業の中でプリントを配付します。		
参考書	授業の中で適宜紹介します。		
授業外学修	予習としては、時事問題でのディスカッションの準備として、ニュースをまとめたり、自身の履歴・経歴書の作成など、事前準備をしておいてください。 復習は、授業で学んだことを加筆したり修正を加えるなど、まとめに取り組んでください。予習復習は、各々120分程度を要します。		
フィードバックの方法	毎回の授業での課題やレポートの結果を返却する際に、教員から助言を行い、弱点の補強を行います。また、前回の学習内容を毎回の授業の冒頭で説明することで、理解を深めます。		
定期試験の有無	無		

成績評価基準	上記の３つの学修成果について、実技、小テスト、レポート提出、授業態度・意欲により達成度を評価します。「社会情勢の理解、話し方・聞き方」は、授業態度・意欲30%、課題・演習70%として総合的に評価します。「文章表現、面接作法・表現」は、授業態度・意欲30%、課題70%として総合的に評価します。 総合評価基準は、社会情勢の理解30%、文章表現30%、面接表現40%の割合で評価します。
受講の心構えとメッセージ	「社会情勢の理解、話し方・聞き方」、「文章表現、面接作法・表現」のどの分野も、社会人として必要なスキルであります。また、「先生」と呼ばれる職につく際には、自身の考えを論理的にまとめ上げる力も必要になります。各授業の復習としては、各回の授業で学んだ内容を400字程度で文章にまとめ読み返してください。そうすることで、読みやすい文章力を身につけることができます。
オフィスアワー	複数の教員が担当します。各教員のオフィスアワーは、Mellyで確認してください。
実務経験の有無	無
実務経験の概要	
その他の事項	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1年	2単位（30時間）	選択
担当教員			
室谷 雅美			
科目ナンバリング：2001B④	授業形態：講義	保必	
添付ファイル			

授業概要	児童虐待・子どもの貧困など親子関係が不安定な状況のなかにおいて、保育士として子どもの支援について考えます。保育士が特性を活かす主な児童福祉施設についてや具体的な支援のあり方を学び、実践につなげます。 さらに、現代社会における子どもの育つ環境を踏まえ、子ども家庭福祉の制度や課題について理解を深めます。 授業は、講義形式が基本です。講義に加えて演習や発表、板書を行います。内容によってはグループワークや討議を行います。双方向型の授業となります。		
授業計画	1	現代社会における子ども家庭福祉の意義と歴史的変遷 子ども家庭福祉の理念と概念	
	2	子ども家庭福祉の歴史的変遷 現代社会と子ども家庭福祉	
	3	子どもの人権擁護 児童の権利に関する条約の理解	
	4	子ども家庭福祉の制度と実施体系 子どもの福祉に関する法律	
	5	子ども家庭福祉の専門職 児童福祉施設の種類	
	6	子ども家庭福祉の現状と課題 少子化と地域子育て支援	
	7	母子保健と児童の健全育成 母子保健の意義	
	8	多様な保育ニーズへの対応 多様な保育ニーズに対応するためのしくみ	
	9	児童虐待・ドメスティックバイオレンスの防止 児童虐待・ドメスティックバイオレンスについて	
	10	社会的養護 社会的養護とは	
	11	障害のある子どもへの対応 障害児の福祉	
	12	少年非行等への対応 少年非行の状況	
	13	貧困・外国籍の子どもとその家庭への支援等 貧困の現状	
	14	次世代育成支援と子どもの家庭福祉の推進 次世代育成支援としての子ども家庭福祉	
	15	地域における連携・協働とネットワーク 保育の実践場面における「連携・協働」	
授業科目の目的	現代社会では、子どもや家庭を取り巻く環境は複雑です。保育者として子どもたちのおかれている環境を理解するとともに、子育て支援・子どもの貧困への取り組みなどを学び、保育士として必要な基本的知識の理解を深めます。		
学修成果	1. 現代社会における子ども家庭福祉の意義と歴史的変遷について理解することができるようになります。 2. 子どもの人権擁護について理解することができるようになります。 3. 子ども家庭福祉の制度や実施体系等について理解することができるようになります。 4. 子ども家庭福祉の現状と課題について理解することができるようになります。 5. 子ども家庭福祉の動向と展望について理解することができるようになります。		
テキスト	子ども家庭福祉入門／芝野松次郎・新川泰弘・宮野安治・山川宏和 編著／ミネルヴァ書房／2020年 (ISBN9784623088546) 福祉・保育小六法 2025年度版／福祉・保育小六法編集委員会 編／みらい／2025年 (ISBN9784860156497)		
参考書	施設実習必携ハンドブックおさえてたいポイントと使える専門用語解説―／新川泰弘・渡邊慶一・山川宏和 編著／晃洋書房／2024年 (ISBN978-4-7710-3817-2) 保育所保育指針解説／厚生労働省／フレーベル館／2018年 (ISBN978-4-577-81448-2)		
授業外学修	予習：授業の中で、予習課題を出します。テキストやインターネット、参考図書等で調べることが必要なもの		

	のもあります（所要時間90分から120分）。 復習：授業の中で、復習課題を出します。授業中の説明や、テキスト等を用いて、整理するようにしてください（所要時間90分から120分）。
フィードバックの方法	前回の授業の振り返りを、授業の始めに行います。その際に、各自家庭で復習した内容の質問に対して、教員が説明します。前回までの学習内容を十分に理解したうえで、毎回の授業を始めます。
定期試験の有無	有
成績評価基準	定期試験(60%)、提出物(30%)、講義への参加の態度等(10%)により総合的に評価します。
受講の心構えとメッセージ	子ども家庭福祉は、保育者になる皆さんが、子どもたちのおかれている環境を理解し、子ども家庭福祉に寄与できることを目的に学習を進めます。そのためには、日ごろから子どもを取り巻くニュースなどに関心を持つことが必要です。インターネットやテレビのニュースを要約してノートにまとめておく等をおすすめします。また、それらの内容を受講生同士で話し合うことで、理解がより深まります。 毎回の授業後には、配付したプリントやテキストでキーワードを見直しておいてください。
オフィスアワー	曜日と時間は初回の授業時にお伝えしますが、授業後90分をオフィスアワーとしています。会議や出張などにより不在となる可能性もありますので、事前に先生と時間調整するようにしてください。
実務経験の有無	有
実務経験の概要	高等学校に12年間勤務した実務経験があります。
その他の事項	授業で配付するプリントは、各自でファイルしてください。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1年	2単位（30時間）	必修
担当教員			
大西 清文			
科目ナンバリング：2002B④	授業形態：講義	保必	
添付ファイル			

授業概要	みなさんが目指す保育士、その職場となる保育園・児童福祉施設などは、福祉全体からみると児童福祉の領域になります。また保育士は児童福祉の専門性を持った国家資格であり、子どもだけでなく、子どもの養育者への指導・支援や地域の子育て支援など子どもに関連する多様なニーズへの対応が求められています。 そのために、広く福祉全般を学ぶ科目が社会福祉論になります。そもそも福祉とは何なのか、現在の福祉制度はどのようなになっているのか等の理解とともに、福祉の相談援助の方法と技術を学ぶ必要があります。さらに、老後の生活資金となる年金のこと、障害者支援の制度、最後のセーフティネットと呼ばれる生活保護のことなど、人の生活に直結する制度について広く学習することができます。 近年の社会状況や問題を踏まえながら、学習内容が理解できるよう、昨今の事例などを活用しながら講義を進めていきます。		
授業計画	1	社会福祉の理念と歴史的変遷 社会福祉の概念と理念 社会福祉の歴史的変遷 社会福祉の現代的課題	
	2	子ども家庭支援と社会福祉 社会福祉の専門職としての保育士 保育所を中心とした子ども家庭支援	
	3	社会福祉の制度と法体系 社会福祉における法制度と具体的内容	
	4	社会福祉行財政と家庭機関、社会福祉施設等 福祉事務所・児童相談所 福祉財政	
	5	社会福祉の専門職 社会福祉の専門性 国家資格 児童福祉の専門職	
	6	社会保障および関連制度の概要 社会保障制度 生活保護制度	
	7	相談援助の理論 相談援助の理論の体系化と発展 保育所・児童福祉施設におけるソーシャルワーク	
	8	ソーシャルワークの意義と機能 ソーシャルワークの特徴と原則 人と問題の視点 人権 多様性（ダイバーシティ）	
	9	ソーシャルワークの対象と過程 保育におけるソーシャルワーク 対象：児童・保護者・地域 ソーシャルワークのプロセス	
	10	ソーシャルワークの方法と技術 保育の専門性を生かしたソーシャルワーク ソーシャルワークにおける方法と技術	
	11	社会福祉における利用者の保護にかかわるしくみ 利用者の権利擁護と苦情解決 第三者評価 法定成年後見制度	
	12	少子高齢社会における子育て支援 少子化の現状と要因 少子化の対策と保育所の役割	
	13	共生社会の実現と障害者施策 障害の捉え方 障害者の現状 共生社会・インクルージョン	
	14	在宅福祉・地域福祉の推進 地域福祉の概念	
	15	諸外国の社会福祉の動向	

	社会福祉と福祉国家
授業科目の目的	社会福祉に関する理念や法律・制度やその対象者に関する学習から、社会福祉・児童福祉分野での保育士の位置づけを理解するとともに、福祉課題を抱えた児童や家族などの支援を行うソーシャルワークについての学習を通して、保育士に求められる役割の理解を深める。
学修成果	1 現代社会における社会福祉の意義、歴史的変遷及び社会福祉における家庭支援を理解することができる。 2 社会福祉の制度や実施体系について理解することができる。 3 社会福祉における相談援助について理解することができる。 4 社会福祉における利用者保護に関わる仕組みを理解することができる。 5 社会福祉の動向と課題について理解することができる。
テキスト	社会福祉 第2版／松原康雄, 坪洋一, 金子充 編／中央法規／2022年 保育福祉小六法／保育福祉小六法編集委員会 編／みらい／2025年
参考書	
授業外学修	この授業は、授業科目の目的や学修成果を読むと分かりますが、情報量がとても多くなっています。このボリュームの内容を理解するためには、予習・復習にしっかりと取り組まなければなりません。授業中に、今回の復習ポイント、次回の予習ポイントを説明します。90～120分の時間を必要とします。
フィードバックの方法	授業始めに、前回の授業やレポートの講評などから始めます。
定期試験の有無	有
成績評価基準	授業態度10%、レポート・小テスト等30%、定期試験60%により総合的に評価します。
受講の心構えとメッセージ	みなさんが日頃利用している社会福祉は何ですか？この授業では、あなたが利用している福祉制度をはじめとして、子ども、障がい者、高齢者、ひとり親、貧困状態など人生の様々な状況において、その人たち一人ひとりが「幸せに暮らすこと」、そしてそのための法律や制度が膨大に出てきて、実に情報量が多い学習です。その情報量の多さは、福祉の広さを理解できる唯一の授業である事を意味しています。また、みなさんの人生にもつながる「福祉」でもあります。その理解を深めていけるように、日頃から予習・復習に努めましょう。授業計画を参考にしながら、テキストの内容を整理しておくことは大切です。
オフィスアワー	授業、会議、出張などにより不在となる場合を除き、随時オフィスアワーとして対応します。メリーや事前の声掛けを貰えると確実です。
実務経験の有無	有
実務経験の概要	社会福祉施設等に18年間勤務した実務経験があります。
その他の事項	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2年	2単位（30時間）	選択
担当教員			
室谷 雅美			
科目ナンバリング：2003C④	授業形態：講義	保必	
添付ファイル			

授業概要	子育て中の家庭が抱えている不安や課題を探りながら、子育てを取り巻く環境を理解し、保育士の行う子どもの家庭支援の意義や目的について学んでいきます。家庭の在り方や子育て上の課題が多様になっている社会状況を踏まえて、保育士が行う家庭支援の意義と基本を理解していきます。 子育て家庭に対する支援の意義と目的、様々な子育て家庭のニーズに応じた支援の実施体制、子育て家庭に対する支援の方法等についても学んでいきます。適宜グループワークを実施し、意見交換をします。		
授業計画	1	子ども家庭支援の意義と役割 子ども家庭支援の意義 少子化社会対策と子育て支援	
	2	子ども家庭支援の目的と機能 子ども家庭支援の機能 保育士等がめざす「子ども家庭支援」とは	
	3	子育て支援施策・次世代育成支援施策の推進 子育て支援施策・次世代育成支援の背景 子ども・子育て関連3法の成立過程	
	4	子育て家庭の福祉を図るための社会資源 社会資源とは何か 子育て家庭を支える社会資源と担い手	
	5	保育の専門性を生かした子ども家庭支援とその意義 保育の専門性を生かした子ども家庭支援とその意義 保育所保育指針にみる「子育て支援」	
	6	子どもの育ちの喜びの共有 保育所保育指針の内容 連絡帳 園だより	
	7	保護者および地域が有する子育てを自ら実践する力の向上に資する支援 地域の子育て家庭を取り巻く環境 保育所を利用している保護者に対する支援	
	8	保育士に求められる基本的態度 受容的関わり・自己決定の尊重・秘密保持等 バイスデックの7原則	
	9	家庭の状況に応じた支援 家庭の状況に応じた支援とは	
	10	地域の資源の活用と自治体・関係機関等との連携・協力 子ども家庭支援と地域の資源の活用	
	11	子ども家庭支援の内容と対象 さまざまな子ども家庭支援の対象 相談援助技術を活用した子ども家庭支援	
	12	保育所等を利用する子どもの家庭への支援 家庭がかかえる生活課題と保育所等の役割 事例を通した子ども家庭支援の理解	
	13	地域の子育て家庭への支援 地域の子育て家庭への支援 保育所における地域の子育て家庭に対する支援	
	14	要保護児童およびその家庭に対する支援 要保護児童の全体像 要保護児童とその家庭的背景	
	15	子育て支援に関する課題と展望 子育て支援ニーズの多様化 子ども家庭支援に関する現状と課題	
授業科目の目的	保育の専門性を活かした、子育て家庭に対する支援の意義・目的を理解し、現代の家族を取り巻く社会状況の特質や子育て家庭の抱える困難を理解するとともに、子育て支援政策の考えを吟味し、子育て家庭支援に求められているものは何かを検討することができることを目的とします。子育て家庭に対する支援の体制と、多様なニーズに応じた支援の展開、子ども家庭支援の現状、課題について理解し、家庭の状況に応じた支援ができることを目的とします。		
学修成果	1. 保育士が行う、子育て家庭に対する支援の意義・目的を理解することができるようになります。 2. 保育の専門性を生かした子ども家庭支援の意義と基本について理解することができるようになります。 3. 保育の専門性を生かした子ども家庭支援の具体的な取り組みについて理解することができるようになります。		

	4. 子育て家庭に対する多様な制度について理解することができるようになります。 5. 子ども家庭支援の具体的な展開について理解することができるようになります。 6. 子育て家庭のニーズに応じた多様な支援の展開と子ども家庭支援の現状・課題について理解することができるようになります。
テキスト	子ども家庭支援・子育て支援入門／才村純・芝野松次郎・新川泰弘 編著／ミネルヴァ書房／2021年 (ISBN978-4-623-09222-2) 福祉・保育小六法 2024年度版／福祉・保育小六法編集委員会 編／みらい／2024年 (ISBN9784860156497)
参考書	新・基本保育シリーズ 子ども家庭支援論／松原康雄・村田典子・南野奈津子 編集／中央法規／2019年 (ISBN978-4-8058-5785-4)
授業外学修	予習：各回の授業内容について、該当するテキストの箇所を読み、内容を整理しておいてください。この予習には90分から120分程度の学習時間を要します。 復習：復習には、授業内容を振り返り、学んだことを理解できたか確認をします。この復習には、約90分から120分の学習時間を要します。
フィードバックの方法	レポート課題は、次週以降にグループで確認し合い、理解が不十分な点は教員から説明をし、補足していきます。
定期試験の有無	有
成績評価基準	定期試験(60%)、提出物(30%)、講義への参加の態度等(10%)により総合的に評価します。
受講の心構えとメッセージ	日常生活の中から子育て家庭を取り巻く問題や課題を知り、社会の動きを普段から敏感に感じ取り、家庭支援・子育て支援を支える保育者の役割について考えることを心がけましょう。
オフィスアワー	曜日と時間は初回の授業時にお伝えしますが、授業後90分をオフィスアワーとしています。会議や出張などにより不在となる可能性もありますので、事前に先生と時間調整するようにしてください。
実務経験の有無	有
実務経験の概要	高等学校に12年間勤務した実務経験があります。
その他の事項	授業で配付するプリント類は、各自でファイルしてください。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年	2単位（30時間）	選択
担当教員			
大西 清文			
科目ナンバリング：2004A④	授業形態：講義	保必	
添付ファイル			

授業概要	生涯発達と心理、家族・家庭の意義や役割、子育て家庭を取り巻く状況や構成員のライフコース、多様な家庭の理解、子どもの精神保健についての学びを深めます。生涯発達に関する心理学の基礎的な知識を習得し、初期経験の重要性や発達課題等について学びます。家族・家庭の意義や機能を把握するとともに、親子関係や家族関係等について発達の観点から理解し、子どもとその家庭を包括的に捉える視点を習得します。子育て家庭を取り巻く社会的状況と課題についても学びます。講義を中心としつつ、内容に応じてグループワーク等を実施します。		
授業計画	1	発達理論について 発達理論の学びについて	
	2	乳児期の発達 胎児期の発達 乳児期の基本的な発達の特徴	
	3	幼児期の発達 幼児期の前期・後期の発達	
	4	学童期の発達 自己発達・自尊感情	
	5	青年期の発達 身体的変化・自尊感情 道徳性 アイデンティティ	
	6	成人期・老年期の発達 親密な対人関係の構築 身体的変化 ウェルビーイング 死との対峙	
	7	家族・家庭の理解 家族・家庭の意義と機能	
	8	親子関係・家族関係の理解 統計からみる親子関係 友達親子 親子の諸問題	
	9	子育ての経験と親としての育ち 少子化と世帯構造の変化 ワンオペ育児 男性の子育て	
	10	子育てを取り巻く社会的状況 経済・社会の変化 少子化・未婚/晩婚/非婚 日本社会の変化とこれからの子育て	
	11	ライフコースと仕事・子育て 結婚・仕事・子育てを巡るライフコースの変化	
	12	多様な家族とその理解 家族の状況と困りごと（共働き・ひとり親・外国にルーツ他）	
	13	特別な配慮を要する家庭 子どもの貧困・虐待	
	14	子どもの生活・生育環境とその影響 生態学的システム論 ジェノグラム・エコマップ レジリエンス	
	15	子どもの心の健康に関わる問題 気になる子どもの癖や行動 発達障害	
授業科目の目的	子どもの発達、学びの過程や特性に関する内容を体系的に理解するとともに、子どもと家庭に関して包括的に理解することを目的とします。また、各発達段階においての特徴を知り、それぞれの時期に必要な保育者とかかわりについて理解を深めることを目的とします。さらに、家族や家庭の概念、意義と機能について学び、家族・家庭の理解や子育て家庭に関する現状と課題を理解することを目的とします。 発達の観点から子どもとその家庭を包括的に捉える視点を習得し、現代社会の課題や子どもの精神保健についても理解を深めます。		
学修成果	1. 発達に関する心理学的な基礎を学び、初期経験の重要性、発達課題等を理解し説明することができるよ		

	うにします。 2. 発達の観点を持ちながら、家族関係・親子関係・その課題を包括的に理解することができるようにします。 3. 子育て家庭をめぐる現代の社会的状況と、子どもの精神保健とその課題について理解し論じることができるようにします。 4. 家庭・家族、親子関係・家族関係について、生涯発達に関する心理学の基礎的な知識を活用しながら、その現状や課題について説明することができるようにします。 5. 生涯発達に関する心理学の基礎的な知識を学び、発達課題や精神保健の観点を活かし、親子関係・家族関係を包括的に捉え、子育てをめぐる現代社会の状況を理解することができるようにします。
テキスト	子ども家庭支援の心理学/藪中征代・玉瀬友美 編著/萌文書林/2022年 (ISBN978-4-89347-372-1) 保育福祉小六法2024年版/保育福祉小六法編集委員会編/みらい/2024年 保育所保育指針解説/厚生労働省/フレーベル館/2018年 (ISBN978-4-577-81448-2) 幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説/内閣府・文部科学省・厚生労働省/フレーベル館/2018年 (ISBN978-4-577-81449-9) 幼稚園教育要領解説/文部科学省/フレーベル館/2018年 (ISBN978-4-577-81447-5)
参考書	
授業外学修	予習：各回の授業内容について、該当するテキストの箇所を読み、内容を整理しておくこと。この予習には90分から120分程度の学習時間を要します。 復習：授業内容を振り返り、学んだことを理解できたか確認をします。この復習には、90分から120分の学習時間を要します。
フィードバックの方法	レポート課題は提出内容を確認後、理解が不十分な点を教員から説明・補足していきます。
定期試験の有無	有
成績評価基準	定期試験(60%)、提出物(30%)、講義への参加の態度等(10%)により総合的に評価します。
受講の心構えとメッセージ	生涯発達の観点から発達のプロセスや初期発達の重要性について理解し、保育との関連性について考え、子どもの発達段階ごとの特徴と重視すべき課題について理解を深めましょう。子育て家庭に関する現状と課題を把握し、子育てを取り巻く社会的状況と課題について理解を深めことを心がけましょう。授業の予習復習のほかに、日常でも子育てを取り巻くニュース等に関心を持つよう心掛けましょう。
オフィスアワー	授業、会議、出張などにより不在となる場合を除き、随時オフィスアワーとして対応します。メリーや事前の声掛けを貰えると確実です。
実務経験の有無	有
実務経験の概要	社会福祉施設等に18年間勤務した実務経験があります。
その他の事項	授業で配布するプリント類は、各自ファイルしておくこと。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2年	1単位（15時間）	選択
担当教員			
森本 良孝			
科目ナンバリング：2005D③	授業形態：講義	幼免選、保選	
添付ファイル			

授業概要	乳幼児期の健康に関する幅広い知識と個々の発育・発達の状態に合った配慮の仕方、子どもが健康でたくましく育つための具体的方法について、現代社会の子どもを取り巻く生活環境にも目を向けながら子どもの積極的な健康指導を学んでいきます。授業の進め方は、講義形式を主として進め、適宜、グループワークやディスカッション等を行います。必要に応じて追加資料を配布しますが、資料は授業内容の理解を助け、更に発展的内容を示しています。		
授業計画	1 乳幼児と健康 健康の概念の理解と領域「健康」における健康の考え方について 2 乳幼児期の発育・発達 乳幼児期の発育・発達の特徴について 3 乳幼児期の基本生活習慣について 4 乳幼児期の食育について1 食育とは何か、一人一人への食育の大切さ 5 乳幼児期の食育について2 食生活の現状と問題点について 6 保育実習における安全管理と安全教育について 7 園における体調不良発生の対応について 8 園における安全な日常生活の管理		
授業科目の目的	乳幼児期は、生涯にわたって必要となる健康な心と身体の基礎を作る重要な時期である。子どもの健康を守り育てるためには実際の保育現場で子どもの発達をどのように捉え、どのような内容について、どのように指導し支援するのが効果的かについて積極的に関与し、子どもの個々の健康状態を評価する能力を養うことを目的とする。		
学修成果	1. 領域「健康」のねらいと内容が理解できるようにします。 2. 乳幼児期の発育・発達について理解できるようにします。 3. 乳幼児期の基本的生活習慣と健康について理解できるようにします。 4. 乳幼児期の食育について理解できるようにします。 5. 園における健康管理や安全管理について理解できるようにします。		
テキスト	健康論／豊岡短期大学通信教育 幼稚園教育要領解説／文部科学省／フレーベル館 保育所保育指針解説書／厚生労働省／フレーベル館 幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説／内閣府・文部科学省・厚生労働省／フレーベル館		
参考書	授業内で適宜紹介する。		
授業外学修	予習：毎回授業内で予習課題を出します。図書館を利用して調べて授業準備をしましょう。（所要時間90分から120分） 復習：毎回授業内で復習課題を出します。授業内容や新聞、図書館を利用し、整理して述べられるようにしましょう。（所要時間90分から120分）		
フィードバックの方法	授業の始めに、前回の授業のフィードバックから始めていきます。		
定期試験の有無	有		
成績評価基準	受講態度 20%：保育者を目指すものとして、自律した学ぶ姿勢・行動であるかを基準とする。 課題 30%：補助評価シート（ワークシート）を用いたプレゼンテーションの内容とその姿勢を基準とする。 定期試験 50%：授業で取り扱った内容について、保育者としての視点から深く論じることができているかどうかを基準とする。 上記3領域の配分により100点満点で評価し、60点以上を合格とする。		
受講の心構えとメッセージ	日頃から乳幼児の健康に関するニュースや新聞記事などに関心を持ち、現代の子どもたちがどのような健康状態にあるのかを把握しながら受講してください。 また、心と体の健康は相互に関連しあっていることを認識し、実践と理論の結びつきを図りながら、意欲的に保育者としての感性を磨いてください。		
オフィスアワー	初回の授業時に曜日と時間はお伝えしますが、週1回、90分をオフィスアワーとしていますので、自由にお越しください。ただし、臨時の会議や出張などにより不在となる可能性もありますので、事前に声をかけてくれると確実です。		

実務経験の有無	有
実務経験の概要	小学校に21年間勤務した実務経験があります（幼稚園長3年間含む）。
その他の事項	必要に応じて参考になるプリントを配付しますので、ファイルしておいてください。講義の終わりに次回までの予習する内容と講義の振り返り内容などを示します。予習復習を行って講義に臨んでください。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2年	1単位（15時間）	選択
担当教員			
大西 由美子			
科目ナンバリング：2006C①	授業形態：講義	幼免選、保選	
添付ファイル			

授業概要	子どもを取り巻く環境は様々であり、その中で子どもたちは生活をしています。具体的な環境例を示しながら、環境と子どもの発達の関係性を考えていきます。また、環境を通して行う保育の意味を学習し、保育者自身が保育環境をデザインする力を身に付ける必要があります。そのために様々な環境との出会いに気づき、子どもの生活に視点をおきながら学びを深めていきます。授業の進め方は、双方向授業(グループワーク、ディスカッション、発表全体交流、実技の模擬保育と環境構成に関する作品づくり)と講義型授業(実技指導も行う)を行います。
授業計画	1 環境の定義 環境という言葉、環境の定義 環境を通して行う保育の意味 2 領域「環境」の位置づけ ねらい・内容 内容の取扱 指導計画 3 保育における環境（保育と環境） 人的環境・物的環境 自然環境、社会・文化環境 4 幼児の身近な環境との関わり 室内・室外 文字・標識・数量・図形 5 行事 1. 季節の行事 2. 地域の行事 6 地域・施設との関わり 各施設の訪問 国際理解 7 地域探検 住んでる町を知ろう 8 保育者としての専門性の向上 専門性の向上と保育マインド
授業科目の目的	乳幼児期の子どもの発達と環境について考えてみることで、乳幼児の保育を展開していくときにどのような保育環境が必要となるのか、また、そうした保育環境はどのようにすれば構成していけるのかについて学んでいく。また、乳幼児期の子どもたちが通う保育施設における環境の大切さについても具体的に考えていく。
学修成果	1. 乳幼児期のこどもの発達と環境の関係性が理解できるようにします。 2. 環境を通して行う保育の意味が理解できるようにします。 3. 保育環境のデザインを実践できるようにします。 4. 様々な環境との出会いを理解することができるようになります。
テキスト	環境論/豊岡短期大学通信教育部 幼稚園教育要領解説/文部科学省・フレーベル館 2018年 幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説/内閣府/フレーベル館 2018年 保育所保育指針解説/厚生労働省/フレーベル館 2018年
参考書	秋田喜代美編 保育内容「環境」(株)みらい
授業外学修	予習：テキストの授業内容に該当する箇所事前に目を通し予習して、理解が深まるように準備して授業に臨んでください。(所要時間90分から120分) 復習：授業後には、テキストやプリントを見返し復習し、授業での学びを身に付けてください。(所要時間90分から120分)
フィードバックの方法	レポートは、授業内容の要点のまとめです。次週の授業で振り返り、さらに理解を深めてほしい内容については、再度授業内で取り上げ説明していきます。
定期試験の有無	有
成績評価基準	受講態度20%：保育者を目指すものとして、自律した学ぶ姿勢・行動であるかを基準とする。 課題30%：レポートや保育環境デザインなどの取り組み意欲や内容を評価する。 定期試験50%：授業で取り扱った内容について、保育者としての視点から深く論じることができているかどうかを基準とする。
受講の心構えとメッセージ	幼児期の子どもへの保育・教育の基本は、「環境を通して行う教育」とされています。幼児が意欲をもって主体的に環境に働きかけ、活動を展開できるようにするための環境構成の基本的な考え方や、年間を通しての具体的な活動等について学んでいきます。身近な自然について、日常的に興味・関心を持ち、環境にかかわる力が育つことを期待します。課題レポートは確実に提出するように心がけましょう。
オフィスアワー	初回の授業時に曜日と時間はお伝えしますが、週1回、90分をオフィスアワーとしていますので、自由にお越

	してください。
実務経験の有無	有
実務経験の概要	幼稚園・保育所・認定こども園に35年間勤務した実務経験があります。
その他の事項	教科書を使用します。忘れないようにすること。必要に応じて資料を配付します。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1年	1単位（15時間）	選択
担当教員			
栗岡 あけみ			
科目ナンバリング：2007B①	授業形態：講義	幼免選、保選	
添付ファイル			

授業概要	幼児を取り巻く人間関係の現代的特徴とその社会的背景および現代的課題について解説したうえで、乳児期に育つ人と関わる力の発達について学習します。 この授業は講義形式が基本ですが、調べ学習やグループワークなどアクティブ・ラーニングを適宜取り入れながら進めていきます。		
授業計画	1 領域「人間関係」 ねらいと内容領域の相補性（保育活動の総合性とは） 2 人間関係と取り巻く社会環境 1 少子高齢化家族の変化 3 人間関係と取り巻く社会環境 2 身近な環境の変容メディアの変化 4 人間関係をつむぐ子どもの発達 1 自立心、協同性の芽生え（育ち）／自己発揮と自己抑制の芽生え（育ち） 5 人間関係をつむぐ子どもの発達 2 規範意識と道徳性の芽生え（育ち）／ルール、決まり事の意味と意義 6 人間関係と子どもの遊び 遊びの中で育つ乳児の人間関係／遊びの中で育つ幼児の人間関係 7 人間関係と子どもの生活 家庭とのかかわりと子どもの発達／地域社会とのかかわりと子どもの発達 8 現代的な諸課題に対応した人間関係の課題 多様な文化的背景をもつ子ども／ちょっと気になる子ども／ジェンダー・フリーの保育		
授業科目の目的	現代の子どもの人間関係の育ちに影響を与えている社会的要因について理解し、幼児（保育）教育で保障すべき教育内容に関する知識や技能を身につけます。子どもを取り巻く他者や集団との関係、地域社会と一体になり、子どもが育つとは何かを考察し、乳幼児が人との多様な関わりを経験して育つことを理解します。		
学修成果	1. 領域「人間関係」のねらいおよび内容を理解し、他の領域との関係発達論的な視点から論じることができるようにします。 2. 子どもを取り巻く環境の変化について理解し、子どもが「自己肯定感」や「他者信頼関係」が持つ「レジリエンス」しなやかな心を育める人間関係へと成長する過程を理解でき、説明できるできるようにします。		
テキスト	人間関係論/豊岡短期大学通信教育 幼稚園教育要領解説/文部科学省/フレーベル館/2018年（ISBN978-4577814475）		
参考書	保育所保育指針解説/厚生労働省/フレーベル館/2018年（ISBN978-4577814482） 幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説最新版/内閣府・文部科学省・厚生労働省/フレーベル館/2018年（ISBN978-4577814499）		
授業外学修	予習：予習は各回の授業内容について、配付されたプリントを読み、内容を整理しておくこと。この予習には、90～120分程度の学習時間を要します。 復習：復習には、授業内容を振り返り、学んだことを理解できたか確認をします。この復習には、90分～120分程度の学習時間を要します。		
フィードバックの方法	前回の授業の振り返りを、授業の初めに行います。その際に、各自家庭で復習した内容の質問に対して、教員が説明します。前回までの学習内容を十分に理解したうえで、毎回の授業を始めます。		
定期試験の有無	有		
成績評価基準	定期試験(60%)、レポート(30%)、講義への参加の態度等(10%)により総合的に評価します。		
受講の心構えとメッセージ	子どもの人間関係を学ぶには、常日頃から、子どもの様子を観察する必要があります。その、観察によって得た事例をもとに、学習を進めることが有意義です。実習での子どもの様子、身近にいる子どもの様子を記録しておくことをおすすめします。		
オフィスアワー	曜日と時間は初回の授業時にお伝えしますが、授業後90分をオフィスアワーとしています。会議や出張などにより不在となる可能性もありますので、事前に先生と時間調整するようにしてください。		
実務経験の有無	有		
実務経験の概要	幼稚園に33年間勤務した実務経験があります。		
その他の事項	授業で配付する資料は、各自でファイルしてください。		

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年	1単位（15時間）	必修
担当教員			
田上 栄美子、井上 裕子			
科目ナンバリング：2008A③	授業形態：講義	幼免選、保選	
添付ファイル			

授業概要	領域「表現」における音楽表現に視点を置き、子どもが遊びや生活の中で表出させる素朴な表現を見出し、受け止め、共感することができる保育者としての感性を養います。また、子どもが表現する事の楽しさを見出す過程を理解し、子どもの豊かな感性や表現する力、想像力を育むための具体的指導法、そして音楽的知識を身に付けます。さらには家庭及び小学校の学びへの接続を理解し、その具体的な方法を修得します。
授業計画	1回 感性と表現に関する領域「表現」について、その概要 ・領域「表現」の理解と、音楽表現における子どもの発達過程、音楽表現の基礎知識 ・音楽表現に必要な音楽要素の理解と、子どもの発達に伴う声域についての理解 2回 体と表現、音と音階・記譜法 ・体の動きを理解し、動きを通して音楽を表現する過程の理解 ・イメージを表現する為の音や音階・記譜法の理解 3回 子どもの歌(童謡など)、音符と休符 ・日本の子どもの歌と歴史的背景の理解 ・童謡などについて、調性感やリズム感に視点を置いた分析 4回 五領域の関連を考慮した音環境、拍とリズム ・領域「表現」と他の領域との関連を考慮した音環境の理解 ・身体及び言葉の中のリズム、および拍の理解と実践 5回 豊かな表現を引き出す援助 ・保育実践における豊かな表現を引き出す援助のあり方についての理解 ・音素材を様々な組み合わせで表現する方法と実践 6回 指導案の理解と立案、コード（和音）の理解 ・部分指導案「身近な音をみつけて遊ぼう」の理解と立案 ・器楽演奏を表現豊かにするための、コード（和音）の理解と実践 7回 音楽表現及び保育の可視化、コード（和音）による音楽表現 ・ポートフォリオなどを活用した子どもの音楽表現を可視化するための手法と理解 ・保育現場に応じた音楽をコード（和音）で表現する方法の理解と実践 8回 音楽表現活動及び小学校教科「音楽」への繋がり、器楽演奏 ・家庭と園生活における子どもの音楽表現活動、及び小学校に繋がる学びの理解とまとめ ・楽器の取扱いと、器楽演奏の理解と実践
授業科目の目的	感性と表現に関する領域「表現」を理解し、子どもの音楽表現の姿やその発達を促す要因、子どもの音楽的感性や創造性を豊かにする様々な音楽表現遊びや環境構成など、音楽表現指導に関する専門的知識・技能・表現力を身に付けることを目的とします。
学修成果	・感性と表現に関する領域「表現」のねらいと内容、その取扱いを理解することができるようになります。 ・音楽表現に必要な音楽要素を理解することにより、子どもの表現活動を援助するための実践力を身に付けることができるようになります。 ・ポートフォリオなどによる音楽表現の可視化と指導案の立案を通して、現場に求められる実践力を身に付けることができるようになります。 ・音楽表現活動、及び小学校教科「音楽」への繋がり的重要性を理解することができるようになります。
テキスト	音楽表現論／豊岡短期大学音楽担当教員／豊岡短期大学 幼稚園教育要領解説／文部科学省／フレーベル館／ISBN:978-4577812457 保育所保育指針解説／厚生労働省／フレーベル館／ISBN:978-4577814482 幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説／内閣府・文部科学省・厚生労働省／フレーベル館／ISBN:978-4-577-81449-9
参考書	育ちと学びをつなぐ「幼保小連携教育」の挑戦 実践接続期カリキュラム／木村吉彦監修／ぎょうせい／ISBN:978-4324100844 こどものうた「簡易伴奏曲付き」／田中常雄監修 平島美穂他編著／圭文社／ISBN:978-4874460764 かんたんメソッド「コードで弾きたい」／細田淳子他著／カワイ出版／ISBN:978-4760940387 手あそび百科／植田光子編著／ひかりのくに／ISBN:978-4564603839 乳幼児教育・保育シリーズ 保育内容 表現／鈴木みゆき他編著／光生館／ISBN:978-4332701880 保育内容「表現」論／名須川知子他著／ミネルヴァ書房／ISBN:978-4623047178
授業外学修	授業内容進行表にはそれぞれの回のテーマが記され、修得していく内容が表されています。各テーマを参照し、予習したことをノートにまとめましょう（2時間）。 復習では、授業で学んだ内容をどのように深め、どう実践していくのかを、テキスト、参考書などを参考にまとめましょう（2時間）。
フィードバックの方法	授業の中での疑問や理解できなかった点、授業を通して気付いたこと、感想などについて、修正や再度の説明が必要な個所は次回の授業で解説します。小テストを実施した場合は次回の授業時に返却し、再度学修する必要がある場合は、随時授業中に取り上げます。レポートを課した場合は、コメントを付したのちに次回以降の授業時に返却します。定期試験の結果及び、実施課題の内容評価については、成績公表後、希望すれば、各自が研究室に訪問した際にフィードバックします。
定期試験の有無	有

成績評価基準	授業態度(10%)、小テスト・レポート・実践課題の内容(40%)、定期試験(50%)により、総合的に評価します。
受講の心構えとメッセージ	この講義は、領域「表現」における音楽的基礎を身に付けるための、大変重要な授業です。7.5コマという少ない時間内でそれらを十分に理解するためには、授業外での学修が重要となります。使用するテキスト及び参考書を有効に活用し、予習、復習を怠らないでください。
オフィスアワー	初回の授業時に曜日と時間をお伝えします。事前に「melly」で予約をしてから来てください。
実務経験の有無	有
実務経験の概要	田上：小学校に38年間勤務した実務経験があります。 井上：リトミック指導員として、2017年より保育園で週に1回こどもたちにリトミック指導を行っています(現在に至る)。
その他の事項	各自、五線ノートを用意してください。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2年	1単位（15時間）	必修
担当教員			
大塚 貴之、三好 和幸			
科目ナンバリング：2009C③	授業形態：講義	幼免選、保選	
添付ファイル			

授業概要	幼児造形の指導・援助者として形や色等の造形の理論と指導について学習し、かく表現、つくる表現、そして造形あそびの領域と技法について、また、それに伴った材料、用具の特性と利用について、さらに美術の歴史的展開の概説及び幼児造形教育の変遷、今日の課題を学んでいきます。 授業の進め方はテキスト等をもとに、関連個所をまとめた資料、パワーポイント、書画カメラ等を利用しながら授業を進めていきます。
授業計画	1 オリエンテーション 幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園 教育・保育要領における「表現」領域を踏まえた幼児造形表現の学習 2 こどもの発達段階とかく、つくる、造形あそびの造形活動の意義 かく領域の発達段階とかく表現の特徴等 3 こどもの発達段階を踏まえた、かく、つくる、造形あそびの特徴と指導、援助、評価 各発達段階における、かく、つくる、造形あそびの特徴と指導、援助、評価等 4 かく活動における形態・色彩の理論 絵画技法、製作内容と材料・用具 形態・色彩・技法と材料用具等 5 つくる活動における技法と活用、つくる活動の素材（廃材）、製作内容と材料・用具 つくる活動の技法と材料用具等 6 造形あそびにおける各種表現技法、製作内容と材料・用具 造形あそびのオートマティズム・転写技法と材料用具 7 実践的な指導法の学習と情報機器及び教材の活用 各技法を通した製作のねらいと今日的な情報機器の活用 8 美術の歴史的展開の概説及び乳幼児造形教育の課題とまとめ 絵画史と幼児造形教育の思潮の変遷 振返り
授業科目の目的	保育の内容を踏まえ、幼児造形の指導・援助者として、造形の基本的な知識、形や色、材料、用具、表現技法等の造形の理論を学習し、手の動き・感性・造形的思考が一体となった造形活動を理解することを目的とします。
学修成果	1. 保育指導法「表現」のねらいと内容等に基づいた保育の基本について理解することができるようになります。 2. 乳幼児の表現活動の大切さと表現にともなう形、色、材質、手法、材料等について理解することができるようになります。 3. 乳幼児のかく、つくる造形活動について、発達段階を踏まえた材料や手法の取り扱いと指導援助について理解することができるようになります。
テキスト	造形表現論／岩田健一郎他／豊岡短期大学 幼稚園教育要領解説（最新版）／文部科学省／フレーベル館（ISBN 9784577814475） 保育所保育指針解説（最新版）／厚生労働省／フレーベル館（ISBN 9784577812426） 幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説（最新版）／内閣府・文部科学省・厚生労働省／フレーベル館（ISBN 9784577814499）
参考書	市販の幼児造形、造形に関する参考書
授業外学修	他の「造形」教科の実践する内容と関連させながら予習・復習を行い、理解を深めてください。また、その都度、指示する予習、復習も怠らないでください。予習復習は各々、90分から120分を要します。
フィードバックの方法	授業に関する不明点については、授業内または個別に解説する形で対応します。 小テストの結果は返却し、必要に応じて解説を行います。
定期試験の有無	有
成績評価基準	定期試験60%、課題・小テスト30%、受講姿勢10%で評価します。
受講の心構えとメッセージ	本授業は、幼児造形・こどもの指導法「造形表現」・こどもと造形を、理論的な切り口で学習を行う講義形式の授業です。幼児への造形指導・援助者を目指す皆様にとっては、他の「造形」教科の実践する内容と関連させながら学習を深めてください。
オフィスアワー	初回の授業で曜日と時間はお伝えしますが、週1回、90分をオフィスアワーにしています。図工室や研究室等で行いますが、内容は授業のことを始めなんでもかまいません。
実務経験の有無	無
実務経験の概要	
その他の事項	

講義科目名称： こどもと造形

授業コード： H2010A T2010A

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2年	1単位（15時間）	必修
担当教員			
大塚 貴之			
科目ナンバリング：2010D③	授業形態：演習	保必	
添付ファイル			

授業概要	幼児造形の指導・援助者として、形や色等の造形の基本的な理論をもとに、壁面装飾を想定したコラージュによる色彩構成及び粘土による素材体験と表現を主に、手の動き・感性・思考が一体となった製作体験を通して表現に対する理解を深める。このことを通して様々な素材と、かく、つくる、造形あそび活動に応用できる知識と技能を身につけます。 授業の進め方は「造形表現論」で学習した内容をもとに製作体験を行っていきます。		
授業計画	1 オリエンテーション（授業の目的）、保育の内容「表現」領域（感性と表現） 講義 2 かく活動の製作 壁面装飾を想定した製作 1（素材と構成） 製作にあたっての留意点（講義） 背景づくり（製作） テーマの設定と素材づくり 3 壁面装飾を想定した製作 2（構成・完成） テーマに沿った色彩構成（形、色、材質の対比） 4 つくる活動の製作・段ボールによる製作1（素材と構成） 製作にあたっての留意点 5 段ボールによる製作 2（完成） テーマに沿った構成（形、質感の対比） 6 つくる活動の製作・粘土による製作 1（素材の特性・成形） 彫塑の手法について 陶芸の手法について 土台づくり（板づくり） 紐づくりと成形 手びねりによる成形 7 粘土による製作 2（成形・着彩、完成） 完成（形） 着彩（つやだしニス） 完成 8 子どもの造形表現活動と指導法のまとめと今後の課題 手法体験と幼児造形教材の可能性と指導・援助		
授業科目の目的	保育の内容を理解し、造形の基本的な知識と特に手の動き・感性・思考が一体となった実践学習を通して造形感覚の基礎的陶冶を図る。また、乳幼児を含めたこどもの造形の指導・援助者として、造形教育の中で取り扱う教材に必要な知識や技能の習得を目的とします。		
学修成果	1. 保育指導法「表現」のねらいと内容等に基づいた保育の基本について理解できるようにします。 2. 乳幼児の表現活動の大切さと発達段階を踏まえた造形的な表現の特徴が理解できるようにします。 3. 乳幼児の造形表現活動の展開と援助のあり方を学び、保育者としての知識と技術を習得できるようにします。		
テキスト	「造形表現論」／岩田健一郎他／豊岡短期大学		
参考書	「幼稚園教育要領解説」（最新版）／文部科学省／フレーベル館（ISBN 9784577814475） 「保育所保育指針解説」（最新版）／厚生労働省／フレーベル館（ISBN 9784577812426） 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」（最新版）／内閣府・文部科学省・厚生労働省／フレーベル館（ISBN 9784577814499） 市販の幼児造形、造形に関する参考書		
授業外学修	予習復習には各々90分から120分の時間を要します。授業と関連する内容については書籍で調べたり、様々な造形作品を鑑賞しておいてください。課題が時間内に終わらなかった場合には、提出締め切りまでに復習を兼ね、じっくりと学習してください。		
フィードバックの方法	学生の製作を通して、体験を通してはじめて分かる各手法のポイント、幼児の教材としてのポイント等の留意点を振り返り押さえていきます。 課題製作について代表作品を取り上げ、振り返り、講評をします。		
定期試験の有無	有		
成績評価基準	受講姿勢10%、課題の内容40% 定期試験50%の割合で評価します。		
受講の心構えとメッセージ	「造形表現」は表現技術の巧拙よりも素材の特性を理解し、色や形を工夫をする積極的な製作姿勢が大切です。この保育者として、かく体験が子どもたちの表現の理解と共感する感性に繋がりますので、常に子どもの姿を浮かべながら思い切り元気よく製作してください。 また、授業時間外の学習として、子どもの造形表現のありようを地域の子どもたち、幼稚園等の現場で造形物や遊ぶ姿を観察し、発達段階と、かく表現の関係を理解していくことも心がけてください。		
オフィスアワー	初回の授業で曜日と時間はお伝えしますが、週1回、90分をオフィスアワーにしています。図工室や研究室等で行いますが、内容は授業のことを始めなんでもかまいません。		
実務経験の有無	無		
実務経験の概要			

その他の事項	粘土を使用する授業はエプロン等を準備してください。
--------	---------------------------

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年	1単位（15時間）	選択
担当教員			
川端 義明			
科目ナンバリング：2011A③	授業形態：演習	幼免選、保必	
添付ファイル			

授業概要	こどもの表現活動が年齢に応じて展開されていくことを理解し、表現遊びや運動の実践例からイメージを膨らませ、安全に楽しく表現遊びや運動が展開できる知識及び実践力を深めます。
授業計画	1 「0歳から15歳までを一体的に捉えた教育・保育のあり方を考える」保育者（指導者）としての視点 ○「なぜ？」を大切にしたい教育（なぜ「表現とこどもの運動」を学ぶのか）○受講における心構えと学びの視点 2 第1章「表現とこどもの運動」 第2章「表現とこどもの運動と発育発達」 ○「表現とこどもの運動」における資質能力の育成 ○心身の発育発達と運動の意義 3 第3章「こどもと運動」 ○基本動作と調整力 ○幼児にとっての運動の役割と効果 4 第4章「表現と運動遊びの実践例」 ○運動遊びの指導案作成 ○実技…音やイメージをもとにした表現活動及び運動遊びの実践 5 第5章「表現とこどもの運動における保育者の役割」 ○身体表現運動のねらいと人的環境としての援助の工夫 ○実技…様々な運動遊びと表現活動（グループ練習） 6 第6章「安全指導」 ○安全管理と安全教育 ○安全確保と家庭・地域との連絡体制 ○実技…様々な運動遊びと表現活動（グループ練習） 7 第7章「園外保育と野外活動」 ○園内・園外保育の教育的意義 ○実技…グループによる表現活動の発表会 8 授業のまとめと振り返り ○学びなおし（自分との対話・他者との対話・教育要領等との対話を通して） 理論と現場の子どもの事実をつなげるために！
授業科目の目的	本授業では、こどもたちが自分の思いや考えを他者に伝えるための様々な表現ができる環境設定の大切さを理解することを目的とします。また、年齢や環境に応じた動きや運動遊び、身体表現を通して、こども同士がどう工夫し、表現し、仲間とよりよくかかわっていくことができるかを発達段階に応じて展開させることを学びます。さらに、こどもたちが楽しく表現することができる安全面の配慮についての認識を深めることを目指します。
学修成果	1. こどもの表現活動における援助者の役割について理解し、人的環境の重要性、身体表現遊びや運動の留意点について理解することができるようになります。 2. 日常におけるこどもを取り巻く生活環境が大きく関係し、表現活動が豊かな感性に関連していることを理解するとともに、表現遊びや表現運動が5つの領域に相互に関わり合っていることを理解することができるようになります。 3. 運動遊びにおける表現や心身の健康など、援助者として発達段階に応じた援助の在り方を理解することができるようになります。
テキスト	表現とこどもの運動/豊岡短期大学
参考書	幼稚園教育要領解説／フレーベル館 保育所保育指針解説／フレーベル館 幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説／フレーベル館
授業外学修	予習として、各回の授業内容に学びのキーワードが設けられていますので、それに関わる資料等を熟読し、まとめておく。この予習には120分程度の学習時間を要します。 復習として、講義資料や授業内での口頭説明と参考書等を用いて、学びの要点をまとめておく。この復習には120分程度の学習時間を要します。また、授業外で家族や近隣の幼児と接し、こどもと体育の課題を探る意識をもつことを望みます。
フィードバックの方法	授業中の皆さんの疑問や気付き及び感想などの小レポートについて、他者の多様な考えを共有する時間を設定し、また、修正や再度の説明が必要な個所については次回の授業で口頭により説明していきます。
定期試験の有無	有
成績評価基準	授業態度20%、小レポート30%、定期試験50%により総合的に評価します。その評価基準は、以下のようになります。 1. 授業態度においては、「指示待ちではなく」授業の準備・片付けなど、主体的に学び取り組む姿勢、グループでのリーダーや周りへの配慮ができているか。 2. 小レポートでは課題について丁寧に記述でき、内容とともに自分の考えを述べられているか。 3. 定期試験では、指導者として現場に活かせる運動遊びの知識や技能を習得・理解できているか。
受講の心構えとメッセージ	この演習は、参加すること、実践を通した授業を受けてこそ意味があります。見学・欠席が無いように日頃の健康管理をしてください。

オフィスアワー	初回の授業時に曜日と時間はお伝えしますが、オフィスアワーは週1回90分です。事前に、「melly」を使って予約を取ってください。
実務経験の有無	有
実務経験の概要	小学校・中学校に36年間勤務した実務経験があります（幼稚園長3年間含む）。
その他の事項	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年	1単位（15時間）	選択
担当教員			
大塚 貴之			
科目ナンバリング：2013A③	授業形態：演習	保選	
添付ファイル			

授業概要	保育内容を踏まえて、幼児の造形活動の内容と指導法、材料・用具の取扱いや手法など、基礎的な知識と製作、さらに学生たちの振返りを通して、かく、つくる、そして造形あそびの活動を支援できる実践的な知識と技能を習得します。		
授業計画	1 オリエンテーション 授業の目的（幼児造形活動の意義と指導法） 成績について 2 保育の内容「表現」領域 造形あそびの手法研究と製作意義（デカルコマニー、糸引き絵） 幼児の表現の特徴と造形あそび 3 造形あそび（フロータージュによる表現） 手法の意義と実践 4 かく活動（フェルトペンによる表現） 手法の意義と実践 5 かく活動（パチックによる鬼の表現） 手法の意義と実践 6 つくる活動（小麦粉粘土による食物） 手法の意義と実践 7 かく活動（ICTによる表現） 手法の意義と実践 8 他の造形あそびの手法と材料・教材作成に関するまとめ 各種手法を学ぶ 幼児造形教材のまとめ		
授業科目の目的	保育内容を理解し、乳幼児の造形活動を支援する保育者として、発達段階を踏まえた環境設定、素材との関わり、手法などを理解するとともに、かく、つくる、そして造形あそびの活動を支援できる実践的な知識と技能を習得します。		
学修成果	1. 保育指導法「表現」のねらいと内容等に基づいた保育の基本について理解できるようにします。 2. 乳幼児の表現活動の大切さと発達段階を踏まえた造形的な表現の特徴が理解できるようにします。 3. 乳幼児の造形表現活動の展開と援助のあり方を学び、保育者としての知識と技術を習得できるようにします。		
テキスト	造形表現論／岩田健一郎他／豊岡短期大学		
参考書	幼稚園教育要領解説（最新版）／文部科学省／フレーベル館（ISBN 9784577814475） 保育所保育指針解説（最新版）／厚生労働省／フレーベル館（ISBN 9784577812426） 幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説（最新版）／内閣府・文部科学省・厚生労働省／フレーベル館（ISBN 9784577814499） 「造形表現」「造形」等に関する市販の書籍		
授業外学修	予習復習は各々90分から120分の時間を要します。授業ではすべての手法を経験できませんので、他の教材に関する製作や手法についても学習してください。予習としては次回の実践するテキストの関連箇所、復習としては、製作体験後に記述内容が理解できることもありますので予め目を通してください。課題が時間内に終わらなかった場合には、提出締め切りまでに復習を兼ね、じっくりと学習してください。		
フィードバックの方法	幼児造形に関わる手法の一部を学びますが、体験を通してはじめて分かる各手法の留意点と、幼児の教材としてのポイント等を授業後又は次の時間に振り返り、押さえていきます。		
定期試験の有無	有		
成績評価基準	受講姿勢10%、課題の内容40% 定期試験50%の割合で評価します。		
受講の心構えとメッセージ	子どもの造形的な活動は自ら主体的に楽しんで行います。本授業は幼児が実際行うことのできる手法等を通して実践学習をしていきますが、幼児造形の指導を目指す皆さんも手法の習得はもちろん、造形活動を楽しむ気持ちが、子どもたちの意欲に繋がることを意識してください。		
オフィスアワー	初回の授業で曜日と時間はお伝えしますが、週1回、90分をオフィスアワーにしています。図工室や研究室等で行いますが、内容は授業のことを始めなんでもかまいません。		
実務経験の有無	無		
実務経験の概要			
その他の事項	造形の授業を受けるに当たって、基本的な用具（絵具、筆等）は共同購入します。他の材料・用具は大学で準備します。 手法体験によっては衣服を汚す可能性がありますので、エプロン等の準備をしてください。		

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1年	1単位（15時間）	選択
担当教員			
長谷 雄一、小西 浩美			
科目ナンバリング：2014B③	授業形態：講義	幼免選、保選	
添付ファイル			

授業概要	言葉の機能を理解し、絵本・紙芝居・おはなし・ことば遊び等、子どもの言葉を育む言語教材である児童文化財への専門的知識を深めると共に、児童文化財の研究をとおして、その利用の仕方について理解します。さらに学童期へ繋がる言葉について理解を深めます。また、グローバル時代を生きていく子どもたちに日本の伝統文化の豊かさを伝え、日本語の美しさや豊かさを育む感性を、文化財を通して養います。外国との文化の違いを理解し、その違いを共に楽しめる保育のあり方を考えます。		
授業計画	1	ことばの機能と言葉の発達 人間とことば、幼児とことば 乳幼児期のことばの発達と保育者の役割	
	2	領域〈言葉〉のねらい及び内容 幼稚園教育要領、保育所保育指針における「言葉」の目的と内容 児童文化財とは。児童文化財を使った指導案の作成法	
	3	ことばを育てる児童文化財① わらべ唄、唱歌 想像力と絵本	
	4	ことばを育てる児童文化財② ごっこ遊び、劇あそび 紙芝居の歴史と扱い、実演	
	5	ことばを育てる児童文化財③ ペープサートDVD視聴 シアター（パネルシアター・エプロンシアターなど）	
	6	ことばを育てる児童文化財④ ことばに対する感覚を養う児童文化財 文字と音韻、ことばあそび	
	7	小学校国語につながる言葉の力 おはなし、文字環境と小学校国語につがる教材 日本語の美しさと伝統の豊かさを楽しむ感性と文化	
	8	グローバル時代における子どもの文化、共に楽しむ意識 グローバル時代を生きる子どもと多文化共生 言語に遅れがみられる子どもと共に楽しむ意識と方法 学習のまとめと振り返り	
授業科目の目的	1．幼稚園教育要領、保育所保育指針の「言葉」の内容を踏まえた上で、児童文化財が子どもの言葉の習得にどのように役立つのかを理解します。 2．保育の現場で使用される絵本、紙芝居、おはなし、ことば遊び等の児童文化財の特質にあった活用法を学びます。 3．日本独自の文化やその文化を育んできた日本語の美しさや豊かさを知り、保育に活用できる方法を学びます。 4．日本の文化を知ると共に、外国の文化との違いが、子どもの生活にどう影響しているかに気づき、言葉の発達に遅れがある子どもと共に楽しめる環境を整えられる工夫を考えます。		
学修成果	1．幼稚園教育要領・保育所保育指針における「言葉」の内容が理解でき、ことばを育む児童文化財について説明することができます。 2．ことばを育む文化財を使った指導法及び指導案の作成することができます。 3．児童文化財の特色と扱いを知り、保育に生かせます。 4．日本の伝統文化と外国の文化の違いなどを知り、国際的な視野を持って保育活動することができます。		
テキスト	保育所保育指針解説（最新版）／厚生労働省／フレーベル館／ISBN：978-4-577-81448- 幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説（最新版）／内閣府・文部科学省・厚生労働省／フレーベル館／ISBN：978-4-577-81449-9 幼稚園教育要領解説（最新版）／文部科学省／フレーベル館／ISBN：978-4-577-81447-5		
参考書	子どもの姿からはじめる領域・言葉／秋田喜代美、三宅茂夫監修、秋田喜代美、砂上史子編集／みらい／ISBN：978-4860155261 新訂事例で学ぶ保育内容領域言葉／無藤隆監修、宮里暁美編／萌文書林／ISBN：978-4893472595 演習児童文化／保育内容としての実践と展開／小川清美／萌文書林／ISBN：978-4893471444		
授業外学修	領域「言葉」のまとめをしておくこと（幼稚園教育要領・保育所保育指針）。 各授業において、予習・復習それぞれ120分程度の学修を要します。		
フィードバックの方法	授業の内容、課題や提出物に関する学生からの疑問点や質問については、授業内で振り返り等の時間を設定し学びを深めるために教員が説明していきます。		
定期試験の有無	有		
成績評価基準	定期試験60%、授業、課題・提出物に取り組む姿勢20%、課題・提出物20%で総合的に評価します。		

受講の心構えとメッセージ	日本の児童文化は、非常に豊かな児童文化財を持っています。それらは、日本語という独特の美しく繊細な言語によって育まれてきました。その伝統の豊かさ、美しさを知り、グローバル時代を生きる子ども達の言語を豊かに育むことができるように、保育者自身が感性を磨き、子どもとの関わりの中で使っていきましょう。聞くこと、共に楽しむことによって、子どもは言葉を獲得していきます。児童文化財を通して、子どもの言葉を引き出す方法を考えていきましょう。まず、あなたたちが楽しむこと、ワクワクすることが大切です。積極的な授業参加を望みます。
オフィスアワー	初回の授業時に曜日と時間はお伝えします。事前に、「melly」を使って予約を取ってください。
実務経験の有無	有
実務経験の概要	長谷：高等学校に5年間勤務した実務経験があります。 小西：幼稚園に39年間勤務した実務経験があります。
その他の事項	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2年	2単位（30時間）	選択
担当教員			
西村 眞佐乃、岸本 久美子			
科目ナンバリング：2015C②	授業形態：講義	保必	
添付ファイル			

授業概要	子どもの健康と保健の意義を理解し、子どもの心身の健康増進を図る保健活動の意義について学びます。また子どもの身体的な発育・発達や生理機能について学び、心身の健康状態について医学的知識の習得について学習します。さらに子どもの疾病とその予防および適切な対応について理解し、実践力を身に付けます。また、子どもの保健の授業では現代的な健康問題について理解し、子どもを取り巻く関係機関との連携・協働についても学習します。	
授業計画	1	子どもの心身の健康と保健の意義 1 ・保健活動の意義と目的
	2	子どもの心身の健康と保健の意義 2 ・子どもの出生と母子保健の意義
	3	子どもの心身の健康と保健の意義 3 ・現代社会における子どもの健康に関する現状と課題
	4	子どもの心身の健康と保健の意義 4 ・子どもの身体発育と運動機能の発達
	5	子どもの身体的発育・発達と保健 1 ・生理機能の発達と生活習慣
	6	子どもの身体的発育・発達と保健 2 ・地域における保健活動と子どもの虐待防止
	7	子どもの心身の健康状態とその把握 1 ・子どもの健康状態の観察と体調不良時の把握
	8	子どもの疾病の予防及び適切な対応 1 ・子どもの免疫の発達と感染症の特徴
	9	子どもの疾病の予防及び適切な対応 2 ・感染症の予防及び適切な対応
	10	子どもの疾病の予防及び適切な対応 3 ・救急疾患の特徴と適切な対応
	11	子どもの疾病の予防及び適切な対応 4 ・新生児の病気の特徴と対応
	12	子どもの疾病の予防及び適切な対応 5 ・アレルギー疾患の特徴と適切な対応
	13	子どもの疾病の予防及び適切な対応 6 ・慢性疾患の特徴と適切な対応
	14	子どもの心身の健康状態とその把握 2 ・保護者との情報共有と家族支援
	15	子どもの心身の健康状態とその把握 3 ・健康診断と関係機関との連携
授業科目の目的	子どもの健康と保健の意義や目的を理解します。各期における子どもの成長・発達について理解します。子どもの疾病や予防方法、子どもの健康状態の観察について理解し、心身の健康保持のための適切な対応、支援について理解します。	
学修成果	1. 子どもの心身の健康増進を図る保健活動の意義を理解できるようになります。 2. 現代社会における子どもの健康に関する現状と課題を理解し、論じることができます。 3. 子どもの心身の疾病等と適切な対応について理解し、説明できます。 4. 個別にきめ細やかな配慮が必要な子どもの健康について考え、理解できるようになります。 5. 保護者との情報共有、子どもを取り巻く関係機関との連携・協働の下での適切な対応について、自ら実践できるようになります。	
テキスト	子どもの保健テキスト改訂第3版／小林美由紀編／診断と治療社／ISBN978-4787825315 保育所保育指針解説(最新版)/厚生労働省/フレーベル館／ISBN978-4577814482	
参考書	保育所における感染症対策ガイドライン（2018年改訂版）/厚生労働省 保育所におけるアレルギー対応ガイドライン（2019年改訂版）/厚生労働省 教育・保育施設等における事故防止及び事故発生時のためのガイドライン（平成28年3月）	
授業外学修	予習：テキストを熟読し、問いかけに対して答えられるようにまとめておいてください。（2時間） 復習：授業での口頭説明やテキスト、補助資料等を用いて、学びの要点をまとめておきます。（2時間）	

	予習・復習は、各授業毎にそれぞれ必要です。
フィードバックの方法	授業の初めに、前回の授業のフィードバックから始めていきます。また理解が不十分な点や再度の説明が必要な個所は授業で説明していきます。
定期試験の有無	有
成績評価基準	授業態度10%、課題、レポート提出30%、定期試験60%により総合的に評価します。
受講の心構えとメッセージ	子どもの保健は、保育者としてだけではなく自分自身や家族の健康にも役立つ重要な授業です。現場で役に立つテキストに沿って授業を進めていきます。また、今日的な健康問題や課題についての資料を用います。課題やレポートで授業の振り返りを行います。意欲的に授業に取り組んでください。
オフィスアワー	初回の授業時に曜日と時間を伝えます。
実務経験の有無	有
実務経験の概要	西村：小学校・中学校に40年間、養護教諭として勤務した実務経験があります。 岸本：高等学校に39年間、養護教諭として勤務した実務経験があります。
その他の事項	必ずテキストを持参してください。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2年	1単位（15時間）	選択
担当教員			
西村 眞佐乃、岸本 久美子			
科目ナンバリング：2016D①	授業形態：演習	保必	
添付ファイル			

授業概要	講義と実技・演習で実践に役立つ知識と技術を習得できるように進めます。 子どもの心身の不調や病気・事故発生について学び、支援方法や救急処置などを具体的な対応を学び、実践へとつなげます。 個別的な配慮を要する子ども等への対応、保護者支援について園内、関係機関や他職種との連携ができるように演習します。		
授業計画	1	保育における健康及び安全の管理 ・子どもの健康と保育環境 ・子どもの保健に関する個別対応と集団全体の健康および安全の管理 ・衛生管理 ・事故防止および安全対策 ・危機管理と災害への備え	
	2	子どもの体調不良等に対する適切な対応 1 ・体調不良や傷病が発生した場合の対応	
	3	子どもの体調不良等に対する適切な対応 2 ・応急処置 ・救急処置及び救急蘇生法の理解	
	4	子どもの体調不良等に対する適切な対応 3 ・救急処置及び救急蘇生法の実技	
	5	感染症対策 ・感染症の集団発生の予防 ・感染症発生時と罹患後の対応	
	6	保健的観点を踏まえた保育環境及び援助保育における保健的対応 1 ・子どもの健康と保育環境 ・保育における保健的対応の基本的な考え方 ・3歳児未満児への対応	
	7	保育における保健的対応 2 ・個別的な配慮を要する子どもへの対応 ・障害のある子どもへの対応	
	8	健康及び安全の管理の実施体制 ・保育における保健活動の計画及び評価 ・職員間の連携・協働と組織的取組 ・家庭、専門機関、地域の関係機関等との連携	
授業科目の目的	子どもの健康を理解し、疾病異常の早期発見、主な症状への対応、事故が発生した場合の対応（応急手当、救急処置）及び安全教育、危機管理、災害対応について理解し実践できる技術を身につけることを目的とします。また保育における保健的観点を踏まえた保育環境や現代的課題について理解し対応、実践することを目的とします。さらに個別的な配慮を要する子どもへの対応について職員、家庭、専門機関、地域の関係機関等との連携が図れる能力を身につけることを目的とします。		
学修成果	1. 保健的観点を踏まえた保育環境および援助ができるようになります。 2. 保育における健康および安全の管理ができ、子どもへの保健活動の実践方法を考え、実践することができます。 3. 子どもの体調不良などに対する適切な対応について具体的に理解ができます。 4. 関連するガイドラインや近年のデータ等を踏まえ保育における感染症対策について具体的に理解し実践することができます。 5. 個別的に配慮を要する子ども、障害をもつ子ども等への適切な対応ができます。 6. 職員、家庭、専門機関、地域の関係機関などとの連携が図れる能力を身につけます。		

テキスト	授業で現場で役に立つ！子どもの健康と安全演習ノート 改訂第3版／小林美由紀（編著）／診断と治療社/ISBN978-4-7878-2532-2 保育所保育指針解説（最新版）／厚生労働省／フレーベル館/ISBN978-4-5778-2531-5
参考書	保育所における感染症対策ガイドライン（2018年改訂版）／厚生労働省 保育所におけるアレルギー対応ガイドライン（2019年改訂版）／厚生労働省 教育・保育施設等における事故防止及び事故発生時のためのガイドライン（平成28年3月） 保育所保育指針解説/厚生労働省/フレーベル館／ISBN978-4577814482
授業外学修	以下①②③のガイドラインについて要点をまとめる。 ①保育所における感染症対策ガイドライン（2018年改訂版）／こども家庭庁 ②保育所におけるアレルギー対応ガイドライン（2019年改訂版）／厚生労働省 ③教育・保育施設等における事故防止及び事故発生時のためのガイドライン（平成28年3月） この予習・復習は、各授業において、それぞれ120分程度の学修を必要とします。
フィードバックの方法	授業の初めに、前回の授業のフィードバックからはじめていきます。 演習では個々の考えを全体で確認しあい、理解が不十分な点は随時補足していきます。 実技試験後、再度の説明が必要な個所について説明します。
定期試験の有無	有
成績評価基準	授業態度・参加度10%、実技試験20%、レポート10%、定期試験60%により総合的に評価します。
受講の心構えとメッセージ	保育者として重要な科目です。事前学習をしっかり行い主体的に授業に取り組んでください。
オフィスアワー	初回の授業時に、曜日と時間を伝えます。
実務経験の有無	有
実務経験の概要	西村：小学校・中学校に40年間、養護教諭として勤務した実務経験があります。 岸本：高等学校に39年間、養護教諭として勤務した実務経験があります。
その他の事項	必ず、テキストを持参してください。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2年	1単位（15時間）	選択
担当教員			
室谷 雅美			
科目ナンバリング：2017D④	授業形態：演習	保必	
添付ファイル			

授業概要	現在の日本社会では少子化・核家族化に伴い、育児不安や親の育児負担が問題となっています。そのため、保育者や子育て支援者による、地域における子育て支援が重要な役割を果たしています。そこで、本授業では、主に子育て支援における現状とその支援のあり方について学んでいきます。 さらに、子育て家庭に対する支援の体制と多様な支援の展開や関係機関との連携について学びます。 保育士に子育てにおける多様な相談援助が求められる状況を理解し、具体的な実践力について、演習を通して高めていきます。適宜グループ・ワークを実施し、意見交換をします。		
授業計画	1 子育て支援・保護者支援とは 子育て支援とは／保護者支援とは／保育所保育指針の「子育て支援」 2 子育て支援の意義 子育て支援が求められる社会的背景 3 日常的・継続的な関わりを通じた保護者との相互理解と信頼関係の形成 保護者との相互理解／保護者との信頼関係 4 保護者や家庭の抱える支援のニーズへの気づきと多面的な理解 保護者や家庭の状況／保護者の状況に配慮した個別の支援 5 子育て支援の基本的技術 子育て支援に必要なコミュニケーション技術 6 行事等を活用した子育て支援 保護者参加の行事等の意義とその理解 7 保育士の行う子育て支援とその実際（内容・方法・技術） 保育士による子育て支援／保育所等における支援／特別な配慮を要する子ども及びその家庭に対する支援 他 8 子ども家庭支援・子育て支援の課題と展望 子ども家庭支援・子育て支援の取り組みの推移／子ども家庭支援・子育て支援の課題と展望		
授業科目の目的	保育士の行う保育の専門性を背景とした保護者に対する相談、助言、情報提供、行動見本の提示等の支援（保育相談支援）について、その特性と展開を具体的に理解します。保育の専門性を活かした子育て支援の方法を身につけ、身近な子育て支援の現状を理解するとともに、自分たちができる子育て支援を考え、実践できることを目的とします。保育所・認定こども園などにおいて保育者がおこなう子育て支援の理論や方法について学び理解を深めます。		
学修成果	1. 保育士の行う保育相談支援について、その内容と展開を理解できるようにします。 2. 相談支援について、様々な場や対象に即した支援方法を、実践例を通して理解できるようにします。 3. 保育士の行う子育て支援について、様々な場や対象に即した支援の内容と方法及び技術を、実践事例等を通して具体的に理解できるようにします。		
テキスト	子ども家庭支援・子育て支援入門／才村純・芝野松次郎・新川泰弘 編著／ミネルヴァ書房／2021年（ISBN978-4-623-09222-2） 保育所保育指針解説／厚生労働省／フレーベル館／2018年（ISBN978-4-577-81447-5） 幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説／内閣府・文部科学省・厚生労働省／フレーベル館／2018年（ISBN978-4-577-81449-9） 幼稚園教育要領解説／文部科学省／フレーベル館／2018年（ISBN978-4-577-81447-5） 福祉・保育小六法 2024年度版／福祉・保育小六法編集委員会 編／みらい／2024年（ISBN9784860156497）		
参考書	子ども家庭福祉専門職のための子育て支援入門／才村純・芝野松次郎・新川泰弘・宮野安治 編著／ミネルヴァ書房／2019年（ISBN978-4-623-08212-4）		
授業外学修	予習：予習は各回の授業内容について、該当するテキストの箇所を読み、内容を整理しておくこと。この予習には、90～120分程度の学習時間を要します。 復習：復習には、授業内容を振り返り、学んだことを理解できたか確認をします。この復習には、90分～120分程度の学習時間を要します。		
フィードバックの方法	レポート課題は、次週以降にグループで確認し合い、理解が不十分な点は教員から説明をし、補足していきます。		
定期試験の有無	有		
成績評価基準	定期試験(60%)、提出物(30%)、講義への参加の態度等(10%)により総合的に評価します。		
受講の心構えとメッセージ	日頃から、ニュースやインターネットなどからさまざまな子育てに関する情報に関心をもち、情報を収集してください。その情報をもとに、今の日本の国の少子化の何が問題であり、どのような子育て支援が必要であるか理解するようにしてください。『保育所保育指針解説』第4章「子育て支援」を読んでおいてください。		
オフィスアワー	曜日と時間は初回の授業時にお伝えしますが、授業後90分をオフィスアワーとしています。会議や出張などにより不在となる可能性もありますので、事前に先生と時間調整するようにしてください。		

実務経験の有無	有
実務経験の概要	高等学校で12年間勤務した実務経験があります。
その他の事項	授業で配付するプリント類は、各自でファイルしてください。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年	2単位（30時間）	選択
担当教員			
長谷 雄一、小西 浩美			
科目ナンバリング：2018A①	授業形態：講義		保必
添付ファイル			

授業概要	現代社会において子どもを取り巻く状況は日々複雑化しています。平成30年度からそれらを踏まえて新しい保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領が施行されて保育の現場は大きく変化しています。保育者は、このような状況を十分に理解した上で信念をもち保育を行っていく必要があります。そのためには、現行の保育の制度を理解するとともに、保育の基本（理念・役割・歴史・実践等）を学び保育についての幅広い視野を養うことが重要です。 本講義では、保育者がそれらを踏まえ現代におけるよりよい保育のあり方を考え実践できる基礎力を養います。 授業は講義形式が基本です。実際の保育の場や子どもの姿などについてはDVDを視聴するなど、イメージを広げながら保育の原理を学びます。		
授業計画	1	保育とはなんだろう 子育てと保育 保育の定義と理念 新しい時代の保育と幼児教育	
	2	現代社会と子どもの育ち 子どもを取り巻く現代社会 子どもが育つ場としての家庭・地域社会・保育施設の意義 子どもの育ちと遊びの変容	
	3	保育が行われる場を知ろう 日本の保育制度の特徴 保育を担う施設 保育所・幼稚園・認定こども園 子ども・子育て支援新制度の概要を知ろう	
	4	保育者に求められるもの 資質と専門性 保育者になるための資格・免許状 保育者の実態 成長 保育者に求められる資質と専門性	
	5	世界の保育の歴史に学ぼう 集団保育施設が誕生した時代背景 オーベルラン フレーベル モンテッソーリ	
	6	日本の保育の歩み 幼稚園と託児所の誕生 歩み 保育の歩みを支えた人びと 保育内容の基準の変遷	
	7	保育に求められる子ども観・発達観 時代とともに変わる子ども観と発達観 子どもが育つ環境と発達観 保育における子ども理解 子どもへの「まなざし」	
	8	保育の基本 保育所保育指針に示される保育所保育の特性 家庭との緊密な関係 環境を通して行う保育 養護と教育の一体	
	9	保育の目標と内容 保育の目標とは 保育の内容について 保育内容の総合的展開	
	10	保育の方法と進め方 園生活の流れを理解する 保育方法の基礎的理解 さまざまな保育形態 保育環境の種類	
	11	保育の計画と保育の質の向上 なぜ保育に計画があるのか 全体的な計画と指導計画 保育における評価 振り返り	
	12	大切な子育て支援と地域連携 子育て支援の意義と原則 保育所を利用する保護者に対する子育ての支援の方法 地域子育て支援における地域連携の意義	
	13	海外の保育に目を向けてみよう 保育をめぐるOECD諸外国の動向	

	欧米諸国の保育実践 その他の特色ある保育実践 保育をめぐるこれからの課題 深刻化する少子化社会 多様化する保育ニーズへの対応 特別な配慮や支援を必要とする子どもの対応 15 現代における日本の保育の現状と課題 諸外国の保育の現状と課題 日本の保育の現状と課題 まとめ
授業科目の目的	保育原理では、保育・教育に携わる者に求められる保育に関する基礎的な知識を学び、保育者としての視点を養い、保育・幼児教育の根幹をなす原理を追求します。現代社会における子どもを取り巻く状況や課題について考察し、子どもや保護者と向き合うことができる知識を養うとともに、乳幼児の特性に応じた保育を実践するための基礎的な力を養うことを本講義の目的とします。
学修成果	1. 保育の意義及び目的について理解することができるようになります。 2. 保育所に関する法令及び制度を理解することができます。 3. 保育所保育指針における保育の基本について理解し説明することができます。 4. 保育の思想と歴史的変遷について理解し、現在の保育に重ね合わせて考えることができます。 5. 保育の現状と課題について意識をもち、現代における保育のあり方を論じることができるようになります。
テキスト	実践を創造する保育原理(第3版)／豊田和子編／みらい／ISBN：978-4-86015-650-3 保育所保育指針解説／厚生労働省／フレーベル館／ISBN：978 - 4 - 577 - 81448 - 2NDC376. 必要に応じてプリントを配布します。
参考書	幼稚園教育要領解説／文部科学省／フレーベル館／ISBN：978 - 4 - 577 - 81447 - 5NDC376. 幼保連携型認定こども園教育・保育要領／内閣府・文部科学省・厚生労働省／フレーベル館／ISBN：978 - 4 - 577 - 81449 - 9NDC376.
授業外学修	予習として、次のテーマについて参考文献等に目を通しておく必要があります。それに120分程度の学習時間を要します。 復習として、授業の振り返りレポートを丁寧に作成し、重要項目をしっかりと押え把握します。それには120分程度の学習時間を要します。
フィードバックの方法	レポート課題は次週以降、理解が不十分な個所については教員が随時補足説明をしていきます。
定期試験の有無	有
成績評価基準	授業態度10%、レポート提出40%、定期試験50%により数量化して総合的に評価します。
受講の心構えとメッセージ	レポートは必ず提出してください。毎時間の講義を大切に受講してください。
オフィスアワー	初回の授業の中で曜日・時間帯等をお伝えします。90分をオフィスアワーとします。不在の場合もあり、事前に「melly」で予約してください。
実務経験の有無	有
実務経験の概要	長谷：高等学校に5年間勤務した実務経験があります。 小西：幼稚園に39年間勤務した実務経験があります。
その他の事項	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年	2単位（30時間）	選択
担当教員			
大西 清文、稲垣 順子			
科目ナンバリング：2019A④	授業形態：講義	保必	
添付ファイル			

授業概要	今日の日本には、18歳未満の児童が約1800万人、その中で社会的養護を要する児童が約4万2千人にいます。彼らは全員、親と一緒に暮らせない事情を抱えています。児童福祉施設の職員や里親などの代替養育者は、子どもと生活を共にする中、一人ひとりに寄り添いながら、健やかな養育と自立支援などの児童福祉の実践に日々取り組んでいます。 その児童福祉の原理は「子どもは権利主体であること」、「子どもの最善の利益を守ること」「社会全体で子どもを育むこと」と児童福祉法に定められており、本授業ではこの原理を視座にすえて、必要な視点・姿勢・専門知識を学修します。 さらに、この授業での学びが、社会的養護Ⅱ・保育実習(施設)につながり、施設保育士や保育所保育士を目指す上で必要な社会的養護の現状の把握へとつながるように授業を進めていきます。適宜グループ・ワークを実施し、意見交換をします。
授業計画	1 オリエンテーション 1 授業のねらい 2 学びの道のり 子どもを育てる人とその育ちの場について 充実した施設実習に向けて 2 現代社会における社会的養護の意義 1 1 社会的養護と関連概念 2 社会的養護の基本的考え方と体系 3 社会的養護の現状と方向 3 社会的養護の歴史的変遷 1 欧米における社会的養護の歴史的変遷 2 日本における社会的養護の歴史的変遷 4 社会的養護の基本・制度・法体系 1 1 社会的養護における子どもの人権擁護 2 社会的養護の基本原則 5 社会的養護の基本・制度・法体系 2 1 社会的養護における保育士等の倫理と責務 6 社会的養護の仕組みと実施体系 1 社会的養護の仕組み 2 社会的養護の実施体系 3 児童福祉法改正と「新しい社会的養育ビジョン」 7 里親，ファミリーホーム，養子縁組 1 1 家庭養護の推進 2 里親制度 8 里親，ファミリーホーム，養子縁組 2 1 小規模住居型児童養育事業（ファミリーホーム） 2 養子縁組（特別養子縁組・普通養子縁組） 3 フォスターリング機関（里親養育包括支援機関）とその職種 9 社会的養護の実際 1（1） 1 乳児院 2 児童養護施設 10 社会的養護の実際 1（2） 1 乳児院 2 児童養護施設 3 乳児院・児童養護施設の高機能化及び多機能化・機能転換，小規模化・地域分散化の進め方 11 社会的養護の実際 2 1 児童心理治療施設 2 児童自立支援施設 12 社会的養護の実際 3 1 自立援助ホーム（児童自立生活援助事業） 2 母子生活支援施設 13 社会的養護の専門職 1 児童福祉施設に配置されている主な職種 2 社会的養護におけるソーシャルワークの視点 14 社会的養護の施設等の運営管理 1 被措置児童等の虐待防止とその取り組み 2 第三者評価 15 社会的養護Ⅰのまとめ 学習全体のまとめと振り返り

授業科目の目的	我が国において、「保護者からの適切な養育が受けられない子どもへの養育支援」や「養育に困難を抱えている家庭への子育て支援」など、すべての子どもに対して、その成長や発達に応じた養育環境が「子どもの権利」として法律の下で保障される中、社会的養護の施策は、制度や実施体系化され、実際の子どもの状況に応じた施設や専門職配置などの支援に結び付いています。 また、現代における日本の社会的養護は、海外とは大きく異なり、これは先人の偉大な取り組みが紡がれ続けた結果でもあります。 本授業では、この社会的養護の理念や在り方などの基本、歴史的変遷、今日の制度・実施体系・施設等の正しく理解することが第一義の目的です。加えて、学生諸君が社会的養護での学びを生かせる保育士になるため、『「子どもの権利と最善の利益」を意識しながら一人ひとりに寄り添う心の萌芽』を目指しています。
学修成果	1 現代における社会的養護の意義と歴史的変遷を理解することができる。 2 子どもの人権擁護を踏まえた上での社会的養護にかかる基本原則を理解することができる。 3 社会的養護の法制度や実施体系等を理解することができる。 4 社会的養護の対象や形態、関係する専門職等を理解することができる。 5 社会的養護の現状と課題を理解することができる。
テキスト	社会的養護入門/ 芝野松次郎・新川泰弘・山川宏和 編著/ ミネルヴァ書房/ 2021年 (ISBN 9784623092239) 保育福祉小六法/ 保育福祉小六法編集委員会 編/ みらい/ 2025年 (ISBN 978-4860156497)
参考書	「真に」子どもにやさしい国をめざして/ 未来叢書 (ISBN:978-4905239581) より深く理解できる施設実習/ 松本峰雄監修/ 萌文書林 (ISBN : 9784893472212) 五訂 福祉施設実習ハンドブック/ 岡本幹彦 他/ みらい (ISBN : 9784860154813) 保育所・施設・幼稚園実習ステップブック [第2版] / 山本美貴子他編/ みらい (ISBN : 9784860155179) 児童養護施設運営ハンドブック/ 厚生労働省 乳児院運営ハンドブック/ 厚生労働省
授業外学修	予習については、テキスト指定範囲の読了や参考資料探索・整理等、復習については、授業内容の振り返り等、授業前後で指示された内容に取り組みます。いずれも120分程度の学習時間を要します。
フィードバックの方法	授業初めに、前回の授業やレポート講評などから始めます。
定期試験の有無	有
成績評価基準	授業態度10% レポート・小テスト等30%、定期試験60%とし、総合的に評価します。
受講の心構えとメッセージ	社会的養護を学ぶ上で、その背景にある貧困や児童虐待など子どもの養育や権利等についての社会問題を知ることが大切です。新聞やテレビ・インターネットのニュースや動画配信などを上手に活用しましょう。 特に、成人した社会的養護当事者の情報発信は、様々なメディアを通じて充実しており、社会的養護を世に伝えようとするその声を聴くことで、社会的養護の理解を深めることができます。(参考: YouTube/THREE FLAGS)
オフィスアワー	授業時に曜日と時間を伝えますが、週1回90分をオフィスアワーとしていますので、自由においでください。急な会議や出張などにより対応ができなくなる場合もあるので、必ず事前連絡をしてください。
実務経験の有無	有
実務経験の概要	大西：社会福祉施設等に18年間勤務した実務経験があります。 稲垣：小学校に5年間勤務した実務経験があります。
その他の事項	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2年	2単位（30時間）	選択
担当教員			
原田 敬文			
科目ナンバリング：2020D②	授業形態：講義	保選	
添付ファイル			

授業概要	精神保健は、こころの健康の保持・増進を目指すものです。そこで本授業では、こころの健康を保つために、カウンセリング概論・カウンセリングスキル・青年期の課題について学びます。自分の心について、これまでの経験からわかっていると思っているかもしれません。しかしグループ活動を通して、まだ自分が気づいていない自分や知らなかった自分を見つめたいと思います。授業は教科書を使いながら、グループ活動を最初に行い、次に理論の学習をします。積極的に授業に参加し、一緒に学びましょう。	
授業計画	1	〈オリエンテーション 精神保健とは〉 心の健康とは
	2	〈精神保健とカウンセリング〉 導入 構成的グループエンカウンター① パンガロー殺人事件
	3	〈カウンセリング概論〉 構成的グループエンカウンター② 新聞紙タワー
	4	〈カウンセリングの定義〉 定義・歴史・必要性を学ぶ
	5	〈カウンセリングのプロセス・パーソナリティ〉 リレーションづくり・問題把握・解決・折衷主義・仲間同士のカウンセリング
	6	〈カウンセリングスキル〉 受容・繰り返し・明確化・支持・質問の技法について
	7	〈対話上の問題への対処法〉 話しの切り上げ方・抵抗されたとき・沈黙されたときの対応について
	8	〈問題への対処法〉 他の機関を紹介・コンサルテーション・スパービジョンについて
	9	〈相談するときの心がまえ〉 無理に直そうとするのではなく、相手の気持ちを知ろう
	10	〈青年期の課題について〉 授業がつまらない時 どうしたらいいのか
	11	〈進路領域〉 進路の意味を学び・自己実現とは
	12	〈友人領域〉 心理的離乳・自己開示について
	13	〈グループ領域〉 グループとは何か・グループのまとめ方・グループの動かし方について
	14	〈こころの問題〉 子どもの頃に現れやすい問題 分離不安・睡眠障害
	15	〈まとめ〉 精神保健とカウンセリングのまとめ
授業科目の目的	精神保健は、将来保育者になる際に、自分の心が不安定であると、子どもたちにも影響を与えるかもしれません。そこで自分の心の健康の保持・増進をめざし、自分磨きをしていきたいと思います。まずは自己理解・他者理解のために構成的グループエンカウンターを行います。その授業を活かして、理論を理解したいと思います。次に青年期に持ちやすい課題について、深めていきたいと思います。	
学修成果	1. 心の健康増進を図る精神保健について説明ができるようにします。 2. 自分の心を理解し、落ち込みや不安にならないようにします。 3. 青年期の課題を乗り越えられる方法を実践できるようにします。 4. 子どものこころを理解し、問題解決の方法を見出せるようにします。	
テキスト	ピアヘルパーハンドブック/日本教育カウンセラー協会編/図書文化社	
参考書	幼稚園教育要領／文部科学省／フレーベル館 ISBN：9784577814222 幼稚園教育要領解説／文部科学省／フレーベル館 ISBN：9784577814475 保育所保育指針／厚生労働省／フレーベル館 ISBN：9784577814239 保育所保育指針解説／厚生労働省／フレーベル館 ISBN：9784577814482 幼保連携型認定こども園教育・保育要領／内閣府・文部科学省・厚生労働省／フレーベル館 ISBN：9784577814246 幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説／内閣府・文部科学省・厚生労働省／フレーベル館 ISBN：9784577814499	

授業外学修	予習：次の授業の範囲を説明しますので、教科書を読んでおいてください。一度読んでおくと、授業内容がより理解できると思います。予習時間は90分～120分です。 復習：授業後に、ノートや教科書で内容を確認してください。今日のポイントは授業でお話しますので、教科書に線を引き思い出してみてください。復習時間は90分～120分です。
フィードバックの方法	授業では毎回振り返りシートを記入します。内容は今回の授業の内容が理解できているのか確認になります。また質問があれば記入し、次回の授業で説明をし、理解を深めたいと思います。定期試験の結果については、成績発表後、試験結果について説明を受けたい場合は、研究室を訪問してください。
定期試験の有無	有
成績評価基準	授業態度20%、振り返りシート20%、定期試験60%により総合的に評価いたします。
受講の心構えとメッセージ	この授業では、最初に構成的グループエンカウンターを行います。グループ課題を行っていくことで、自己理解と他者理解が目的になります。このグループ活動は積極的に参加してほしいと思います。自分の役割に徹して、それぞれに活躍してほしいです。次にカウンセリングの理論を学びます。今回は4つの理論についてわかりやすく説明をしますので、カウンセリングについて、理解を深めてください。後半は、青年期にもつ困難な課題についての解決方法を学んでいきます。 授業の最後に、振り返りシートを書きます。ここには、授業で学んだ内容のキーワードを60字で要約します。授業で学んだことが理解できているのか、自分なりに確認していただき、次の授業に活かしてほしいです。
オフィスアワー	初回の授業の際にお話ししますが、週1回皆さんのために時間を取りたいと思います。自由に研究室を訪問してください。質問は授業後に受けますので、気軽に声をかけてください。 ただし、臨時の会議や出張などにより不在となる可能性もありますので、事前に声を掛けて確認してください。
実務経験の有無	無
実務経験の概要	
その他の事項	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2年	2単位（30時間）	選択
担当教員			
岸本 美津子、浅田 米良			
科目ナンバリング：2021C①	授業形態：演習	保必	
添付ファイル			

授業概要	子どもの栄養と食生活は、生涯にわたる健康と生活の基礎が形成され、その後の心と身体の健康に大いに影響を及ぼす。健康な生活の基本として、食生活の意義や栄養・食品に関する基本的知識を学び、子どもの発育・発達と食生活との関連について理解する。家庭や児童福祉施設における食事と栄養について学ぶ。特別な配慮を要する子どもの食と栄養について理解する。食育の演習を通して、保育・教育の場に役立つ食育の実践を修得し、子どもや保護者への食生活の支援ができる応用力を培う。		
授業計画	1	オリエンテーション／子どもの健康と食生活の意義 授業のねらい、概要／子どもの心身の健康と食生活、子どもの食生活の現状と課題	
	2	子どもの発育・発達と食生活 身体発育、精神機能・運動機能・食べる機能・消化吸収機能の発達と栄養・食生活	
	3	栄養に関する基礎知識（１） 栄養素の種類と働き（炭水化物、脂質、タンパク質）	
	4	栄養に関する基礎知識（２） 栄養素の種類と働き（ビタミン、ミネラル（無機質）、水分）	
	5	栄養に関する基礎知識（３） 日本人の食事摂取基準の意義と活用、献立作成・調理の基本、食事バランスガイド、食生活指針	
	6	子どもの発育・発達と食生活（１）—授乳期の栄養と食生活、乳児期の授乳・離乳の意義と食生活 妊娠期・授乳期の栄養と食生活、乳児期の心身の特徴と食生活の関係、乳汁栄養（母乳栄養）	
	7	子どもの発育・発達と食生活（２）—乳児期の授乳・離乳の意義と食生活 乳汁栄養（人工栄養、混合栄養）、離乳の意義とその実践	
	8	子どもの発育・発達と食生活（３）—幼児期の心身の発達と食生活 幼児期の心身の特徴と食生活の関係、幼児期の食生活の特徴、間食の意義と実践、食生活上の問題と健康への対応	
	9	（演習） 乳幼児期の食事、食育実践	
	10	（実習） 幼児食の実習、食育実践	
	11	子どもの発育・発達と食生活（４）—学童期・思春期の心身の発達と食生活 学童期・思春期の心身の特徴と食生活、学童期・思春期の栄養上の問題と健康への対応、学校給食、食育	
	12	食育の基本と内容 食育の基本、食育の内容と計画及び評価、食育のための環境づくり、地域や家庭と連携した食育の展開、乳幼児期の食育の内容と基本および実践、幼児期の食育と教材（媒体）	
	13	家庭や児童福祉施設における食事と栄養 家庭における食生活のあり方、児童福祉施設給食の基本方針、保育所給食	
	14	特別な配慮を要する子どもの食と栄養 子どもの疾病の特徴と食生活、食物アレルギーのある子への対応	
	15	子どもの食と栄養についてまとめ、考察	
授業科目の目的	子どもが健康な生活を営むために、栄養や食生活の基本的知識を学ぶ。子どもの健全な発育・発達を促すために必要な栄養と食生活を学び、健康と食生活との関係を理解する。家庭や児童福祉施設における食生活の現状や課題、特別な配慮を要する子どもへの対応も学ぶ。食育の基本と内容を的確に理解し、食を通じた保護者への支援や、食育の家庭・保育所での取り組みを実践できるような力を身に付ける。		
学修成果	１．健康な生活の基礎として、食生活の意義や栄養・食品に関する基本的知識を理解し、保育現場で応用できる。 ２．子どもの発育段階に応じた食生活や課題を理解し、発育段階に応じた食生活の支援ができる。 ３．健康的な食生活とは何かを理解し、実際の食生活で実践できるようになる。 ４．食育の重要性を理解し、日常の保育の中で食育の実践ができる。 ５．食物アレルギー対応や食中毒の予防などの正しい知識を習得し、明確な配慮ができる。		
テキスト	堤ちはる、土井正子 編著：「子育て・子育てを支援する こどもの食と栄養」＜12版＞、萌文書林、2022、ISBN 978-4-89347-154-3		
参考書	飯塚美和子、他編：「最新子どもの食と栄養—食生活の基礎を築くために」＜第9版＞、学建書院、2021、ISBN 978-4762468414 岩田 章子、寺嶋 昌代 編：新時代の保育双書「新・子どもの食と栄養」、みらい、ISBN 978-4-86015-532-2		

	小川 雄二 編：「子どもの食と栄養演習＜第5版＞」．建帛社、2020、ISBN 978-4-7679-5128-7 新しい食生活を考える会 編著：「食品解説つき 八訂準拠 ビジュアル食品成分表」、大修館書店、2021、ISBN 978-4-469-27012-0
授業外学修	毎回授業で扱うテーマを教科書で予習し、授業内容を理解するように取り組む。 授業終了後は復習し、知識の定着に努める。不明な内容があれば、質問などで確認しておく。 この予習・復習には、それぞれ120分程度の学修を必要とします。
フィードバックの方法	授業中の質問は、授業時間内で口頭で説明します。 課題レポート・提出物については、確認して添削・講評後、返却します。質問は適宜対応します。 小テストの結果は、次週の授業で返却し、必要に応じて解説します。
定期試験の有無	有
成績評価基準	定期試験（50％）、小テスト（20％）、演習課題・レポート提出（15％）、実習・演習の取り組み態度・レポート提出（15％）
受講の心構えとメッセージ	子どもの食と栄養は、幼稚園や保育所、施設において正確な知識と実践的な対応が求められます。 毎回の授業に真剣に取り組んでください。
オフィスアワー	授業時間終了後、または遠隔授業システム（Melly等）にて対応します。
実務経験の有無	無
実務経験の概要	
その他の事項	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1年	2単位（30時間）	選択
担当教員			
稲垣 順子			
科目ナンバリング：2022B②	授業形態：演習	保必	
添付ファイル			

授業概要	近年、保育の現場では、発達への支援を必要とする子どもたちに対応する力が求められています。保育者は、様々な障害の特性と、子どもたちの個性に応じた「可能性」を引き出す関わり方について深く理解することが必要です。 発達の遅れや障害の実態は、個々のケースによって多様です。それぞれの障害について学んだことを基礎として、応用力を持って一人ひとりに対応していく力を習得していきます。必要に応じてグループワーク等を行います。		
授業計画	1	障害の概念 「障害」の概念と障害児保育の歴史的変遷	
	2	障害児保育の基本 障害のある子どもの地域社会への参加・包容及び合理的配慮 の理解と障害児保育の基本	
	3	肢体不自由児の理解と援助 肢体不自由児の特性と必要な援助	
	4	知的障害児の理解と援助 知的障害児の特性と必要な援助	
	5	視覚障害児の理解と援助 視覚障害児の特性と必要な援助	
	6	聴覚障害・言語障害児等の理解と援助 聴覚障害・言語障害児等の特性と必要な援助	
	7	発達障害児の理解と援助 1 ASD－自閉スペクトラム症等の特性と必要な援助	
	8	発達障害児の理解と援助 2 ADHD－注意欠如・多動症、SLD－限局性学習症等の特性と必要な援助	
	9	重症心身障害児、医療的ケア児の理解と援助 重症心身障害児、医療的ケア児の特性と必要な支援	
	10	その他の特別な配慮を要する子どもの理解と援助 障害児その他の特別な配慮を要する子どもの保育に関わる現状と課題	
	11	計画に基づいた支援 個別の指導計画及び個別の支援計画の作成	
	12	保育の場における障害児への対応 個々の発達を促す生活や遊びの環境と子ども同士の育ちあい、健康と安全	
	13	保護者や家族に対する理解と支援 保護者・兄弟等への支援と、保護者間の交流	
	14	障害児支援の制度と関係機関の連携・協働 障害児支援の制度の理解と地域の関係機関、保健・医療との連携・協働	
	15	支援の場の広がり 職員間の連携と、小学校その他との協働	
授業科目の目的	障害児保育を支える理念や歴史的変遷を踏まえ、障害や発達特性のある子どもに対する理解を深めます。さらに基本的な療育の実際、家庭への支援、関係機関との連携について、具体的に考察し習得することを目的とします。		
学修成果	1．障害児その他の配慮を要する子どもの特性を理解し、具体的な援助や保育における計画の作成について理解することができるようになります。 2．障害児その他の特別な配慮を要する子どもの家庭への支援や関係機関との連携・協働について理解することができるようになります。 3．障害児その他の特別な配慮を要する子どもの保育に関する現状と課題について理解することができるようになります。		
テキスト	特別支援教育・障害児保育の理論と支援／小川 圭子・矢野 正 編著／嵯峨野書院／2020年（ISBN978-4-7823-0600-0）		
参考書	幼稚園教育要領解説／文部科学省／フレーベル館／2018年（ISBN978-4577814475） 保育所保育指針解説／厚生労働省／フレーベル館／2018年（ISBN978-4577814482） 幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説最新版／内閣府・文部科学省・厚生労働省／フレーベル館／2018年（ISBN978-4577814499） よくわかる障害児保育第2版／尾崎泰子ほか／ミネルヴァ書房／2018年（ISBN978-4-623-08124-0）		
授業外学修	予習：毎回の授業の中で、予習課題を出します。テキストの中に答えがあるものもあれば、インターネット		

	や参考図書等で調べるが必要なものもあります（所要時間：120分程度）。 復習：毎回の授業の中で、復習課題を出します。授業の中の説明や、テキスト等を用いて、整理して記述するようにしてください（所要時間：120分程度）。
フィードバックの方法	授業中に課した小テストについては、再度の説明が必要な個所について次回の授業で口頭にて説明します。 また、コメントシートについては次回の授業の中で取り上げ、振り返りを行います。
定期試験の有無	有
成績評価基準	定期試験60%、小テスト30%、提出物・授業への参加態度10%により総合的に評価します。
受講の心構えとメッセージ	保育者による障害のある子どもへの適切な対応は、その子どもの生涯の生活をより良いものにしていきます。さらに特別な支援を必要とする子どもへの適切な保育は、他の子どもにとっても質の高い保育となります。 また、新聞やニュースを通して、障害児をとりまく社会環境の実態や変化に自ら関心を持つことも必要です。演習やグループワークも含めて、主体的に学び取る姿勢を持ち、予習・復習により学び深めてください。
オフィスアワー	随時
実務経験の有無	有
実務経験の概要	小学校に5年間勤務した実務経験があります。
その他の事項	

講義科目名称： 地域ボランティア

授業コード： H2023A H2023B T2023A
T2023B

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	1 ～ 2 年	1 単位 (30時間)	選択
担当教員			
西村 豊、大塚 貴之			
科目ナンバリング：2023ABCD④	授業形態：実習		
添付ファイル			

授業概要	地域における交流行事や福祉施設等における補助・援助、または各種団体・企業等において、30時間以上のボランティア活動を行います。 先ず初めに、1年前期初めの事前指導において留意事項、プライバシー・個人情報への配慮事項等について説明します。自分が参加したいと思う場所や日時、活動内容等を決め、実際に活動します。活動後は、所定の活動日誌をすみやかに作成・押印し、担当教員等の確認印を受けて提出します。 2年後期の終わりに、事後指導を受けながら活動の成果や課題等についての活動報告書を作成し、みんなの前で発表します。あくまでこの授業の主体は、ボランティア活動そのものであると認識して下さい。		
授業計画	1 回	ボランティア活動事前指導 1 ボランティア活動の「意義」と「定義」	
	2 回	ボランティア活動事前指導 2 ボランティア活動に関する「事例」・「活動日誌」 「ボランティア活動を始めるにあたって思うこと」というテーマの作文	
	3 回	ボランティア活動（各自）	
	4 回	ボランティア活動（各自）	
	5 回	ボランティア活動（各自）	
	6 回	ボランティア活動（各自）	
	7 回	ボランティア活動（各自）	
	8 回	ボランティア活動（各自）	
	9 回	ボランティア活動（各自）	
	1 0 回	ボランティア活動（各自）	
	1 1 回	ボランティア活動（各自）	
	1 2 回	ボランティア活動（各自）	
	1 3 回	ボランティア活動事後指導 1 ボランティア活動を振り返って：「時間数の確認」、「感想」と「反省」	
	1 4 回	ボランティア活動事後指導 2 ボランティア活動の「報告書」の作成	
	1 5 回	ボランティア活動事後指導 3 ボランティア活動の「報告書」の発表および「まとめ」	
授業科目の目的	本学ではこれまで、課外活動や公開講座等を通じた地域交流や、社会福祉施設等における多種多様な学生のボランティアを奨励してきました。 すなわち本授業では、社会の一員としての学生の「人間力」を培う活動に対し、また学生の努力に対してそれらに報いるために、これらの活動を単位として認定し、一層の推進を図ることをその目的としています。		
学修成果	1. ボランティア活動を通じて、地域社会を担っていく力を身に付けることができるようになります。 2. 他者や社会の利益のために活動することが学生自身の楽しさや喜びとなり、延いてはコミュニケーション能力を高める等、人間的に成長することができるようになります。		
テキスト	必要に応じてプリント教材を配付します。		
参考書	ボランティア活動の基礎と実際／米山岳廣編著／文化書房博文社（ISBN9784830110818） ボランティア まるごとガイド／安藤雄太監修／ミネルヴァ書房（ISBN9784623064588） ボランティアのすすめー基礎から実践までー／岡本榮一監修／ミネルヴァ書房（ISBN9784623042999）		
授業外学修	予習：各種ボランティアに参加する前に、ボランティア活動の内容について理解し、果たすべき役割について理解しておいてください。この予習には90分～120分を要します。 復習：各種ボランティア活動終了後に、振り返りを行い、必ず活動内容・感想等を記録に取っておくようにし		

	てください。事後指導において活動最終報告書の提出を求めます。この復習には90～120分を要します。
フィードバックの方法	最終的なフィードバックは事後指導となります。ただ、日々のボランティア活動の実践の中でその都度、各自が振り返り、反省し、次のボランティア活動にその反省をフィードバックするというサイクルをつくり、ボランティア活動を繰り返す中で、ボランティア活動に対する技術的な面だけではなく、人間的な成長へとつなげていってください。 基本的にこの教科のフィードバックは、学生の皆さん一人一人に求められていると理解してください。
定期試験の有無	無
成績評価基準	「ボランティア活動合計時間」80%、ボランティア活動事前・事後指導の授業への「授業態度」、「活動最終報告書」20%により評価します。
受講の心構えとメッセージ	「ボランティア」は誰か人のためにするものと思われがちです。しかし、大切なのは、社会と関わることで初めて自分の中の新しい思いや感情に出会ったり、また今までとは違った自分に気づいたりすることなのです。「ボランティア活動」の経験は社会に出た時に大きな力になると確信しています。 皆さんの自主的で楽しい活動を大いに期待しています。
オフィスアワー	初回の授業時に曜日と時間はお伝えしますが、週1回、120分をオフィスアワーとしていますので、自由に研究室においでください。ただし、臨時の会議や出張などにより不在となる可能性もありますので、事前に声を掛けてくれると確実です。
実務経験の有無	無
実務経験の概要	
その他の事項	「活動日誌」はボランティア活動終了後、すみやかに担当者まで提出してください。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2 年	1 単位 (30時間)	選択
担当教員			
杉山 雄一、田上 栄美子、井上 裕子、木村 清子			
科目ナンバリング：2025D③	授業形態：演習		
添付ファイル			

授業概要	本授業では、1 年次通年科目「こどもの指導法『音楽表現』」、2 年次前期科目「こどもと器楽・うたⅠ」で修得した保育の場における音楽表現実践の基礎技能や知識を駆使しながら、実習や実際の保育の場でどのように活かし、保育を構築していくかについて実践的に学びます。 本授業ではグループに分かれ、学生が主体となってテーマを基に様々なイメージを出し合い、音楽表現活動を模擬的に創り上げる経験をします。グループとしての協調性を発揮しながら、仲間一人一人の個性をどのように活かし音楽表現活動を創作していくかが重要な学びのポイントとなります。2 年間の音楽系の学びを総括した授業内容です。		
授業計画	1	オリエンテーション グループ分け、活動内容のディスカッション	
	2	保育計画（音楽表現活動）の立案 実施計画の立案	
	3	音楽表現活動の実践① 計画内容の実施	
	4	音楽表現活動の実践② 計画内容の検討	
	5	音楽表現活動の実践③ 変更内容の実施	
	6	音楽表現活動の実践④ 変更内容の再検討	
	7	音楽表現活動の実践⑤ 中間発表に向けた準備	
	8	音楽表現活動の実践⑥ 中間発表	
	9	音楽表現活動の実践⑦ 中間発表の振り返り	
	10	音楽表現活動の実践⑧ 発表内容の再検討	
	11	音楽表現活動の実践⑨ 発表内容の再構成	
	12	音楽表現活動の実践⑩ 発表に向けた舞台稽古（リハーサル①）	
	13	音楽表現活動の実践⑪ 発表に向けた最終準備（リハーサル②）	
	14	音楽表現活動の実践⑫ 発表会の実施	
	15	まとめ・総括 領域「表現」と保育実践についてのまとめ・総括	
授業科目の目的	・ 1 年次から学んだ音楽系科目の知識・技能を用いながら、実習や具体的な保育の場に音や音楽をどのように用いて保育を構築していくのか、実践を通して理解し、音楽技能を活かすことができるようになります。 ・ 子どものイメージを広げ、豊かな感性を育むための音楽表現活動をグループワークの中で創造し、実際に演じることで、保育の実践力を育成します。 ・ 音楽の楽しさや目的に向かって子どもが協働する過程の在り方の実際を学びながら、小学校教育への学びの連続性についても考えます。		
学修成果	・ 1 年次科目「こどもの指導法『音楽表現』」、2 年次前期科目「こどもと器楽・うたⅠ」で修得した領域の意義や音楽的基礎技能を素地として楽しい音楽表現劇をイメージし、音楽やお話しづくりを組み立てることができるようになります。 ・ 実際に子どもの気持ちになって感じたり実践したりすることで、子どもの心情に寄り添いながら音・音楽の使い方・表現方法を考えることができるようになります。 ・ 仲間と共に同じ目的に向かって協働し目標を達成することの意義を体感することで、子どもと共に音や音楽を楽しむ共有ができるようになります。		
テキスト	必要に応じてプリントを配布します。		
参考書	保育士・幼稚園教諭のための 弾き歌い伴奏集 第1巻 [改訂版]/大海由佳他/学研/ISBN：978-4051541637 保育士・幼稚園教諭のための 弾き歌い伴奏集 第2巻 [改訂版]/大海由佳他/学研/ISBN：978-4051541644		

	ステップ・アップ リトミック/石丸由理他/ドレミ楽譜出版/ISBN：978-4285132762 その他授業の中で必要な楽譜や資料を紹介します。
授業外学修	授業内容をより深く修得するには、事前に自学自習することが重要です。授業で扱うテーマを参照し、予習したことをノートにまとめてください（0.5時間）。 復習では、授業で学んだ内容をどのように深め、どう実践していくのかを、テキスト、参考書などを参考にまとめましょう（0.5時間）。 予習・復習は各授業ごとに必要です。
フィードバックの方法	授業振り返りカード等の提出により、授業内容に対する疑問や気付き、感想等について修正や再度の説明が必要な個所については、次の授業で説明していきます。
定期試験の有無	無
成績評価基準	授業態度・関心・意欲：20%、企画力：20%、協働性：20%、表現力：40%
受講の心構えとメッセージ	学生が主体となってグループワークを進めます。学生の皆さん一人一人が意欲的に自分の意見やイメージを出し合うとともに、教員もグループの一員として協働します。 子どもの気持ちになることを通して、子どもが楽しいと感じる音楽とは何か等、数多くの気づきや学びを得ることができるよう、教員と一緒に双方向的に学び合う時間にしていきましょう。「音楽は楽しい」ことを仲間と共に体感し、実習や保育の実践の場で子どもたちに自信をもってその思いを伝えてください。 2年間の音楽系科目の総集編として、積極的に本授業に参加してください。
オフィスアワー	初回授業時に曜日・時間帯等をお伝えします。事前に「melly」で予約してから来てください。
実務経験の有無	有
実務経験の概要	杉山：リトミック研究センター認定上級指導員として、幼稚園・保育園・こども園などでリトミック指導を行っています。 田上：小学校に38年間勤務した実務経験があります。 井上：リトミック指導員として、2017年より保育園で週1回子どもたちにリトミック指導を行っています（現在に至る）。 木村：中学校・高等学校などで38年間勤務した実務経験があります。
その他の事項	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年	1単位（30時間）	選択
担当教員			
室谷 雅美、原田 敬文、栗岡 あけみ、大塚 貴之、小西 浩美、井上 裕子、川端 義明、稲垣 順子、大西 由美子			
科目ナンバリング：2026A①⑤	授業形態：演習		
添付ファイル			

授業概要	保育者に求められる資質、能力が身に付くような授業内容を展開します。「保育×心理・ミュージック・伝統文化・おもちゃ・デジタル・子どもあそび、スポーツ」の分野を1・2年の少人数に分かれてゼミナール形式の授業を展開し、保育者としての資質を高めます。最後の授業において各グループによる成果発表を行います。		
授業計画	1回	オリエンテーション グループ分け、各講座の紹介	
	2回	保育×〇〇 「心理・ミュージック・伝統文化・おもちゃ・デジタル・子どもあそび、スポーツ」に分かれて受講。	
	3回	保育×〇〇 「心理・ミュージック・伝統文化・おもちゃ・デジタル・子どもあそび、スポーツ」に分かれて受講。	
	4回	保育×〇〇 「心理・ミュージック・伝統文化・おもちゃ・デジタル・子どもあそび、スポーツ」に分かれて受講。	
	5回	保育×〇〇 「心理・ミュージック・伝統文化・おもちゃ・デジタル・子どもあそび、スポーツ」に分かれて受講。	
	6回	保育×〇〇 「心理・ミュージック・伝統文化・おもちゃ・デジタル・子どもあそび、スポーツ」に分かれて受講。	
	7回	保育×〇〇 「心理・ミュージック・伝統文化・おもちゃ・デジタル・子どもあそび、スポーツ」に分かれて受講。	
	8回	保育×〇〇 「心理・ミュージック・伝統文化・おもちゃ・デジタル・子どもあそび、スポーツ」に分かれて受講。	
	9回	保育×〇〇 「心理・ミュージック・伝統文化・おもちゃ・デジタル・子どもあそび、スポーツ」に分かれて受講。	
	10回	保育×〇〇 「心理・ミュージック・伝統文化・おもちゃ・デジタル・子どもあそび、スポーツ」に分かれて受講。	
	11回	保育×〇〇 「心理・ミュージック・伝統文化・おもちゃ・デジタル・子どもあそび、スポーツ」に分かれて受講。	
	12回	保育×〇〇 「心理・ミュージック・伝統文化・おもちゃ・デジタル・子どもあそび、スポーツ」に分かれて受講。	
	13回	保育×〇〇 「心理・ミュージック・伝統文化・おもちゃ・デジタル・子どもあそび、スポーツ」に分かれて受講。	
	14回	保育×〇〇 「心理・ミュージック・伝統文化・おもちゃ・デジタル・子どもあそび、スポーツ」に分かれて受講。	
	15回	保育×〇〇 「心理・ミュージック・伝統文化・おもちゃ・デジタル・子どもあそび、スポーツ」のゼミごとに学習成果の発表。	
授業科目の目的	1 年生と2 年生が協働での実践体験により、下記の保育者に必要な力をつけることを目的とします。 1. 保育現場に興味を持ち、保育職に就くことへの意欲の向上と知識を習得します。 2. 実践的取り組みによる経験知の蓄積を図ります。 3. 実践活動を通して保育専門職としての基本的資質を培います。 4. 1 年生・2 年生そして教員など、異世代間コミュニケーションをとりながら保育者としての資質を養います。 5. 自然を全身で感じとる体験の中で、様々な事象に興味や関心を持ち、保育者として自然に対して、知識と関わり等、実践的な力を身につけます。		
学修成果	1. 積極的に授業に臨み、日々の課題に対する関心などを持ち行動することができる。（関心・意欲・態度）		

	2. 企画から発表に向けた計画を立てると共に実践することができる。（思考・判断） 3. 自分の役割を踏まえて、責任感と協調性を持って授業に臨むことができる。（協調性） 4. 課題に沿った製作物等を作ったり、演技などで表現したりすることができる。（製作物や演技などの内容や発表）
テキスト	必要に応じて資料を配付します。
参考書	各グループで必要な参考書を紹介します。
授業外学修	授業形式で行う場合は次の通りとします。 予習：毎回の授業の中で、予習課題を出します。（所要時間30分から60分） 復習：毎回の授業の中で、復習課題を出します。（所要時間30分から60分）
フィードバックの方法	毎回の授業の初めに、前回までの進捗状況を確認し合いながら、授業を始めます。お互いに、わかりにくいことなどは、質問し合い、共通理解した上で、授業を進めていくこととします。
定期試験の有無	無
成績評価基準	次の条件を総合的に検討して評価します。 〈保育×分野〉について下記の項目で評価を行います。 1. 関心・意欲・態度（授業態度や日々の課題に対する意欲・関心など）：25% 2. 思考・判断（企画力・創造力・実践力など）：25% 3. 協調性（協力・責任感など）：25% 4. 製作物や演技など内容や発表（製作・表現・発表力など）：25%
受講の心構えとメッセージ	保育の観点から、「心理・ミュージック・おもちゃ・子どもあそび、伝統文化・デジタル・スポーツ」の7つの分野から選択して学びます。こどもの目線に立つことで、今までと違った景色が見えてくると思います。意欲的に取り組み、通常の授業とは違う遊び心を持った授業の中で、保育者としての基本的な技能・技術を身に付けてください。
オフィスアワー	複数の教員が担当します。各教員のオフィスアワーは、Mellyで確認してください。
実務経験の有無	無
実務経験の概要	
その他の事項	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1年	2単位(40時間)	選択
担当教員			
西村 豊、杉山 雄一、野畑 健太郎、長谷 雄一、稲田 達也、田上 栄美子、大西 清文、川端 義明、野村 圭乃、学科教員			
科目ナンバリング：2027B①⑤	授業形態：演習		
添付ファイル			

授業概要	保育者に求められる資質、能力が身に付くような授業内容を展開します。「保育×人権・ミュージック・読み聞かせ、心理、自然、国際、スポーツ」の分野を1・2年の少人数に分かれてゼミナール形式の授業を展開し、保育者として資質を高めます。15回目の授業において各グループによる成果発表を行います。また、集中講義形式で防災教育も行い保育者としての資質を高めます。参加型、実践型、討議型のアクティブラーニングを取り入れた授業となります。		
授業計画	1回	オリエンテーション グループ分け、各講座の紹介	
	2回	保育×〇〇 「保育×人権・ミュージック・読み聞かせ、心理、自然、国際、スポーツ」に分かれて受講。	
	3回	保育×〇〇 「保育×人権・ミュージック・読み聞かせ、心理、自然、国際、スポーツ」に分かれて受講。	
	4回	保育×〇〇 「保育×人権・ミュージック・読み聞かせ、心理、自然、国際、スポーツ」に分かれて受講。	
	5回	保育×〇〇 「保育×人権・ミュージック・読み聞かせ、心理、自然、国際、スポーツ」に分かれて受講。	
	6回	保育×〇〇 「保育×人権・ミュージック・読み聞かせ、心理、自然、国際、スポーツ」に分かれて受講。	
	7回	保育×〇〇 「保育×人権・ミュージック・読み聞かせ、心理、自然、国際、スポーツ」に分かれて受講。	
	8回	保育×〇〇 「保育×人権・ミュージック・読み聞かせ、心理、自然、国際、スポーツ」に分かれて受講。	
	9回	保育×〇〇 「保育×人権・ミュージック・読み聞かせ、心理、自然、国際、スポーツ」に分かれて受講。	
	10回	保育×〇〇 「保育×人権・ミュージック・読み聞かせ、心理、自然、国際、スポーツ」に分かれて受講。	
	11回	保育×〇〇 「保育×人権・ミュージック・読み聞かせ、心理、自然、国際、スポーツ」に分かれて受講。	
	12回	保育×〇〇 「保育×人権・ミュージック・読み聞かせ、心理、自然、国際、スポーツ」に分かれて受講。	
	13回	保育×〇〇 「保育×人権・ミュージック・読み聞かせ、心理、自然、国際、スポーツ」に分かれて受講。	
	14回	保育×〇〇 「保育×人権・ミュージック・読み聞かせ、心理、自然、国際、スポーツ」に分かれて受講。	
	15回	保育×〇〇 「保育×人権・ミュージック・読み聞かせ、心理、自然、国際、スポーツ」のゼミごとに学習成果の発表。	
	16回	防災教育 防災についての学習と実践	
	17回	防災教育 防災についての学習と実践	
	18回	防災教育 防災についての学習と実践	
	19回	防災教育 防災についての学習と実践	
	20回	防災教育 防災についての学習と実践	
授業科目の目的	1年生と2年生が協働で、保育者としての積極的な姿勢をはぐくみ、下記の保育者に必要な力をつけることを目的とします。 1. 保育現場に興味を持ち、保育職に就くことへの意欲の向上と知識を習得します。 2. 実践的取り組みによる経験知の蓄積を図ります。		

	3. 実践活動を通して保育専門職としての基本的資質を培います。 4. 1年生、2年生そして教員など、異世代間コミュニケーションをとりながら保育者としての資質を養います。 5. 防災教育に関心を持ち、防災に対しての知識を身に付け、保育者として子どもの命を守る実践的な力を身につけます。
学修成果	1. 積極的に授業に臨み、日々の課題に対する関心などを持ち行動することができるようにします。（関心・意欲・態度） 2. 企画から発表に向けた計画を立てると共に実践することができるようにします。（思考・判断） 3. 自分の役割を踏まえて、責任感と協調性を持って授業に臨むことができるようにします。（協調性） 4. 課題に沿った製作物等を作ったり、演技などで表現したりすることができるようにします。（製作物や演技などの内容や発表） 5. 防災教育について学び、日常的に防災を意識した行動ができる。（防災活動の体験）
テキスト	必要に応じて資料を配付します。
参考書	随時紹介します。
授業外学修	授業形式で行う場合は次の通りとします。 予習：毎回の授業の中で、予習課題を出します。（所要時間100分から120分） 復習：毎回の授業の中で、復習課題を出します。（所要時間100分から120分）
フィードバックの方法	毎回の授業の初めに、前回までの進捗状況を確認し合いながら、授業を始めます。お互いに、わかりにくいことなどは、質問し合い、共通理解した上で、授業を進めていくこととします。
定期試験の有無	無
成績評価基準	次の条件を総合的に検討して評価します。 1. 関心・意欲・態度（授業態度や日々の課題に対する意欲・関心など）：25% 2. 思考・判断（企画力・創造力・実践力など）：25% 3. 協調性（協力・責任感など）：25% 4. 製作物や演技など内容や発表（製作・表現・発表力など）：25% 最終成績は、〈保育×分野〉80%、〈防災教育〉20%で換算して評価します。
受講の心構えとメッセージ	保育の観点から、「人権・ミュージック・読み聞かせ、心理、自然、国際、スポーツ」の7つの分野から選択して学びます。こどもの目線に立つことで、今までと違った景色が見えてくると思います。 意欲的に取り組み、通常の授業とは違う遊び心を持った授業の中で、保育者としての基本的な技能・技術を身に付けてください。 防災教育では、保育の中における防災教育について考える機会にしてください。
オフィスアワー	複数の教員が担当します。各教員のオフィスアワーは、Mellyで確認してください。
実務経験の有無	無
実務経験の概要	
その他の事項	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2年	1単位(30時間)	選択
担当教員			
室谷 雅美、原田 敬文、栗岡 あけみ、大塚 貴之、小西 浩美、井上 裕子、川端 義明、稲垣 順子、大西 由美子			
科目ナンバリング：2028C①⑤	授業形態：演習		
添付ファイル			

授業概要	保育者に求められる資質、能力が身に付くような授業内容を展開します。「保育×心理・ミュージック・伝統文化・おもちゃ・デジタル・子どもあそび、スポーツ」の分野を1・2年の少人数に分かれてゼミナール形式の授業を展開し、保育者としての資質を高めます。最後の授業において各グループによる成果発表を行います。		
授業計画	1回	オリエンテーション グループ分け、各講座の紹介	
	2回	保育×〇〇 「心理・ミュージック・伝統文化・おもちゃ・デジタル・子どもあそび、スポーツ」に分かれて受講。	
	3回	保育×〇〇 「心理・ミュージック・伝統文化・おもちゃ・デジタル・子どもあそび、スポーツ」に分かれて受講。	
	4回	保育×〇〇 「心理・ミュージック・伝統文化・おもちゃ・デジタル・子どもあそび、スポーツ」に分かれて受講。	
	5回	保育×〇〇 「心理・ミュージック・伝統文化・おもちゃ・デジタル・子どもあそび、スポーツ」に分かれて受講。	
	6回	保育×〇〇 「心理・ミュージック・伝統文化・おもちゃ・デジタル・子どもあそび、スポーツ」に分かれて受講。	
	7回	保育×〇〇 「心理・ミュージック・伝統文化・おもちゃ・デジタル・子どもあそび、スポーツ」に分かれて受講。	
	8回	保育×〇〇 「心理・ミュージック・伝統文化・おもちゃ・デジタル・子どもあそび、スポーツ」に分かれて受講。	
	9回	保育×〇〇 「心理・ミュージック・伝統文化・おもちゃ・デジタル・子どもあそび、スポーツ」に分かれて受講。	
	10回	保育×〇〇 「心理・ミュージック・伝統文化・おもちゃ・デジタル・子どもあそび、スポーツ」に分かれて受講。	
	11回	保育×〇〇 「心理・ミュージック・伝統文化・おもちゃ・デジタル・子どもあそび、スポーツ」に分かれて受講。	
	12回	保育×〇〇 「心理・ミュージック・伝統文化・おもちゃ・デジタル・子どもあそび、スポーツ」に分かれて受講。	
	13回	保育×〇〇 「心理・ミュージック・伝統文化・おもちゃ・デジタル・子どもあそび、スポーツ」に分かれて受講。	
	14回	保育×〇〇 「心理・ミュージック・伝統文化・おもちゃ・デジタル・子どもあそび、スポーツ」に分かれて受講。	
	15回	保育×〇〇 「心理・ミュージック・伝統文化・おもちゃ・デジタル・子どもあそび、スポーツ」のゼミごとに学習成果の発表。	
授業科目の目的	1年生と2年生が協働での実践体験により、下記の保育者に必要な力をつけることを目的とします。 1. 保育現場に興味を持ち、保育職に就くことへの意欲の向上と知識を習得します。 2. 実践的取り組みによる経験知の蓄積を図ります。 3. 実践活動を通して保育専門職としての基本的資質を培います。 4. 1年生、2年生そして教員など、異世代間コミュニケーションをとりながら保育者としての資質を養います。		
学修成果	1. 積極的に授業に臨み、日々の課題に対する関心などを持ち行動することができる。（関心・意欲・態度） 2. 企画から発表に向けた計画を立てると共に実践することができる。（思考・判断）		

	3. 自分の役割を踏まえて、責任感と協調性を持って授業に臨むことができる。（協調性） 4. 課題に沿った製作物等を作ったり、演技などで表現したりすることができる。（製作物や演技などの内容や発表）
テキスト	必要に応じて資料を配付します。
参考書	各グループで必要な参考書を紹介します。
授業外学修	授業形式で行う場合は次の通りとします。 予習：毎回の授業の中で、予習課題を出します。（所要時間30分から60分） 復習：毎回の授業の中で、復習課題を出します。（所要時間30分から60分）
フィードバックの方法	毎回の授業の初めに、前回までの進捗状況を確認し合いながら、授業を始めます。お互いに、わかりにくいことなどは、質問し合い、共通理解した上で、授業を進めていくこととします。
定期試験の有無	無
成績評価基準	次の条件を総合的に検討して評価します。 〈保育×分野〉について下記の項目で評価を行います。 1. 関心・意欲・態度（授業態度や日々の課題に対する意欲・関心など）：25% 2. 思考・判断（企画力・創造力・実践力など）：25% 3. 協調性（協力・責任感など）：25% 4. 製作物や演技など内容や発表（製作・表現・発表力など）：25%
受講の心構えとメッセージ	保育の観点から、「心理・ミュージック・おもちゃ・子どもあそび、伝統文化・デジタル・スポーツ」の7つの分野から選択して学びます。こどもの目線に立つことで、今までと違った景色が見えてくると思います。 意欲的に取り組み、通常の授業とは違う遊び心を持った授業の中で、保育者としての基本的な技能・技術を身に付けてください。
オフィスアワー	複数の教員が担当します。各教員のオフィスアワーは、Mellyで確認してください。
実務経験の有無	無
実務経験の概要	
その他の事項	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2 年	2 単位 (40 時間)	選択
担当教員			
西村 豊、杉山 雄一、野畑 健太郎、長谷 雄一、稲田 達也、田上 栄美子、大西 清文、川端 義明、野村 圭乃、学科教員			
科目ナンバリング：2029D①⑤	授業形態：演習		
添付ファイル			

授業概要	保育者に求められる資質、能力が身に付くような授業内容を展開します。「保育×人権・ミュージック・読み聞かせ、心理、自然、国際、スポーツ」の分野を1・2年の少人数に分かれてゼミナール形式の授業を展開し、保育者として資質を高めます。15回目の授業において各グループによる成果発表を行います。また、集中講義形式で防災教育も行い保育者としての資質を高めます。参加型、実践型、討議型のアクティブラーニングを取り入れた授業となります。		
授業計画	1 回	オリエンテーション グループ分け、各講座の紹介	
	2 回	保育×〇〇 「保育×人権・ミュージック・読み聞かせ、心理、自然、国際、スポーツ」に分かれて受講。	
	3 回	保育×〇〇 「保育×人権・ミュージック・読み聞かせ、心理、自然、国際、スポーツ」に分かれて受講。	
	4 回	保育×〇〇 「保育×人権・ミュージック・読み聞かせ、心理、自然、国際、スポーツ」に分かれて受講。	
	5 回	保育×〇〇 「保育×人権・ミュージック・読み聞かせ、心理、自然、国際、スポーツ」に分かれて受講。	
	6 回	保育×〇〇 「保育×人権・ミュージック・読み聞かせ、心理、自然、国際、スポーツ」に分かれて受講。	
	7 回	保育×〇〇 「保育×人権・ミュージック・読み聞かせ、心理、自然、国際、スポーツ」に分かれて受講。	
	8 回	保育×〇〇 「保育×人権・ミュージック・読み聞かせ、心理、自然、国際、スポーツ」に分かれて受講。	
	9 回	保育×〇〇 「保育×人権・ミュージック・読み聞かせ、心理、自然、国際、スポーツ」に分かれて受講。	
	10 回	保育×〇〇 「保育×人権・ミュージック・読み聞かせ、心理、自然、国際、スポーツ」に分かれて受講。	
	11 回	保育×〇〇 「保育×人権・ミュージック・読み聞かせ、心理、自然、国際、スポーツ」に分かれて受講。	
	12 回	保育×〇〇 「保育×人権・ミュージック・読み聞かせ、心理、自然、国際、スポーツ」に分かれて受講。	
	13 回	保育×〇〇 「保育×人権・ミュージック・読み聞かせ、心理、自然、国際、スポーツ」に分かれて受講。	
	14 回	保育×〇〇 「保育×人権・ミュージック・読み聞かせ、心理、自然、国際、スポーツ」に分かれて受講。	
	15 回	保育×〇〇 「保育×人権・ミュージック・読み聞かせ、心理、自然、国際、スポーツ」のゼミごとに学習成果の発表。	
	16 回	防災教育 防災についての学習と実践	
	17 回	防災教育 防災についての学習と実践	
	18 回	防災教育 防災についての学習と実践	
	19 回	防災教育 防災についての学習と実践	
	20 回	防災教育 防災についての学習と実践	
授業科目の目的	1 年生と 2 年生が協働での実践体験により、下記の保育者に必要な力をつけることを目的とします。 1. 保育現場に興味を持ち、保育職に就くことへの意欲の向上と知識を習得します。 2. 実践的取り組みによる経験知の蓄積を図ります。 3. 実践活動を通して保育専門職としての基本的資質を培います。		

	4. 1年生、2年生そして教員など、異世代間コミュニケーションをとりながら保育者としての資質を養います。 5. 防災教育に関心を持ち、防災に対しての知識を身に付け、保育者として子どもの命を守る実践的な力を身につけます。
学修成果	1. 積極的に授業に臨み、日々の課題に対する関心などを持ち行動することができるようにします。（関心・意欲・態度） 2. 企画から発表に向けた計画を立てると共に実践することができるようにします。（思考・判断） 3. 自分の役割を踏まえて、責任感と協調性を持って授業に臨むことができるようにします。（協調性） 4. 課題に沿った製作物等を作ったり、演技などで表現したりすることができるようにします。（製作物や演技などの内容や発表） 5. 防災教育について学び、日常的に防災を意識した行動ができる。（防災体験の実施）
テキスト	必要に応じて資料を配付します。
参考書	各グループで必要な参考書を紹介します。
授業外学修	授業形式で行う場合は次の通りとします。 予習：毎回の授業の中で、予習課題を出します。（所要時間100分から120分） 復習：毎回の授業の中で、復習課題を出します。（所要時間100分から120分）
フィードバックの方法	毎回の授業の初めに、前回までの進捗状況を確認し合いながら、授業を始めます。お互いに、わかりにくいことなどは、質問し合い、共通理解した上で、授業を進めていくこととします。
定期試験の有無	無
成績評価基準	次の条件を総合的に検討して評価します。 1. 関心・意欲・態度（授業態度や日々の課題に対する意欲・関心など）：25% 2. 思考・判断（企画力・創造力・実践力など）：25% 3. 協調性（協力・責任感など）：25% 4. 製作物や演技など内容や発表（製作・表現・発表力など）：25% 最終成績は、〈保育×分野〉80%、〈防災教育〉20%で換算して評価します。
受講の心構えとメッセージ	保育の観点から、「人権・ミュージック・読み聞かせ、心理、自然、国際、スポーツ」の7つの分野から選択して学びます。子どもの目線に立つことで、今までと違った景色が見えてくると思います。 意欲的に取り組み、通常の授業とは違う遊び心を持った授業の中で、保育者としての基本的な技能・技術を身に付けてください。 防災教育では、保育の中における防災教育について考える機会にしてください。
オフィスアワー	複数の教員が担当します。各教員のオフィスアワーは、Mellyで確認してください。
実務経験の有無	無
実務経験の概要	
その他の事項	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2年	1単位（30時間）	選択
担当教員			
杉山 雄一、田上 栄美子、井上 裕子、木村 清子			
科目ナンバリング：2030C③	授業形態：演習		
添付ファイル			

授業概要	本授業では、1年次科目「こどもの指導法『音楽表現』」で修得した音楽表現の基礎技能を用いて、実際の保育の場を想定しながら具体的な保育内容の実践方法を学び、実践的な音楽的表現活動の指導力を養います。 1年次科目との連続性を考慮し、保育における音楽表現活動の場に応じた応用的なピアノ演奏技能の修得を目指します。また、クラス活動やさまざまな行事で活かすことができる表現遊びを学修します。 1時限を前半・後半で2クラスに分割し、「ピアノ演奏技能応用編」と「クラス活動等への応用編」に別れ、交替して取り組みます。		
授業計画	1回 弾き歌いと音あそび・楽器あそび① ・弾き歌い（秋の歌）（1） ・音を感じる・音であそぶ・楽器あそびの実践と指導法（1） 2回 弾き歌いと音あそび・楽器あそび② ・弾き歌いの実践（秋の歌）（2） ・音を感じる・音であそぶ・楽器あそびの実践と指導法（2） 3回 弾き歌いと音あそび・楽器あそび③ ・弾き歌いの実践（冬の歌）（1） ・音を感じる・音であそぶ・楽器あそびの実践と指導法（3） 4回 弾き歌いと音あそび・楽器あそび④ ・弾き歌いの実践（冬の歌）（2） ・音を感じる・音であそぶ・楽器あそびの実践と指導法（4） 5回 弾き歌いと音あそび・楽器あそび⑤ ・弾き歌いの実践（春の歌）（1） ・音を感じる・音であそぶ・楽器あそびの実践と指導法（5） 6回 弾き歌いと効果音① ・弾き歌いの実践（春の歌）（2） ・絵本・子どものお話あそびに合わせた効果音の研究（1） 7回 弾き歌いと効果音② ・弾き歌いの実践（夏の歌）（1） ・絵本・子どものお話あそびに合わせた効果音の研究（2） 8回 弾き歌いと効果音③ ・弾き歌いの実践（夏の歌）（2） ・絵本・子どものお話あそびに合わせた効果音の研究（3） 9回 弾き歌いとうたあそび① ・弾き歌いの実践（行事の歌、生活の歌） ・うたあそびの実践と指導法（1） 10回 イメージサウンドとうたあそび② ・イメージサウンド（1）～伸びたり縮んだり、歩く、ゆっくり歩く、走る、ゆれる～ ・うたあそびの実践と指導法（2） 11回 イメージサウンドとうたあそび③ ・イメージサウンド（2）～ギャロップ、スキップ、明るい感じ、暗い感じ～ ・うたあそびの実践と指導法（3） 12回 イメージサウンドとうたあそび④ ・イメージサウンド（3）～魔法の音で変身、小さな生き物、大きな生き物、雪が降ってきた～ ・うたあそびの実践と指導法（4） 13回 イメージサウンドとうたあそび⑤ ・イメージサウンド（4）～こわい感じ、宇宙、静けさ～ ・うたあそびの実践と指導法（5） 14回 イメージサウンドとうたあそび⑥ ・イメージサウンド（5）～表現あそびを構成して演奏しよう～ ・うたあそびの実践と指導法（6） 15回 学修のまとめ ・成果発表会（弾き歌い・イメージサウンド） ・振り返り		
授業科目の目的	・領域「表現」のねらいおよび内容の理解に基づいて、より具体的・実践的な保育の場における音楽表現の技能と実践力を修得します。 ・子ども理解、楽曲の理解に基づき、音楽の楽しさを伝えられる「弾き歌い」の実践力を養います。 ・保育実践の場で行う「劇遊び」や「おはなしごっこ」を進めるために効果的な音や音楽の用い方を学び、その応用の可能性を理解します。		
学修成果	・子どもの発達や子どもの姿を理解しながら「弾き歌い」を行い、音楽表現活動を通して表現する喜びや楽しさを子どもたちに伝えることの意義・役割を理解できるようになります。 ・保育実践の場で用いる楽曲のレパートリーを増やし、実習や保育の場で自信を持って子どもたちと関わるこ		

	とができるようになります。 ・音・音楽を保育の活動の中で効果的に用いる方法やピアノ技能を学び、子どもが音楽に親しみ楽しむ保育実践に結びつけることができるようになります。 ・クラス活動や行事などで応用できる音楽的な保育技能を学び、保育活動に応用できるようになります。
テキスト	改訂 幼稚園教諭・保育士養成課程 幼児のための音楽教育／神原雅之他編著／教育芸術社／ISBN:978-4877888220 こどもの指導法「音楽表現」／西野洋子他／豊岡短期大学/2021
参考書	保育士・幼稚園教諭のための 弾き歌い伴奏集 第1巻 [改訂版]／大海由佳他／学研／ISBN：978-4051541637 保育士・幼稚園教諭のための 弾き歌い伴奏集 第2巻 [改訂版]／大海由佳他／学研／ISBN：978-4051541644 ステップ・アップ リトミック／石丸由理他／ドレミ楽譜出版／ISBN：978-4285132762 その他授業の中で必要な楽譜・資料等を紹介します。
授業外学修	授業の課題を十分弾きこなし、自信を持って表現するために、日々30分の予習を要します（0.5時間）。練習が不十分だった楽曲においては、読譜・リズム唱、階名唱、奏法の間違いを確認しながら、復習をしてください（0.5時間）。また、フォローアップセミナー（ピアノ補習）の時間も活用してください。予習・復習は各授業毎に必要です。
フィードバックの方法	授業振り返りカードの提出により、授業内容に対する疑問や気づき、感想等について修正や再度の説明が必要な個所については、次の授業で説明していきます。
定期試験の有無	無
成績評価基準	主体的に学修に取り組む態度：20%、創意・工夫及びレポート：20%、表現・技能（成果発表を含む）：60%
受講の心構えとメッセージ	本科目は、1年次科目「こどもの指導法『音楽表現』」で学んだ知識や技能を素地として、さらに保育の場を具体的にイメージし保育実践で応用することができるピアノの技能、クラス活動や行事を視野に入れた学修内容を網羅しています。机上の学びのみではなく、保育実践に応用したり、さまざまな保育の場で活用したりすることができる内容です。子どもをイメージし、皆さん自身も楽しみながら学修に取り組んでください。後期「こどもと器楽・うたⅡ」で実践する具体的な音楽表現活動の創作に応用できるよう知識・技能を広げてください。
オフィスアワー	初回の授業時に曜日・時間帯等をお伝えします。事前に「melly」で予約をしてから来てください。
実務経験の有無	有
実務経験の概要	杉山：リトミック研究センター認定上級指導員として、幼稚園・保育園・こども園などでリトミック指導を行っています。 田上：小学校に38年間勤務した実務経験があります。 井上：リトミック指導員として、2017年より保育園で週1回子どもたちにリトミック指導を行っています（現在に至る）。 木村：中学校・高等学校などで38年間勤務した実務経験があります。
その他の事項	授業の進み方により、授業内容が入れ替わることがあります。

講義科目名称： 教職論

授業コード： H3001A T3001A

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年	2単位(30時間)	選択
担当教員			
西村 豊			
科目ナンバリング：3001A①	授業形態：講義	幼免必、保必	
添付ファイル			

授業概要	本授業は望ましい教職者（保育者）とは何かを希求し、その実現のために何を学び、理解し、身に付けなければならないかを主要なテーマとします。具体的な授業の内容は、教職者の資質、専門性、制度的位置付け、子ども理解、教職の内容と遊び、計画と相互的な指導、援助の在り方、教職者間の協働、保護者への支援と連絡、地域社会や専門機関・小学校との連携などです。この授業は講義形式が基本ではありますが、調べ学習やグループワーク、プレゼンテーションなどアクティブ・ラーニングを適宜取り入れながら進めていきます。		
授業計画	1	教職とは何か 1 教職（保育）の意義・定義・教職者（保育者）とは何か	
	2	教職とは何か 2 教職者（保育者）に求められる資質・能力	
	3	教職とは何か 3 教職者（保育者）養成の歴史	
	4	教職者の役割 1 教職者（保育者）の資質と役割	
	5	教職者の役割 2 指導計画（保育のねらい・内容）	
	6	教職者の働く環境 1 教職者（保育者）の仕事・義務・研修	
	7	教職者の働く環境 2 教職者（保育者）の職場環境	
	8	教職の法的根拠 1 教職者の制度的な位置付け	
	9	教職の法的根拠 2 教職者の任用と服務	
	10	教職者の実践 1 教育（保育）現場におけるこどもとの関わり（あそび・環境）	
	11	教職者の実践 2 教育（保育）現場における家庭との連携・支援、地域との連携	
	12	変化する教職 1 教職（保育）観の変遷と教員（保育者）の役割	
	13	変化する教職 2 職員間の連携、保育園、幼稚園、小学校との連携（接続カリキュラム）	
	14	変化する教職 3 今日的な教育課題に対応するために（「チーム学校」等）	
	15	教職を目指すということ よい教職者（保育者）になるために（教育実習への心構え）	
授業科目の目的	現代社会における教職の重要性の高まりを背景に、教職（保育）の意義、教職者（保育者）の役割・資質能力・職務内容等についての理解を深めます。さらに、教職（保育）は、子どもの成長発達に指導、援助する仕事であることを理解し、教育（保育）への課題に関心を持ち、授業に関わる専門性について学ぶとともに、あるべき教育（保育）のビジョンを明確にすることを主要なテーマにし、自分が目指す教職者像の確立を図ります。		
学修成果	1. 教職者（保育者）の役割と倫理について理解し、説明できるようにします。 2. 教職者（保育者）の専門性について理解し、説明できるようにします。 3. 幼児の発達と成長について理解し、論じることができるようにします。 4. 教育・保育の目標・ねらい・内容について理解し、実践につなげることができるようにします。 5. 教育・保育の法的、制度的な位置づけについて理解し、説明することができるようにします。 6. 家庭や小学校との連携について理解し、その必要性を論じることができるようにします。		
テキスト	教職論／原田敬文・丹後正俊・吉益敏文／豊岡短期大学		
参考書	保育者・小学校教諭・特別支援学校教諭のための教職論/田中 卓也，松村 齋，川島 民子，古川 治 著/北大路書房／2014年（ISBN978-4762828829） 幼稚園教育要領解説／文部科学省／フレーベル館／2018年（ISBN978-4577814475） 保育所保育指針解説／厚生労働省／フレーベル館／2018年（ISBN978-4577814482） 幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説最新版／内閣府・文部科学省・厚生労働省／フレーベル館／2018年（ISBN978-4577814499）		

授業外学修	予習：毎回の授業の中で、予習課題を出します。（所要時間90分から120分） 復習：毎回の授業の中で、復習課題を出します。（所要時間90分から120分）
フィードバックの方法	前回の授業の振り返りを、授業の初めにおこないます。その際に、各自家庭で復習した内容の質問に対して、教員が説明します。前回までの学習内容を十分に理解したうえで、毎回の授業を始めます。
定期試験の有無	有
成績評価基準	授業態度10%、レポート30%、定期試験60%により総合的に評価します。
受講の心構えとメッセージ	本授業では、教職者(保育者)に求められる素質を中心に学ぶことになります。この学びは、これから教育現場、保育現場で働くみなさんにとって、習得しておかなければならないことばかりです。 また、本授業では、みなさんの考えを求めることも多くあります。自分の考えを整理して、わかりやすく伝えられるよう取り組んでください。 みなさんが、本学を卒業する時は、「守られる人から守る人」へ変容できるように、覚悟を決めて学習しましょう。
オフィスアワー	初回の授業時に曜日と時間はお伝えしますが、週1回、120分をオフィスアワーとしていますので、自由においでください。できるだけ、事前に予約ください。
実務経験の有無	有
実務経験の概要	高等学校に38年間勤務した実務経験があります。
その他の事項	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年	2単位(30時間)	必修
担当教員			
稲田 達也			
科目ナンバリング：3002A①	授業形態：講義	幼免必、保必	
添付ファイル			

授業概要	教育の基本的概念、理念、歴史及び思想について学ぶことにより、どのように教育及び学校が営まれ、変遷してきたかを理解します。また、現代の学校教育に関する社会的及び制度的な仕組みを学ぶことにより、学校と地域の連携及び学校安全に関する意義や必要性を理解します。講義を基本としつつ、内容に応じてグループワーク、調べ学習等を行います。		
授業計画	1 教育とは 教育、教育原理の意義・目的・特性とこども家庭福祉等との関連性 2 教育思想 1 世界の教育思想①ソクラテス〜ルソーの思想・実践 3 教育思想 2 世界の教育思想②ヘルバルト〜デューイの思想・実践 4 教育思想 3 日本の教育思想 5 子どもの発達と教育 発達に合わせた教育のあり方 6 子どもの権利 子どもの権利の変遷 7 幼児教育の現場 1 制度から見る保育所、幼稚園、認定こども園 8 幼児教育の現場 2 内容から見る保育所、幼稚園、認定こども園 9 教育の歴史の変遷 世界における教育の歴史の変遷 10 教育の歴史の変遷 日本における教育の歴史の変遷 11 教育制度 公教育制度、義務教育制度 12 教職・教育方法入門 教師という仕事、教授法 13 教育における今日的課題 1 学習指導要領の改訂に伴う幼児教育の変化 14 教育における今日的課題 2 危機・安全管理カリキュラム、アクティブラーニング 15 教育における今日的課題 3 学校外との連携		
授業科目の目的	教育の思想とその作用、また我が国の教育制度・理念・歴史について学ぶことにより、教育の課題と可能性についての理解を深めること及び学校教育に関する社会的、制度的事項を理解し、地域との連携並びに学校安全に関する理解を深めることを目的とします。		
学修成果	1. 我が国の教育制度の歴史、理念を理解することができるようになります。 2. 保育・教育の法制度、教育課程、教育方法についての基礎知識を習得することができるようになります。 3. 保育・教育の課題と可能性について、自らの考えを伝えることができるようになります。 4. 教育に関する現代的課題とその解決のための取り組みについて理解することができるようになります。		
テキスト	テキスト「教育原理」／菅原健太、伊藤美和子、渡邊舞、明日川知美編／豊岡短期大学通信教育部／2019年		
参考書	幼稚園教育要領解説／文部科学省／フレーベル館／2018年 (ISBN978-4577814475) 保育所保育指針解説／厚生労働省／フレーベル館／2018年 (ISBN978-4577814482) 幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説最新版／内閣府・文部科学省・厚生労働省／フレーベル館／2018年 (ISBN978-4577814499)		
授業外学修	予習・復習について 予習：毎回の授業の中で、予習課題を出します。インターネットや参考図書等で調べることが必要なものもあります（所要時間90分から120分）。 復習：毎回の授業の中で、復習課題を出します。授業の中の説明や、テキスト等を用いて、整理して記述するようにしてください（所要時間90分から120分）。		

フィードバックの方法	授業中に課した小レポートは、修正や再度の説明が必要な個所を次回の授業で口頭にて説明します。小テスト及びレポートは、次回以降の授業時に返却し、コメントの書き込み又は全体への説明が必要なものについては、授業の中で取り上げます。
定期試験の有無	有
成績評価基準	定期試験(60%)、小テスト及びレポート(30%)、講義への参加の態度等(10%)により総合的に評価する。
受講の心構えとメッセージ	本授業では、保育・教育現場の基本的知識については講義形式で行いますが、保育・教育の今日的課題、今後の展望については、ディスカッションも取り入れます。常に新聞やニュースなどをみて、保育や教育現場の動向にアンテナをはっておいてください。
オフィスアワー	初回の授業時に曜日と時間はお伝えしますが、週1回、90分をオフィスアワーとしていますので、自由においでください。臨時の会議や出張などにより不在となる可能性もありますので、事前に声を掛けてくれると確実です。
実務経験の有無	無
実務経験の概要	
その他の事項	授業で配布するプリント類は、各自ファイルしておくこと。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1年	2単位(30時間)	必修
担当教員			
稲田 達也			
科目ナンバリング：3003B②	授業形態：演習	幼免必、保選	
添付ファイル			

授業概要	教育心理学における発達と学習の領域を中心に、「教えること」「育てること」に関する心理学的な考え方を紹介する。「発達」では、幼児、児童期までの発達の特徴や遊びを通じた変化について、「学習」では、実験を基礎とした学習理論や、実際の教育現場での指導・評価の方法について解説する。現代に生きる子どもたちの保育・教育に関して心理学的な観点から考察を深めながら、基礎的知識とともに専門職業人として教育実践、発達援助に活かしていける力を身に付けていく。 授業は、配付したレジメを基に進めていきますが、講義の内容やテーマに合わせて、グループワークやディスカッションなどにより学生がより参加できる形式で進めていきます。		
授業計画	1	教育心理学を学ぶ意義とは 教育心理学における発達、学習、適応、評価と測定／教育心理学の四大領域を学ぶ意義	
	2	生まれ育つとその理解とは 生涯発達心理学の概念／各段階における発達の特徴（言語、運動、認知、社会発達）	
	3	学びとる仕組みとは 連合説と認知説／様々な学習理論の応用	
	4	主体的な学びを支える「やる気」とは 内発的動機付けと外発的動機付け／学習性無力感と自己効力感	
	5	集団での学びとりとその評価とは 学習指導の形態／評価の仕方とその意義	
	6	動機付けからみる発見学習の仕組みとは 発見学習の手続き／発見学習により動機付けが高まる理由	
	7	教育心理学に基づく保育実践とは 発達に応じた保育援助	
	8	発達課題に応じたかかわりとは 各段階の発達の特徴／エリクソンの発達課題	
	9	子どもから大人の頭を使って考えるとは ピアジェの認知発達理論／思考発達段階ごとの特徴	
	10	学びを支える頭に入れる、覚えるとは 感覚記憶、短期記憶、長期記憶／単純記憶から複雑記憶への変化	
	11	子どもの学び育ちの姿とは 日常生活からみる学習の理論／オペラント条件付けを利用した保育実践	
	12	子どものやる気を引き出す指導の在り方 指導者の態度（ピグマリオン効果）／様々な学びの形態とその効果	
	13	子どもの遊びの重要性とは 遊びの変化／遊びを通じた社会性の発達	
	14	子どもと道徳性と思いやりの育成とは 幼児期に迎える第一次反抗期と自立／道徳の指導方法	
	15	教育心理学を用いた環境づくりとは 子どもの学び育ちを見つめる確かな目（評価）／環境との相互作用で育む子ども	
授業科目の目的	教育心理学は、教育や人の発達について心理学的に理解していく心理学のひとつの領域です。発達、学習・教授、性格、適応、測定・評価など教育心理学の基礎的知識の習得することを目指します。また、現代に生きる子どもたちの保育・教育に関して心理学の観点から考察を深めながら、基本的な知識をもとに専門家として保育実践、発達援助に生かしていける力量の担保を目的とします。		
学修成果	1. 幼児、児童及び生徒の心身の発達に対する外的及び内的要因の相互作用、発達に関する代表的理論を踏まえ、発達の概念及び教育における発達の理解の意義を理解し説明することができるようにします。 2. 乳幼児期から青年期の各時期における運動発達・言語発達・認知発達・社会性の発達についてその具体的な内容を理解し説明することができるようにします。 3. 様々な学習の形態や概念及びその過程を説明する代表的理論の基礎を理解することができるようにします。 4. 主体的学習を支える動機づけ・集団づくり・学習評価の在り方について、発達の特徴と関連付けて理解し説明することができるようにします。 5. 幼児、児童及び生徒の心身の発達を踏まえ、主体的な学習活動を支える指導の基礎となる考え方を説明することができるようにします。		
テキスト	未来へつなぐ教育心理学－多文化共生社会を生きる子どもを育むために－／石上浩美編著／嵯峨野書院／2024／ISBN:978-4-7823-0626-0		

参考書	幼稚園教育要領／文部科学省／フレーベル館 ISBN：9784577814222 幼稚園教育要領解説／文部科学省／フレーベル館 ISBN：9784577814475 保育所保育指針／厚生労働省／フレーベル館 ISBN：9784577814239 保育所保育指針解説／厚生労働省／フレーベル館 ISBN：9784577814482 幼保連携型認定こども園教育・保育要領／内閣府・文部科学省・厚生労働省／フレーベル館 ISBN：9784577814246 幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説／内閣府・文部科学省・厚生労働省／フレーベル館 ISBN：9784577814499
授業外学修	予習：毎回の授業の中で、予習課題を出します。インターネットや参考図書等で調べることが必要なものもあります（所要時間：120分程度）。 復習：毎回の授業の中で、復習課題を出します。授業の中の説明や、テキスト等を用いて、整理して記述するようにしてください（所要時間：120分程度）。
フィードバックの方法	授業中に課した小レポートは、修正や再度の説明が必要な個所を次回の授業で口頭にて説明します。小テスト及びレポートは、次回以降の授業時に返却し、コメントの書き込み又は全体への説明が必要なものについては授業の中で取り上げます。
定期試験の有無	有
成績評価基準	授業態度10%、レポート30%、定期試験60%により総合的に数量化して評価します。
受講の心構えとメッセージ	子ども達が「学ぶこと」、そして「教えること」は、「保育」「教育」に携わる人々にとって、とても身近でとても重要な活動になります。ぜひ、一緒に一歩ずつ、考えていければと思います。 また、教育心理学で皆さんが学ぶ事柄は、日々の生活の中にも多くのことが含まれています。しっかりと実感を持ちながら、学んでほしいと願っています。 保育・教育に限らず人生にきっと役立つことも含まれているはずです。予習・復習に取り組み、実践に結びつく生きた知識を得てほしいと思います。
オフィスアワー	初回の授業時に曜日と時間はお伝えしますが、週1回、90分をオフィスアワーとしていますので、自由においでください。臨時の会議や出張などにより不在となる可能性もありますので、事前に声を掛けていただけると確実です。
実務経験の有無	無
実務経験の概要	
その他の事項	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2年	1 単位 (15時間)	選択
担当教員			
原田 敬文			
科目ナンバリング：3004D②	授業形態：講義		幼免必、保選
添付ファイル			

授業概要	子どもたちの特別な教育的ニーズを満たす支援を提供するために、子ども自身の特性を理解するのはもちろん、必要な社会的資源や関係機関についての知識、個別的教育支援計画の作成方法とその利用方法を学んでいきます。そして、教育課程と学び、生活の場のあり方についても知識を獲得するとともに、特別支援教育に関わる幅広い内容を提供します。 授業は、配付したプリントを基に講義形式により進めていきますが、テーマと内容に合わせて、グループディスカッションなど、アクティブ・ラーニングを適宜取り入れながら進めていきます。
授業計画	1 特別な教育的ニーズを持つ子どもへの教育課程 特別な教育的ニーズとは何か／特別支援教育課程と学びの場 2 発達障害や軽度知的障害を持つ子どもの特性 発達障害や軽度知的障害の心と体の育ち／子ども一人ひとりのニーズに合わせた学び 3 視覚障害・聴覚障害・知的障害・肢体不自由・病弱等を含む様々な障害のある子どもの特性 多様な子どものニーズの理解／多様な子どもの学びと生活 4 子どものニーズに合わせた支援 教育課程における支援／通常学級における担任による支援 5 教育チームによる組織的支援 個別の指導計画及び個別的教育支援計画／アセスメントに基づく計画と評価 6 特別支援教育コーディネーター 特別支援教育コーディネーターの役割／教育資源との連携と協働 7 保護者・家庭支援と連携 保護者・家庭をとりまく問題／保護者・家庭とのつながりの重要性 8 特別な教育的ニーズを考える 母国語や貧困の問題等による教育的ニーズの理解／母国語や貧困の問題等による教育的支援
授業科目の目的	特別な教育的ニーズのある子どもたちが、幼稚園・保育所の中でそれぞれの自主性・自発性を発揮し、生きる力の基礎を培うために、特別な教育的ニーズのある子どもの生活上および認知機能における困難を理解していきます。個別の教育的ニーズに対して、外部の関係機関と連携しながら組織的に対応していくために必要な知識や支援方法について学びを深めていきます。
学修成果	1. インクルーシブ教育システムを含めた特別支援教育に関する制度の理念や仕組みを説明することができるようにします。 2. 視覚障害・聴覚障害・知的障害・肢体不自由・病弱等を含む様々な障害のある幼児の生活上および認知機能における困難について理解し、基礎的な知識を説明することができるようにします。 3. 特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する支援の方法について、個別的教育計画の役割を踏まえながら例を示し説明することができるようにします。 4. 外部の関係機関の位置づけや役割を理解し、保育者として連携、協働の必要性について説明することができるようにします。
テキスト	プリントを配付します。
参考書	特別支援教育・障がい児保育の理論と支援／小川圭子・矢野正 編著／嵯峨野書院／2020年（ISBN978-4782306000） 幼稚園教育要領解説／文部科学省／フレーベル館／2018年（ISBN978-4577814475） 保育所保育指針解説／厚生労働省／フレーベル館／2018年（ISBN978-4577814482） 幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説最新版／内閣府・文部科学省・厚生労働省／フレーベル館／2018年（ISBN978-4577814499） 特別支援教育／野口和也、前川洋子、渡辺隼人ほか／豊岡短期大学通教教育部／2019年
授業外学修	予習：毎回の授業の中で、予習課題を出します。自分の考えをまとめるものもあれば、参考図書やインターネット等で調べることが必要なものもあります。この予習には約90分から120分の学習時間を要します。 復習：毎回の授業の中で、復習課題を出します。授業中の説明や、配布プリント等を用いて、整理して記述するようにしてください。この復習には約90分から120分の学習時間を要します。
フィードバックの方法	授業中に課したワークについては、修正や再度の説明が必要な個所について次回の授業で口頭にて説明します。あるいは、次回以降の授業時に返却し、コメントの書き込み又は全体への説明が必要なものについては授業の中で取り上げます。
定期試験の有無	有
成績評価基準	定期試験60%、授業中のワーク提出30%、授業への取り組み態度10%により総合的に評価します。
受講の心構えとメッセージ	子どもたち一人ひとりは、誰一人同じ存在はいるはずありません。子どもたちの有するニーズを理解し、健やかな育ちを支える人的物理的な環境づくりは、保育者として考え抜くことが欠かせません。授業の中では、ニーズを満たす保育を提供するために、皆さんも真摯に熟考することを期待しています。 そして、様々な人的物理的な資源と手を組みすすめる特別支援教育を授業の中で体験してもらうためにも、

	ぜひ、積極的に話し合いに参加してほしいと思います。
オフィスアワー	初回の授業時に曜日と時間はお伝えします。
実務経験の有無	無
実務経験の概要	
その他の事項	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1 年	2 単位 (30時間)	選択
担当教員			
稲田 達也			
科目ナンバリング：3005A②	授業形態：講義	保必	
添付ファイル			

授業概要	はじめに、「心理学」とはどのような学問であるかを理解するところから始めていきます。生涯発達という視点に立ち、こころとからだ、ことば、考える力などの発達を学び、加えて保育実践を行う上で重要な話題を取り上げながら学びを深めていきます。また、子どもたち一人ひとりに寄り添う、より良い保育を提供するために、子どもへの支援・援助、保育計画についても解説します。 授業は、配付したプリントを基に講義形式により進めていきますが、テーマに合わせてグループディスカッションなど、アクティブ・ラーニングを適宜取り入れながら進めていきます。		
授業計画	1	オリエンテーション 発達心理学とは／子どもを理解するとは	
	2	保育と心理学 保育における心理学の位置づけ／発達観	
	3	初期経験の重要性 子どもの育ち、気質と環境／文化	
	4	基本的信頼感の獲得 愛着とはなにか ホスピタリズム／愛着の発達と分類	
	5	発達とは何か 1 誕生から乳幼児期まで	
	6	発達とは何か 2 児童期から老年期まで	
	7	生涯発達の諸理論 心理社会的発達理論／発達課題	
	8	こころの育ち 1 情動の発達と自我	
	9	こころの育ち 2 自己の表出とこころの理論の発達	
	10	からだの育ち 身体発育／原始反射からはじまる運動発達	
	11	考える力の育ち ピアジェの認知発達理論／同化・調整・表象・操作	
	12	ことばの育ち 喃語・幼児語・共同注視と言語発達の臨界期	
	13	発達心理学と教育学の関連 子どものニーズの発見から学校適応	
	14	保育実践の評価と心理学 発達の最近接領域／発達段階の理解による計画・実践	
	15	まとめ 人の育ちと環境との相互作用の意義／振り返りから自分自身の発達を捉える	
授業科目の目的	保育において心理学という学問を扱う意味はどのようなものであるか、この授業では保育者として専門活動をする者として、心理学を学ぶ意義について理解していきます。 発達心理学では、子どもと取り巻く環境との密接な相互の関わりを通じて、発達が進んでいくことを理解することが要となります。そのために心理学における人、行動、ものの見方や考え方を学ぶことが目的となります。 保育者として発達に見合った適切かつ確かな保育を行うために、生涯にわたり続いていくという観点から人間の発達の過程と特徴について理解していきます。		
学修成果	1. 保育に関わる心理学の知識を習得し、保育実践と関連づけることができるようにします。 2. 心理学的な理解を行うために人、行動、ものの見方や考え方を学び、それらを基礎として、子どもの発達を論じることができるようにします。 3. 生涯発達の観点から、誕生から死までの人間の発達における人との相互作用の重要性について理解し、説明することができるようにします。		
テキスト	発達心理学／渡辺隼人・岸靖亮・渡邊舞編著／豊岡短期大学通信教育部／2024年		
参考書	幼稚園教育要領／文部科学省／フレーベル館 ISBN：9784577814222 幼稚園教育要領解説／文部科学省／フレーベル館 ISBN：9784577814475 保育所保育指針／厚生労働省／フレーベル館 ISBN：9784577814239 保育所保育指針解説／厚生労働省／フレーベル館 ISBN：9784577814482		

	幼保連携型認定こども園教育・保育要領／内閣府・文部科学省・厚生労働省／フレーベル館 ISBN：9784577814246 幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説／内閣府・文部科学省・厚生労働省／フレーベル館 ISBN：9784577814499
授業外学修	予習：毎回の授業の中で、予習課題を出します。自分の考えをまとめるものもあれば、参考図書やインターネット等で調べることが必要なものもあります。この予習には120分程度の学習時間を要します。 復習：毎回の授業の中で、復習課題を出します。授業中の説明や、配付プリント等を用いて、整理して記述するようにしてください。この復習には120分程度の学習時間を要します。
フィードバックの方法	授業中に課したワークについては、修正や再度の説明が必要な個所について次の授業で口頭にて説明します。あるいは、次回以降の授業時に返却し、コメントの書き込みまたは全体への説明が必要なものについては授業の中で取り上げます。
定期試験の有無	有
成績評価基準	定期試験60%、授業中のワーク提出30%、授業への取り組み態度10%により総合的に評価します。
受講の心構えとメッセージ	発達心理学は、私たち誰もが歩んできた人生と重なり関係する話題が多く含まれる授業になります。そして、心理学という人のこころを学ぶ学問では、自分自身を振り返り考えを巡らし、確かな学びを得ることが肝心要（かんじんかなめ）となります。 授業では、私たち人の発達に関する知識とともに、各段階での特徴を提供していきます。幼少の頃などを思い返し、その時の感覚も再現させながら、一緒に学んでいきましょう。確かな学びの獲得に向けて、その都度、伝えていく予習・復習にしっかり取り組むことを忘れずに行ってください。
オフィスアワー	初回の授業時に曜日と時間はお伝えします。
実務経験の有無	無
実務経験の概要	
その他の事項	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1 年	2 単位 (30時間)	選択
担当教員			
阪上 節子			
科目ナンバリング：3007B①	授業形態：講義	幼免必、保必	
添付ファイル			

授業概要	教育課程論の全体的な計画とは、幼稚園・保育所・幼保連携型認定こども園での在園期間、あるいは日々の保育の方向性を示す基盤となるものです。授業では、教育課程・全体的な計画とは何か、なぜ必要か、どのような要素から構成されているのかなどの基礎理論を学びます。		
授業計画	1	第1章 なぜ、保育に計画が必要なのか ー保育の計画の基本ー ① 1節 どうして、保育に計画が必要なのか? 2節 小学校以上の計画と、何が違うの? 3節 カリキュラム・マネジメントって何?	
	2	第1章 なぜ、保育に計画が必要なのか ー保育の計画の基本ー ① 4節 保育の計画には、まず子ども理解から? 5節 子どもの発達によって、保育の計画もかわるの?	
	3	第2章 保育の計画とは何か ー保育の計画の基本ー ② 1節 それぞれの計画はどうつながっているの?	
	4	第2章 保育の計画とは何か ー保育の計画の基本ー ② 2節 保育所の計画ってどういうもの?	
	5	第2章 保育の計画とは何か ー保育の計画の基本ー ② 3節 幼稚園の計画ってどういうもの?	
	6	第2章 保育の計画とは何か ー保育の計画の基本ー ② 4節 認定こども園の計画ってどういうもの? 5節 長期計画・短期計画はどうかければいいの?	
	7	第3章 指導計画をどのような構想するか 1節 子どもの姿から構想しよう	
	8	第3章 指導計画をどのような構想するか 2節 保育の流れで捉えて構想しよう 3節 教材研究の重要性を理解し、構想に生かそう	
	9	第4章 指導計画をどのように作成するか 1節 用語と書式を学ぼう	
	10	第4章 指導計画をどのように作成するか 第2節 さまざまな活動内容の書き方を学ぼう	
	11	第4章 指導計画をどのように作成するか 第3節 遊びの指導計画案を作成してみよう	
	12	第4章 指導計画をどのように作成するか 第4節 縦割り保育の計画について学ぼう	
	13	第4章 指導計画をどのように作成するか 第5節 そのほかの計画について学ぼう	
	14	第5章 保育をどう評価し、改善するか 第1節 評価・改善の方法と保護者との共有を学ぼう	
	15	第5章 保育をどう評価し、改善するか 第2節 保育の計画における保育者の専門性って何だろう 第3節 幼稚園幼児指導要録、保育所児童保育要録、認定こども園園児指導要録は どう活用されるの?	
授業科目の目的	幼児教育・保育を理解するための基礎的・基本的な理念をしっかりと捉え、教育課程・全体的な計画とは何か、教育及び保育の計画や評価の在り方がなぜ必要であるか、またどのような要素から構成されているのかを理解することを目的とします。		
学修成果	1. 保育内容の充実と質の向上に資する教育課程・全体的な計画について理解できるようにします。 2. 教育課程・全体的な計画の編成と指導計画の作成について、具体的に習得できるようにします。 3. 編成・実践・点検・評価・改善の過程について、その全体構造を動的にとらえて理解出来るようにします。 4. 教育の成立と家庭・学校・地域社会との連携について学ぶことが出来るようにします。		
テキスト	新・保育の計画と評価 ー理論と実践をつなぐ保育カリキュラム論/前田和代/編著/教育情報出版/ISBN978-4-909378-59-0 C3337		
参考書	幼稚園教育要領解説/文部科学省/フレーベル館		

	保育所保育指針解説／厚生労働省／フレーベル館 幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説／内閣府・文部科学省・厚生労働省／フレーベル館
授業外学修	「確かな学びの習得」に向けて、その都度伝えていく予習・復習にきちんと取り組むことを忘れずに行ってください。 予習：その回のキーワードを学ぶための要点や実践事例を示します。予習では、著書を熟読して授業に臨んでください。 この予習には120分程度の時間を要します。 復習：講義のレジメ、配布資料や実践事例を用いての口頭説明など、学びの要点をまとめておきましょう。 120分程度の時間を要します。
フィードバックの方法	レポートは、学習の要点のまとめであったり、次週の授業の調べであったりします。次週の授業で振り返り、さらに理解を深めてほしい部分については再度授業の中で取り上げていきます。
定期試験の有無	有
成績評価基準	授業態度・意欲30%、課題・レポート10%、定期試験60%により総合的に評価します。
受講の心構えとメッセージ	教育課程・全体的な計画は、幼稚園・保育所・幼保連携型認定こども園での在園期間、あるいは日々の保育の方向性を示す基盤となるものです。授業では、教育課程・全体的な計画とは何か、なぜ必要か、どのような要素から構成されているのかなど、基礎理論を学びます。
オフィスアワー	初回の授業時に曜日と時間はお伝えします。週1回90分をオフィスアワーとしますが、事前に声をかけていただくと確実です。
実務経験の有無	有
実務経験の概要	保育所に40年間勤務した実務経験があります。
その他の事項	常に、「保育所保育指針解説」「幼稚園教育要領解説」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」「新・保育の計画と評価」を利用します。毎回忘れずに持参してください。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1年	1 単位 (30時間)	選択
担当教員			
阪上 節子			
科目ナンバリング：3008B①	授業形態：演習	幼免必、保必	
添付ファイル			

授業概要	本講義では、領域別の授業で学んだ内容を、実際の子どもの姿や保育場面に結び付けて総合的に理解します。改訂、保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領に基づく保育内容の基本的理解が深まるよう、まず理論から実践へ、実践から理論へという循環の過程を大切にしつつ、具体的な実践事例をもとに解説し、受講生が自分の意見を发表或し課題レポートを作成したり行動できる場や、またグループ討議の場を大切に指導力の養成を目指したいと考えています。		
授業計画	1	オリエンテーション 第1章 保育内容総論とは 1 保育所保育に関する基本原則と保育士の専門性 2 養護に関する基本的事項 3 保育の目標・方法・環境と保育所の社会的責任 4 保育の計画及び評価 5 幼児教育を行う施設として共有すべき事項 6 保育所保育指針における保育内容	
	2	第1章 保育所・幼稚園・認定こども園の現状と課題 1 幼稚園・保育所・認定こども園の制度的相違 2 子どもの生活と保育内容	
	3	第1章 保育所・幼稚園・認定こども園の現状と課題 3 幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育保育要録における保育内容	
	4	第2章 保育・幼児教育の思想家たちの功績 1 思想史を学ぶ意味 2 フレーベル(1782～1852) 3 モンテッソーリ(1870～1952)	
	5	第2章 保育・幼児教育の思想家たちの功績 4 倉橋惣三(1882～1955) 5 城戸幡太郎(1893～1985)	
	6	第3章 幼稚園・保育所制度の歩み 1 幼稚園教育の開始 2 幼稚園増加の低迷と簡易幼稚園の奨励 3 保育施設の整備 4 戦後の保育行政 5 1990年代の法改正と保育のとらえ直し	
	7	第4章 特色のある保育内容を探る ―戦前・戦後の保育内容の変遷― 1 明治・大正・昭和戦前期までの保育内容の探究 2 戦後の保育内容の探究	
	8	第5章 保育所の日 ―保育所で展開される生活と遊び― 1 保育所とは 2 保育所における子どもの生活と遊び	
	9	第5章 保育所の日 ―保育所で展開される生活と遊び― 3 子どもの自立と子育て支援 4 豊かな遊びを育むために	
	10	第6章 幼稚園の日 ―幼稚園で展開される生活と遊び― 1 幼稚園とは 2 幼稚園教育の基本と保育内容	
	11	第6章 幼稚園の日 ―幼稚園で展開される生活と遊び― 3 幼稚園での一日の生活と保育者のかかわり 4 幼稚園に求められる役割の拡がり	
	12	第9章 園と家庭との信頼関係 1 園と家庭との連携についての動向 2 子どもが育つ場 3 園と家庭との連携	
	13	第10章 保育所・幼稚園・小学校における連携・接続の課題 1 保育所・幼稚園・認定こども園と小学校における連携・接続の課題	
	14	第10章 保育所・幼稚園・小学校における連携・接続の課題 1 小学校との接続	
	15	第11章 地域の子育て支援の取り組み ―子育て支援と保育内容― 1 地域の子育て支援 2 長時間保育(延長保育) 3 育児相談	

	4 ファミリー・サポート 5 保育ママ・ベビーシッター
授業科目の目的	保育所や幼稚園、幼保連携型認定こども園における「保育」の全体構造について理解し、各領域の保育内容を総合的にとらえる視点から、乳幼児期の発達過程や園での生活、遊びを保育計画に作成し、具体的な環境、子どもの姿、援助や配慮等について保育の流れを概観し、保育実践と結びつけながら学ぶことを目的とします。
学修成果	1. 幼稚園教育要領や保育所保育指針における「保育の目標」「育みたい資質・能力」「5領域」「育ってほしい10の姿」と「保育の内容」の関連を理解できるようにします。 2. 幼稚園教育要領や保育所保育指針の各章のつながりを読み取り、保育の全体的な構造を理解できるようにします。 3. 保育の多様な展開について具体的に理解できるようにします。
テキスト	子どもと社会の未来を拓く ―保育内容―総論/近藤幹生 編著/青踏社/ ISBN978-4-902636-56-7 C 3037 ¥2200円(税込み)
参考書	幼稚園教育要領解説／文部科学省／フレーベル館 保育所保育指針解説／厚生労働省／フレーベル館 幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説／内閣府・文部科学省・厚生労働省／フレーベル館
授業外学修	予習：テキストの該当部分をしっかりと読み、疑問点等を整理しておいてください。この予習には30分程度の時間を要します。 復習：講義のレジメ、配布資料や実践事例を用いての口頭説明など、学びの要点をまとめておきましょう。この復習には30分程度の時間を要します。 予習復習は、各授業ごとに必要です。
フィードバックの方法	レポートは、学習の要点のまとめとなります。 次週の授業で振り返り、さらに理解を深めてほしい部分については再度授業の中で取り上げていきます。
定期試験の有無	有
成績評価基準	授業態度30%、課題・レポート等提出物10%、定期試験60%により総合的に評価します。
受講の心構えとメッセージ	保育内容とは、幼稚園、保育所、認定こども園において展開される子どもの生活と遊びを総合的に含み、子どもは環境を通しての経験や活動全体を表わします。乳幼児期の発達過程、園(所)での生活や遊びを保育計画に立ち上げることで、保育の基本が深まるよう実際の子どもの姿や保育場面に結び付けて学んでいきます。グループ討議やアクティブラーニングなども行います。確かな学びの習得に向けて、その都度伝えていく予習・復習にしっかりと取り組み、積極的な参加を望みます。
オフィスアワー	初回の授業時に曜日と時間はお伝えしますが、週1回90分をオフィスアワーとしています。出来るだけ事前に予約ください。
実務経験の有無	有
実務経験の概要	保育所に40年間勤務した実務経験があります。
その他の事項	「保育所保育指針解説」「幼稚園教育要領解説」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」「保育内容総論」を利用します。毎回忘れずに持参してください。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2 年	1 単位 (15時間)	必修
担当教員			
森本 良孝			
科目ナンバリング：3009D②	授業形態：演習	幼免必、保必	
添付ファイル			

授業概要	乳幼児期の発育・発達の状態に合った配慮の仕方、子どもが健康でたくましく育つための具体的方法について、実践事例を取り上げて学びます。「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」での記述を踏まえ、指導案作成並びに模擬保育を通して、保育者に必要とされる教材の活用法について、討議や実践を行い、乳幼児の育ちを支える保育者の役割について学びます。授業の進め方は、汎用的技能の育成に向けて、グループディスカッションや課題解決・探求学習等にて、健康論の学びを深めるとともに、自らの考えをレポートやプレゼン等にて表現します。
授業計画	1 領域「健康」における指導について 領域「健康」の意味（保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領のねらいと内容の理解）と健康的な生活について 2 模擬保育の構想① 模擬保育の進め方と指導計画立案の理解（グループワーク） 3 模擬保育の構想② 指導計画立案の理解と実践準備（グループワーク） 4 子どもの遊びと運動に関する指導法① 模擬保育の実践（模擬授業） 5 子どもの遊びと運動に関する指導法② 模擬保育の実践（模擬授業） 6 子どもの遊びと運動に関する指導法③ 模擬保育の振り返り（グループワーク） 7 子ども保健に関する指導法① 喫煙教育について（レポート課題） 8 子ども保健に関する指導法② 子どもの性教育について
授業科目の目的	乳幼児期は、生涯にわたって必要となる健康な心と身体的基础を作る重要な時期である。子どもの健康を守り育てるためには実際の保育現場で子どもの発達をどのように捉え、どのような内容について、どのように指導し支援するのが効果的かについて積極的に関与し、適切な指導方法を身に付けることを目的とする。
学修成果	1. 子どもが基本的な生活習慣を獲得するための指導および援助ができるようになります。 2. 幼児期の運動の重要性の理解と発達に合わせて適切な遊び内容を選ぶことができますようにします。 3. 健康に関する教材や保育の指導案作成、模擬保育の体験を通して指導法の基本を理解できるようにします。 4. 子どもの喫煙教育や性教育について理解できるようにします。
テキスト	幼稚園教育要領解説／文部科学省／フレーベル館 保育所保育指針解説書／厚生労働省／フレーベル館 幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説／内閣府・文部科学省・厚生労働省／フレーベル館
参考書	講義内で適宜、知らせます。
授業外学修	予習：要領、指針、保育要領の領域「健康」を毎回熟読し、類似点や相違点を理解しておいてください。（所要時間120分程度） 復習：毎回授業内で復習課題を提示します。授業内容や新聞、図書館を利用し、整理して述べられるようにしてください。（所要時間120分程度）
フィードバックの方法	授業の初めに、前回の授業のフィードバックから始めていきます。
定期試験の有無	有
成績評価基準	受講態度 20%：領域「健康」を理解しようと意欲的に受講し、質疑応答を積極的に行う態度、保育者を目指すものとして、グループワークで自分の意見や考えを述べながら、グループの考えを1つにまとめようと協働する態度などを基準とする。 課題 30%：発達に合った指導案作成、指導案を用いた模擬保育発表などの姿勢を基準とする。 定期試験 50%：授業で取り扱った内容について、保育者としての視点から深く論じていることができているかどうかを基準とする。 上記3領域の配分割合により100点満点で評価し、60点以上を合格とする。
受講の心構えとメッセージ	講義内容を実習で応用するつもりで学んでください。幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領について基本的なことを復習しておいてください。乳幼児が登場する映画を保育者の立場で視聴することを心がけましょう。グループワークは、積極的に参加し、主体的に取り組みましょう。さらには、自身の健康管理には十分責任をもちましょう。
オフィスアワー	初回の授業時に曜日と時間はお伝えしますが、週1回、90分をオフィスアワーとしていますので、自由にお越

	してください。ただし、臨時の会議や出張などにより不在となる可能性もありますので、事前に声をかけてくれると確実です。
実務経験の有無	有
実務経験の概要	小学校に21年間勤務した実務経験があります（幼稚園長3年間含む）。
その他の事項	必要に応じて参考になるプリントを配付しますので、ファイルしておいてください。

講義科目名称： こどもの指導法「人間関係」

授業コード： H3010A T3010A

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1年	1 単位 (15時間)	必修
担当教員			
栗岡 あけみ			
科目ナンバリング：3010B①	授業形態：演習	幼免必、保必	
添付ファイル			

授業概要	子どもたちを取り巻く「人間関係」のあり方や「保育所保育指針」、「幼稚園教育要領」、「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」における領域「人間関係」のねらいや内容について、幼児の姿と保育実践とを関連させて理解を深めます。そのうえで、幼児の発達にふさわしい主体的・対話的で深い学びを実現する保育を具体的に構想し、実践する方法を身に付けます。 この授業は演習形式が基本で、調べる学習やグループワーク、模擬保育を通して人間関係を育てる方法を身に付けていきます。
授業計画	1 領域「人間関係」のねらいと内容、指導上の留意点 ねらいと内容及びその取扱い・保育者としての役割 2 人のかかわりをはぐくむ遊び① 様々な児童文化財（情報機器及び教材の活用法の理解を含む）とその指導法について学習する 3 人のかかわりをはぐくむ遊び② 年齢に応じた遊びの展開について学習する 4 領域「人間関係」の保育計画と展開① 模擬保育で行う年齢の子どもの理解と教材研究を行う 5 領域「人間関係」の保育計画と展開② 協同性を育む活動や遊びの展開について、情報機器及び教材の活用法を理解し、指導案作成を行う 6 領域「人間関係」の保育計画と展開③ 作成した指導案を基に、模擬保育を行う 7 領域「人間関係」の保育計画と展開④ 模擬保育の振り返りを行い、改善点を見出す 8 保育計画の展望 模擬保育実践の評価と援助における自己の課題について考察する
授業科目の目的	幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領の領域「人間関係」について、乳幼児期の人間関係の発達の特徴をふまえ、保育における人との関わりを育むための具体的な指導場面を想定した保育を構想する方法を身に付けていきます。
学修成果	1. 保育内容の領域「人間関係」のねらいと内容、指導上の留意点を理解し説明できるようにします。 2. 模擬保育への取り組みを通して保育を構想し実践する方法を身に付けることができます。 3. 幼児の人との関わりを育む指導について省察することができるようにします。
テキスト	幼稚園教育要領解説／文部科学省／フレーベル館／2018年（ISBN978-4577814475） 保育所保育指針解説／厚生労働省／フレーベル館／2018年（ISBN978-4577814482） 幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説最新版／内閣府・文部科学省・厚生労働省／フレーベル館／2018年（ISBN978-4577814499）
参考書	適時、授業内で紹介します。
授業外学修	予習は、各自で指導案を作成するために、幼稚園教育要領解説書等の読み込みをしておいてください（90分～120分）。 復習は、配付資料を繰り返し読み返すことで子ども理解が深まります（90分～120分）。
フィードバックの方法	前回の授業の振り返りを、授業の初めに行います。その際に、各自家庭で復習した内容の質問に対して、教員が説明します。前回までの学習内容を十分に理解したうえで、毎回の授業を始めます。
定期試験の有無	有
成績評価基準	定期試験（60%）、レポート（25%）、講義への参加の態度等（15%）により総合的に評価します。
受講の心構えとメッセージ	・グループワークによる模擬保育の計画・実践・振り返りが主となるので、グループワークにおける各自の役割に責任をもち、主体的・対話的に課題に取り組んでください。 ・図書館を利用し、保育雑誌に目を通し、発達や季節に応じた保育内容の学習や、教材の試作に主体的に取り組みましょう。 ・子育てひろば等に積極的に出向き、親子の関わりや遊びの様子を観察しましょう。
オフィスアワー	初回の授業時に曜日と時間はお伝えしますが、週1回、90分をオフィスアワーとしていますので、自由においでください。できるだけ、事前に予約ください。
実務経験の有無	有
実務経験の概要	幼稚園に33年間勤務した実務経験があります。
その他の事項	授業で配付する資料は、各自ファイルを作成して綴じておきましょう。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2 年	1 単位 (15時間)	必修
担当教員			
大西 由美子			
科目ナンバリング：3011C①	授業形態：演習	幼免必、保必	
添付ファイル			

授業概要	子どもは、様々な環境の中で生活をしています。それは家庭・地域社会・保育所・幼稚園・認定こども園であり、また「物的環境」「人的環境」「自然環境」「社会環境」の中で生きています。様々な生活経験を通して、人格形成をはじめ思考力・創造力・想像力等を学びます。本科目では、環境とは何かを理解し、そこにどう関わるかを中心に、保育現場における具体的事例を上げて学習していきます。 また、グループ学習を含め、視聴覚教材を使用し、より深く学んでいきます。授業の進め方は、汎用的技能の育成に向けて、グループディスカッションや課題解決・探求学習等にて、環境論の学びを深めるとともに、自らの考えをレポートやプレゼンテーション等にて表現します。		
授業計画	1	環境とは 環境という言葉、環境の定義 環境を通して行う保育の意味	
	2	領域「環境」の位置づけ ねらいと内容 指導上の留意点と指導計画、評価の考え方 好奇心・探究心 思考力の芽生え 自然と遊ぶ・指導計画	
	3	行事の捉え方 季節の行事「伝統行事」たなばたの由来・七夕制作	
	4	身近な環境の構成（指導案の構成と作成） 人的環境・物的環境 自然環境、社会・文化環境	
	5	お店屋さんごっこ・指導計画・指導案 保育者の3つの役割 環境要素の一つ 保育実践から見えるコーディネーター的役割 こども同士のかかわりあいから考える保育構想 お店屋さんごっこの制作と環境構成	
	6	保育環境のデザイン 室内環境における模擬保育と振り返り 1 室外環境における模擬保育と振り返り 2 お店屋さんごっこ実践と振り返り	
	7	こどもの遊びの世界における「3間」の意味と保育の課題 伝承的な遊びの機会 昔から親しまれている集団遊びの実践	
	8	保育における環境の重要性と小学校との連続性 文字との出会い 数量と図形・ものの性質との出会い まとめ	
授業科目の目的	乳幼児期のこどもの発達と環境の関係性を考えることにより、より良い保育を実践する重要性を認識する必要があります。また、保育者が保育環境の構成をどうデザインするかということについても学び、環境を通して行う保育の意味について考えていきます。		
学修成果	1. 保育内容「環境」のねらいと内容を理解することができるようになります。 2. こどもを取り巻く様々な環境（人的・物的・自然・社会・文化）について理解し、関心をもつことができるようになります。 3. 保育者の役割を常に考え、保育を実践できる力をつけることができますようにします。		
テキスト	幼稚園教育要領解説/文部科学省/フレーベル館 2018年 保育所保育指針解説書/厚生労働省/フレーベル館 2018年 幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説/内閣府/フレーベル館		
参考書	「新子どもと環境」－理論編 小田豊監修（三晃書房）（ISBN：9784783080022） 「新子どもと環境」－実技・実践編 小田豊監修（三晃書房）（ISBN：9784783080039）		
授業外学修	毎回授業前には、資料を熟読して予習し、授業後には、配付資料に目を通し復習することが大切です。（予習：120分程度、復習：120分程度）		
フィードバックの方法	授業は、前回の授業のフィードバックからはじめていきます。特に、様々な環境の振り返りを行い、さらに各自の復習で深まった点の発表を行い、教員がさらに補足します。		
定期試験の有無	有		
成績評価基準	受講態度10%：授業内での関心・意欲・思考力・判断力を基準とする。 課題40%：グループワークでの発表内容を基準とする。 定期試験50%：授業の内容を踏まえ、保育者を目指す上での体験を生かし、解答することができるかを基準とする。		
受講の心構えとメッセージ	この科目の授業形態は「演習」科目です。従ってテスト成績が良いだけでは不十分です。 保育者として、子どもとどのように関わり、どのように成長・発達を支援するかを考えて、保育力・教師力を身につけることを目指して授業に参加してください。こどもの立場に立って指導することを念頭におき、ひと		

	つの事例に対して自分ならばどのように環境構成を行い誘導・指導するか、できるかを常に具体的に考えて積極的に取り組んでください。日常的に、社会事象、天体、身近な自然事象、人のかかわりの様子について興味をもち、よく観察して保育の眼を養う努力をしてください。
オフィスアワー	初回の授業時に曜日と時間はお伝えしますが、週1回、90分をオフィスアワーとしていますので、自由にお越しください。ただし、臨時の会議や出張などにより不在となる可能性もありますので、事前に声をかけてくれると確実です。
実務経験の有無	有
実務経験の概要	幼稚園・保育所・認定こども園に35年間勤務した実務経験があります。
その他の事項	資料を配付します。ファイルを準備しておくこと。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1年	1 単位(15時間)	必修
担当教員			
長谷 雄一、小西 浩美			
科目ナンバリング：3012B③	授業形態：演習	幼免必、保必	
添付ファイル			

授業概要	乳幼児期の言葉の発達やそのしくみ、言葉を育む保育者の言葉のあり方、関わり方などについて学習を深めるとともに、日本語の持つ美しさ、伝統の豊かさを知り、言語教材に生かす方法を学びます。乳幼児期に言葉を獲得することの意義を探索します。
授業計画	1 幼児教育と言葉 言葉とは何か。人間とことば。乳幼児期の言葉の発達と保育者の役割 領域「言葉」の位置付けと他領域との関わり 生活と言葉（聞く、話す、読む、書く）、言葉環境としての保育者の言葉のあり方 2 乳幼児期の言葉の発達過程と保育者としての評価 領域「言葉」指導上の留意点と評価 0歳～5歳における言葉の発達、6歳の就学に向けた取り組み 3 言葉を豊かに育む活動（1） 言葉遊びに関する教材の活用（情報機器を利用した活用例の紹介を含む） わらべうた、なぞなぞ、しりとり、ごっこ遊び、劇遊び等、言葉遊びによる指導案作成及び模擬保育体験と振り返り 4 言葉を豊かに育む活動（2） 言葉から文字へ、文字による環境 文字体験としてのカルタ・双六・絵カード等の制作（情報機器活用による制作例の紹介を含む） 及び模擬保育体験と振り返り 5 保育者と言葉のあり方 言葉の遅れや障がいをもつ乳幼児の捉え方と支援 外国の子どもとの対応 6 言葉を豊かに育む活動（3） 言語教材としての絵本の意義 絵本と、デジタル教材と保育現場の実際及び言語教材を用いた指導案について 7 言葉を豊かに育む活動（4） 絵本、お話等の指導法と情報機器の利用について 絵本、お話等の実践による指導案作成及び模擬保育体験と振り返り 8 言葉の年間授業計画と幼稚園、保育園、こども園と小学校との連携 学習のまとめ
授業科目の目的	1. 乳幼児期の言葉がどのような過程を経て獲得されるのかを学び、人とのふれ合いや環境をふまえ、より良い発達のための関わり方を考察します。 2. 子ども自らが言葉を発することの意味を保育者、友達、保護者との関係から認識し理解します。 3. 乳幼児期の言葉を育む児童文化財（絵本・紙芝居・シアター類・お話・言葉遊び・文字体験）などの特色や扱いを学びます。 4. 子どもの表現や行動に表れる心情や思考をくみ取り、より良い発達をサポートできる方法を学びます。 5. 言葉の障がい、外国にゆかりのある子どもについて問題点を認識し、配慮、支援のあり方を理解します。
学修成果	1. 乳幼児期の言葉の発達過程を学び、簡単に説明できる。 2. 子どもが経験したことや考えたことを楽しく会話し、相手の話す言葉を聞こうとする意欲や態度を育てるための関わり合い方を理解することができる。 3. 子どもが生活や遊びを通して、日本語の美しさや伝統の豊かさを感じ取れるようにする工夫を保育に生かせる。 4. 子どもの豊かな言葉を育む文化財の特色を知り、それらの用い方を理解し、実演することができる。 5. 言葉に問題があったり、遅れがあったりする幼児、また外国にゆかりのある子ども等について理解を深め、個々に応じた配慮、支援があることを知る。
テキスト	随時、資料を配付します。
参考書	事例で学ぶ保育内容領域言葉／無藤隆監修宮里暁美編／萌林書林／ISBN：978-4893472595 保育所保育指針解説（最新版）／厚生労働省／フレーベル館／ISBN：978-4-577-81448-2 幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説（最新版）／内閣府・文部科学省・厚生労働省／フレーベル館館／ISBN：978-4-577-81449-9 幼稚園教育要領解説（最新版）／文部科学省／フレーベル館／ISBN：978-4-577-81447-5
授業外学修	こどもの言葉の獲得について調べてまとめておく（各授業毎に予習復習がそれぞれ120分程度の学修を必要とします）。
フィードバックの方法	授業の内容、課題や提出物に関する学生からの疑問点や質問については、授業内で振り返り等の時間を設定し学びを深めるために教員が説明していきます。
定期試験の有無	有
成績評価基準	定期試験50%、授業・課題、提出物に取り組む姿勢20%、提出物・実践30%により総合的に評価します。

受講の心構えとメッセージ	言語獲得期の子どもにとって、そのモデルとなる保育者の言葉への感覚や表現は、極めて重大です。あなた自身が、日本語の美しさ、伝統の豊かさを知り、感性を磨くことが大切です。そして、子どもたちが心から会話を楽しみ、相手の話を聞こうとする意欲や態度を育み、それぞれの個性の違いに気づけるような心を育むにはどうすれば良いか考えてみてください。また、言葉を育む文化財を演じる時は、心から楽しんでください。積極的な授業参加を望みます。
オフィスアワー	初回の授業時に曜日と時間はお伝えします。事前に、「melly」を使って予約を取ってください。
実務経験の有無	有
実務経験の概要	長谷：高等学校に5年間勤務した実務経験があります。 小西：幼稚園に39年間勤務した実務経験があります。
その他の事項	授業の進行に関して、都合により入れ替えることがあります。

講義科目名称： こどもの指導法「リズム表現」

授業コード： H3013A T3013A

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年	1単位（15時間）	必修
担当教員			
井上 裕子			
科目ナンバリング：3013A③	授業形態：演習	幼免必、保必	
添付ファイル			

授業概要	乳幼児にとって音楽と身体は、自己表現と密接な関係がある。こどもにとっての表現について、年齢によって異なる意義や方法（教具を使う使わない・リトミック）を学びながら、音楽の中での身体活動が、感性と表現に関する領域「表現」の内容をこどもたちに育むために、どのような役割を担っているのかを考える。		
授業計画	1回	領域「表現」の中での音楽について 音楽とは（音楽の歴史的流れと教育から見た流れ）/リトミックとお遊戯の違い/リズム表現（身体表現）の意義とは/音楽から見た年齢によって異なるリズム表現（身体活動）	
	2回	表現方法Ⅰ 教具を使わない活動:基本的な動き（歩く・走る・跳ぶ・ギャロップ・スキップなど）を使った活動	
	3回	表現方法Ⅱ 教具を使つての活動：スカーフ、ボール、ロープ（ひも）、フープを使った活動	
	4回	表現方法Ⅲ 教具を使つての活動：言葉（オノマトペなど）、色、数を使った活動 リトミックの中での絵本の使い方	
	5回	身近な素材で手作り楽器 （楽器製作にあたり、おりがみ10枚ほど・はさみ・セロハンテープ・黒ペン・ペットボトルのふた2個を準備してください）	
	6回	グループ発表の準備 （グループ分けをして、各グループで今までの授業を参考に、10～15分ほどのリズム遊びの活動を考えてもらいます）	
	7回	グループ発表の準備 （グループ分けをして、各グループで今までの授業を参考に、10～15分ほどのリズム遊びの活動を考えてもらいます）	
	8回	各グループで考えたリズム遊び活動発表 （まとめ）	
授業科目の目的	保育内容を理解し、音楽的表現を展開するために必要な知識や技術を見出し、保育の方法を修得することを目的とする。また、こどもの表現の指導援助者として、保育で扱う教材について必要な知識を併せて修得する。		
学修成果	保育現場でそれぞれの年齢や発達過程に応じた音楽と身体を使った活動（導入→表現活動→展開）が一つでも実践出来るように、考え方を身に付ける。		
テキスト	必要に応じて、配布します。		
参考書	・幼稚園教育要領解説／文部科学省／フレーベル館（ISBN:978-4577812457） ・保育所保育指針解説／厚生労働省／フレーベル館（ISBN:978-4577814482） ・幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説／内閣府・文部科学省・厚生労働省／フレーベル館（ISBN:978-4577813737） 適宜紹介します。		
授業外学修	こどもの発達（身体的・言語的・心理的）について調べておくこと。その日の授業内容を振り返り、実践で役立てられるように、自分の言葉でノートにまとめておく。各授業ごとの予習復習に、それぞれ90分～120分程度の学修を必要とします。		
フィードバックの方法	授業の中での疑問や理解できなかった点、授業を通して気づいたことなどについて、修正や再度の説明が必要な個所は次回の授業で解説します。		
定期試験の有無	有		
成績評価基準	授業での活動への取り組み（30%）、ミニツッペーパー（毎回授業の振り返りなどを記入してもらい回収）（20%）、定期試験（50%）を、総合的に評価します。		
受講の心構えとメッセージ	7.5コマという短い授業時間数の中で、内容を修得して行かなくてはなりませんので、欠席、遅刻、早退することがないように頑張ってください。		
オフィスアワー	初回の授業時に曜日と時間をお伝えします。事前に「melly」で予約をしてから来てください。		
実務経験の有無	有		
実務経験の概要	リトミック指導員として、2017年より保育園で週に1回こどもたちにリトミック指導を行っています（現在に至る）。		
その他の事項	実践を通しての学びの授業ですので、動きやすい服装で臨んでください。また、ホールを使用する場合は上履きが必要になりますので、準備しておいてください。		

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2年	1単位（15時間）	必修
担当教員			
大塚 貴之、三好 和幸			
科目ナンバリング：3014C③	授業形態：演習	幼免選、保必	
添付ファイル			

授業概要	乳幼児の表現活動の大切さと発達過程や造形的な表現の特徴の理解に向けた学習をします。さらに材料・用具、手法をもとに「かく」「つくる」「かく」などの題材や環境構成、指導・援助のあり方についての知識と製作体験とを関連づけながら学習を深めます。 授業の進め方は「造形表現論」で学習した内容をもとに製作体験を行っていきます。		
授業計画	1	オリエンテーション（授業概要と成績評価） 幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領における「表現」領域及び小学校との連携（「図画工作」の学習指導要領） 保育内容「表現」領域 造形教育の思潮と指導法の推移及びこどもの発達段階における表現の特徴 造形教育の思潮の変遷 こどもの発達段階と表現の特徴	
	2	教材研究を伴う製作1（かく） 実際の教材を踏まえた材料（コンテパステル）によるかく製作体験（手）	
	3	教材研究を伴う製作2（造形あそび） 実際の教材を踏まえた版画手法による造形あそびの体験（ローラー転がし等）	
	4	教材研究を伴う製作3（つくる） 実際の教材を踏まえた材料（紙）によるつくる製作体験（動物）	
	5	教材研究を伴う製作4（つくる） 実際の教材を踏まえた材料（紙）によるつくる製作体験（花）	
	6	教材研究を伴う製作5（造形あそび） 実際の教材を踏まえた版画手法による造形あそびの体験（型染め）	
	7	こどもの発達段階における表現の指導・援助（指導案）と評価 実践的な指導法（模擬保育等）の学習（かく・つくる・造形あそび） 各発達段階における指導・援助 テーマをもとに導入段階の実際	
	8	かく、つくる、造形あそびの保育展開（指導法）と情報機器及び教材の活用まとめ 指導のねらいと指導案（3歳児と5歳児） 情報機器の可能性 振り返り	
授業科目の目的	保育の内容を理解し、乳幼児を含めた子どもの造形の指導・援助者として、子どもの発達と保育の中で取り扱う教材に必要な知識、さらに材料・用具の操作体験など実践学習を通して学習することを目的とします。		
学修成果	1. 保育指導法「表現」のねらいと内容等に基づいた保育の基本について理解できるようにします。 2. 乳幼児の表現活動の大切さと発達段階を踏まえた造形的な表現の特徴が理解できるようにします。 3. 乳幼児の造形表現活動の展開と援助のあり方を学び、保育者としての知識と技術を習得できるようにします。		
テキスト	造形表現論／岩田健一郎他／豊岡短期大学 幼稚園教育要領解説（最新版）／文部科学省／フレーベル館（ISBN 9784577814475） 保育所保育指針解説（最新版）／厚生労働省／フレーベル館（ISBN 9784577812426） 幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説（最新版）／内閣府・文部科学省・厚生労働省／フレーベル館（ISBN 9784577814499）		
参考書	市販の幼児造形、造形に関する参考書		
授業外学修	予習や復習の学習として、授業前に授業概要（シラバス）とテキストの関連個所に目を通して準備することと、課題が時間内に終わらなかった場合には、提出締め切りまでに復習を兼ね、じっくりと学習してください。各授業において、予習復習には、各々120分程度を要します。また、幼稚園、保育所等の現場での造形物や子どもが遊ぶ姿を観察し、発達段階と表現の関係を深めていくことも心がけてください。		
フィードバックの方法	小テスト（造形あそびの手法）の結果は返却し、必要な個所は説明し理解を深めます。 製作体験を通して始めて分かる各手法のポイント、幼児に指導する教材の留意点等を振り返り押さえていきます。		
定期試験の有無	有		
成績評価基準	定期試験50%、課題、小テスト、40%受講姿勢10%で評価します。		
受講の心構えとメッセージ	乳幼児がモノに触れ、操作していく表現活動は、子どもたちの豊かな育ちのために重要かつ不可欠なことです。皆さんは乳幼児がこれからの時代を生きていくための思考力・判断力・表現力の土台になる力を育むことを理解し、保育者として子どもの姿を現実的にイメージし、実践できる力を貪欲に身に付けてください。		
オフィスアワー	初回の授業で曜日と時間はお伝えしますが、週1回、90分をオフィスアワーにしています。図工室や研究室等で行いますが、内容は授業のことを始めなんでもかまいません。		
実務経験の有無	無		

実務経験の概要	
その他の事項	テキスト、デザインセットは毎回持って来てください。その他の教材は準備します。 絵具等を使用する授業回はエプロン等を準備してください。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2年	1単位（15時間）	選択
担当教員			
長谷 雄一、小西 浩美			
科目ナンバリング：3015D②	授業形態：演習	幼免選、保必	
添付ファイル			

授業概要	子どもの言語発達を促す児童文化財（絵本・紙芝居・シアター類・ことば遊び・子どもの歌など）について学び、文化財の作製や扱いが上手にできる技術を身に付けます。子どもの年齢（月齢）に即した言語表現を知り、その表現をより良く発展させられる保育の構築を目指すための基本姿勢を学びます。自らが作品を創り、楽しみ、言語による表現ができるようになります。		
授業計画	1	授業ガイダンス 保育と言語表現 保育所保育指針・幼稚園教育要領の中の位置づけ	
	2	保育現場における言語表現 ことばと表現力を育む児童文化財	
	3	児童文化財 絵本の選書読み聞かせ絵本から保育への展開諸外国の絵本	
	4	児童文化財 素話の世界 紙芝居ことば遊びカルタしりとり シアタースタイルペーパーサート	
	5	児童文化財の保育への展開 事例紹介 指導案作成から模擬保育へ	
	6	児童文化財の保育への展開 模擬保育と振り返り・考察	
	7	児童文化財の保育への展開 模擬保育と振り返り・考察	
	8	児童文化財の保育への展開 まとめグループワーク	
授業科目の目的	1. 児童文化財（絵本・紙芝居・シアター類・伝承遊び・子どもの歌など）の特徴と遊び方を学びます。 2. 子どもの年齢（月齢）に即した言語表現を知り、適した文化財の使用や表現法を学び、実演してみます。 3. 情報機器の使用によって新しい児童文化財の創作の幅を広げ、保育に役立つ方法を考えます。 4. 児童文化財を創作し、表現するための指導案を作成でき、演じられるようになる。自己評価、相互評価をします。		
学修成果	1. 子どもの言語表現についての知識を学び、児童文化財の必要性、特色が説明でき、演じることができます。 2. 一つの教材を多面的に捉え、工夫、創作することから、こどもの言語表現活動に役立つ力を身に付けることができます。		
テキスト	随時、資料を配付します。 保育所保育指針解説（最新版）／厚生労働省／フレーベル館／ISBN：978-4-577-81448-2 幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説（最新版）／内閣府・文部科学省・厚生労働省／フレーベル館館／ISBN：978-4-577-81449-9 幼稚園教育要領解説（最新版）／文部科学省／フレーベル館／ISBN：978-4-577-81447-5		
参考書	ことばと表現力を育む児童文化（第2版）／川勝泰介、浅岡靖央、生駒幸子編著／萌文書林ISBN：978-4893472779 演習児童文化／保育内容としての実践と展開／小川清美／萌文書林／ISBN：978-4893471444 うたってかんたんパネルシアター／古宇田亮純監修／ひかりのくに／ISBN：978-4564608834 保育所保育指針解説（最新版）／厚生労働省／フレーベル館／ISBN：978-4-577-81448-2 幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説（最新版）／内閣府・文部科学省・厚生労働省／フレーベル館館／ISBN：978-4-577-81449-9		
授業外学修	児童文化財の中から保育実践で使いたいものを1つ選びまとめておくこと。各授業において、予習復習にはそれぞれ120分程度の学修を必要とします。		
フィードバックの方法	授業の内容、課題や提出物に関する学生からの疑問点や質問については、授業内で振り返り等の時間を設定し学びを深めるために教員が説明していきます。		
定期試験の有無	有		
成績評価基準	定期試験60%、授業・課題、提出物に取り組む姿勢20%、課題・提出物20%により総合的に評価します。		
受講の心構えとメッセージ	単に児童文化財を作製して演じるだけでなく、同じ絵人形を使いながらも子どもの年齢（月齢）ごとの言語表現に合わせた言葉選びや表現ができるようになります。		
オフィスアワー	初回の授業時に曜日と時間はお伝えします。事前に、「melly」を使って予約を取ってください。		

実務経験の有無	有
実務経験の概要	長谷：高等学校に5年間勤務した実務経験があります。 小西：幼稚園に39年間勤務した実務経験があります。
その他の事項	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	1年	2単位（60時間）	選択
担当教員			
杉山 雄一、田上 栄美子、井上 裕子、木村 清子			
科目ナンバリング：3016AB③	授業形態：演習	幼免選、保必	
添付ファイル			

授業概要	感性と表現に関する領域「表現」における幼児期の終わりまでに育ってほしい「豊かな感性と表現」を育む理論を理解・実践する重要な授業です。領域「表現」のねらいを理解するとともに、音楽を通した様々な表現活動の在り方や実践方法を修得します。また、小学校教科「音楽」とのつながりについても触れていきます。授業は一時限を二分割し、講義とピアノ演習に分けて行います。より良い保育実践をイメージした音楽表現活動の理解と実践、ピアノ演奏及び弾き歌いの基礎技能の修得を目指します。		
授業計画	1	事前課題の発表とピアノ奏法の基礎 ・事前課題の発表 ・表現活動を支える基本的なピアノ奏法の修得と実践	
	2	乳幼児の歌と和音奏① ・コードネームの理解と表現活動（1） ・乳幼児と歌うための根音奏・和音奏の実践（1）	
	3	乳幼児の歌と和音奏② ・コードネームの理解と表現活動（2） ・乳幼児と歌うための根音奏・和音奏の実践（2）	
	4	乳幼児の歌と和音奏③ ・コードネームの理解と表現活動（3） ・乳幼児と歌うための根音奏・和音奏の実践（3）	
	5	表域「表現」の理解と伴奏の基礎知識 ・領域「表現」のねらい及び内容などの理解 ・表現活動を支える伴奏についての基礎知識の修得と実践	
	6	音楽表現の理解と伴奏法 ・乳幼児の発達過程に応じた音楽表現の理解（1） ・楽譜を読み解き伴奏するための基礎知識	
	7	音楽表現と音楽要素の理解 ・乳幼児の発達過程に応じた音楽表現の理解（2） ・表現活動における伴奏の方法と音階・拍子・テンポ・リズム等の理解	
	8	身近な音への気づきと表現方法 ・映像視聴などによる身近な音風景「自然の音」「身の周りの音」への気づきと表現方法（1） ・サウンドスケープなどの実践と器楽による表現及び伴奏法	
	9	身近な音の表現と伴奏法 ・映像視聴などによる身近な音風景「自然の音」「身の周りの音」への気づきと表現方法（2） ・自然の音・身の回りの音を表現する様々な伴奏形の実践	
	10	「歌う」表現活動と伴奏法 ・声の仕組み・「歌う」表現活動の理解① ・乳幼児の発達とその表現活動を促す伴奏法	
	11	「歌う」表現活動と「弾き歌い」 ・声の仕組み・「歌う」表現活動の理解（1） ・乳幼児の発達とその表現活動を促す「弾き歌い」の実践（発達に応じた音域で歌える楽曲）	
	12	乳幼児の「声」の発達と表現活動 ・映像を活用した誕生～1歳未満児頃の「声」の発達と表現活動の理解と実践 ・乳幼児の「声」に合わせた表現活動を育む伴奏法	
	13	乳幼児の「声」の発達と和音奏 ・映像を活用した1～2歳児頃の「声」の発達と表現活動の理解と実践 ・乳幼児の「声」に合わせた表現活動を支える伴奏法	
	14	乳幼児の「声」の発達と伴奏法 ・映像を活用した3～4歳児頃の「声」の発達と表現活動の理解と実践 ・乳幼児の「声」に合わせた表現活動を引き出す伴奏法	
	15	前期学修のまとめ ・成果発表会（ピアノ演奏・弾き歌い） ・前期の振り返りとまとめ	
	16	乳幼児の「声」の発達と弾き歌い ・映像を活用した5歳児頃の「声」の発達と表現活動の理解と実践 ・年長児の発達を理解した表現活動を支え、引き出す弾き歌いの実践	
	17	「伝承遊び」「わらべうた」の理解と実践① ・「伝承遊び」「わらべうた」における実践（1） ・「伝承遊び」「わらべうた」における指導法（1）	
	18	「伝承遊び」「わらべうた」の理解と実践② ・「伝承遊び」「わらべうた」における実践（2） ・「伝承遊び」「わらべうた」における指導法（2）	

	19 「伝承遊び」「わらべうた」と5音音階 ・「伝承遊び」「わらべうた」における実践 (3) ・「わらべうた」に用いられる5音音階の弾き歌いと伴奏法の工夫 20 「音あそび」の理解と指導① ・「音あそび」などによる表現活動の理解と実践 (1) ・乳幼児の「音あそび」を支える弾き歌いの指導法 (1) 21 「音あそび」の理解と指導② ・「音あそび」などによる表現活動の理解と実践 (2) ・乳幼児の「音あそび」を支える弾き歌いの指導法 (2) 22 「楽器あそび」の理解と指導① ・「音あそび」から「楽器あそび」へ繋がる表現活動の理解と実践 (1) ・乳幼児が「楽器あそび」に親しむための指導法 (1) 23 「楽器あそび」の理解と指導② ・「音あそび」から「楽器あそび」へ繋がる表現活動の理解と実践 (2) ・乳幼児が「楽器あそび」に親しむための指導法 (2) 24 「奏でる活動」の理解と伴奏の実践① ・「音あそび」「楽器あそび」から「奏でる活動」に繋がる表現活動の理解と実践 (1) ・乳幼児の「奏でる活動」を支える弾き歌いと伴奏の実践 (1) 25 「奏でる活動」の理解と伴奏の実践② ・「音あそび」「楽器あそび」から「奏でる活動」に繋がる表現活動の理解と実践 (2) ・乳幼児の「奏でる活動」を支える弾き歌いと伴奏の実践 (2) 26 音環境と「器楽合奏」を支える伴奏① ・保育の音環境及び音楽環境と保育者の援助 (1) ・乳幼児の「器楽合奏」を支える伴奏の実践 (1) 27 音環境と「器楽合奏」を支える伴奏② ・保育の音環境及び音楽環境と保育者の援助 (2) ・乳幼児の「器楽合奏」を支える伴奏の実践 (2) 28 保育の可視化・家庭との連携 ・ポートフォリオなどを活用した保育活動の可視化 ・「クラスだより」を通じた家庭との連携の実践 29 幼保小接続と季節の歌 ・領域「表現」と他領域との関り、および小学校1年生教科「音楽」への接続と学びの連続性の理解 ・季節を感じる歌、行事の歌など弾き歌いの実践 30 後期学修のまとめ ・成果発表会（ピアノ演奏・弾き歌い） ・後期の振り返りと1年次のまとめ
授業科目の目的	領域「表現」における「音楽表現」に視点を置き、音楽表現活動の理解と、保育者として必要な知識や技能を修得することを目的とします。また、領域「表現」の全体目標への到達を目指し、保育の場をより具体的にイメージしながら学びます。 子どもたちを、楽しく豊かな音楽表現活動に導くことができる保育者としての実践力を育成するために、音楽的表現を理論と実践を交え、意欲的に修得することを目的とします。
学修成果	・領域「表現」を理解するとともに、保育における音楽表現の意義や役割を理解しながら、子どもとの関わりを大切に音楽表現活動を実践することができるようになります。 ・保育の場において子どもの発達過程を素地としながら、子どもとの関わりを大切に音楽表現活動を実践することができるようにします。 ・音楽表現活動を実践するために必要な、音楽的基礎知識とピアノの表現技能を修得します。 ・小学校教科「音楽」への接続と学びの連続性を視野に入れた保育を理解できるようになります。
テキスト	こどもの指導法「音楽表現」/西野洋子他/豊岡短期大学/2021 音楽表現論/森川京子・茨木金吾他/豊岡短期大学/2019 改訂 幼稚園教諭・保育士養成課程 幼児のための音楽教育/神原雅之他編著/教育芸術社/ISBN:978-4877888220
参考書	幼稚園教育要領解説/文部科学省/フレーベル館/ISBN:978-4577814475 保育所保育指針解説(最新版)/厚生労働省編/フレーベル館/ISBN:978-4577814482 幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説(最新版)/内閣府・文部科学省・厚生労働省/フレーベル館/ISBN:978-4577814499 保育士・幼稚園教諭のための 弾き歌い伴奏集 第1巻 [改訂版]/大海由佳他/学研/ISBN:978-4051541637 保育士・幼稚園教諭のための 弾き歌い伴奏集 第2巻 [改訂版]/大海由佳他/学研/ISBN:978-4051541644 その他プリント等適宜資料を配付します。
授業外学修	授業の課題を十分弾きこなし、自信を持って表現するために、日々30分の予習を要します(0.5時間)。 練習が不十分だった楽曲においては、読譜・リズム唱、階名唱、奏法の間違いを確認しながら、復習をしてください(0.5時間)。また、フォローアップセミナー(ピアノ補習)の時間も活用してください。
フィードバックの方法	授業中の皆さんの疑問や気付き、及び感想等の小レポートにおいて、修正や再度の説明が必要な個所については、次の授業で口頭により説明していきます。
定期試験の有無	有
成績評価基準	授業態度・関心・意欲(レポート含む):10%、成果発表40%、定期試験(後期に実施)50%を総合的に評価します。
受講の心構えとメッセージ	ピアノ・弾き歌いの技能は、学生の皆さん一人ひとりの経験に個人差があります。各自が「今」をスタートラインと捉え、積極的・意欲的に日々努力を重ねましょう。 保育はチームで行う営みです。グループワークの場では仲間と協調しながら、各自が主体的・積極的に取り組む姿勢で学び合ひましょう。また、各時間の中で出された課題・レポートは、学びを振り返り保育の在り方を考える重要な復習となります。熱心に取り組み、必ず提出してください。
オフィスアワー	授業の初回に曜日時間帯等をお知らせします。複数で担当しますので、教員それぞれのスケジュールが異なるため、「melly」で事前に予約していただきます。

実務経験の有無	有
実務経験の概要	杉山：リトミック研究センター認定上級指導員として、幼稚園・保育園・こども園などでリトミック指導を行っています。 田上：小学校に38年間勤務した実務経験があります。 井上：リトミック指導員として、2017年より保育園で週1回こどもたちにリトミック指導を行っています（現在に至る）。 木村：中学校・高等学校などで38年間勤務した実務経験があります。
その他の事項	授業の進み方により授業内容が入れ替わることがあります。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年	2単位（30時間）	選択
担当教員			
原田 敬文			
科目ナンバリング：3017A①	授業形態：講義	幼免必	
添付ファイル			

授業概要	教育方法とは何か、その定義と意義などについての知識を習得したのちに、教育方法の歴史的変遷を概観することを通して、先人がどのような思想のもとに教育方法を展開してきたのかを考察します。さらに、教育に活用できる情報機器、教材・教具についての理解を深めたのちに学習指導の理論と授業の方法、および評価について理解し、それらをもとに授業づくりを構想していきます。後半では、幼児教育（保育）の方法、並びに小学校教育との連続について考察します。最後に教育方法における課題と今後の展望について検討していきます。内容によってはグループワークを行います。		
授業計画	1 教育方法とは 教育方法の定義・意義と守備範囲 2 教育方法の歴史的展開 1 西欧の教育方法 3 教育方法の歴史的展開 2 近・現代の教育方法 4 教育方法の歴史的展開 3 日本の教育方法 5 教育技術の革新 視聴覚教材・情報機器の活用 6 様々な教材・教具 その種類と活用 7 特色ある授業実践 種々の学習方法及び形態の特徴 8 教育現場における授業技術 学習方法とその目的 9 授業分析と授業評価 授業分析と授業評価の方法とその活用 10 授業展開の構想 カリキュラム編成と学習指導案 11 幼児の理解と幼児教育（保育）の方法 乳児・幼児と遊びの関係、児童・生徒と学習について 12 近代以降の幼児教育（保育）方法 近代以降の教育思想家と時代ごとの教育観 13 幼稚園教育要領と幼保連携型認定こども園教育・保育要領 幼稚園教育要領と幼保連携型認定こども園教育・保育要領の関連と取り組み方 14 幼児教育（保育）内容と小学校の教育内容 保幼小の連携とその指導計画 15 教育方法の課題と展望 義務教育の在り方、学習指導の在り方		
授業科目の目的	教育方法の定義、意義などの基本的知識を習得し、教育目標、教育内容、評価の関係性についての理解を深めるとともに、教育（保育）現場における様々な課題を解決する手立てとなる教育（保育）方法とその活用についての理解を深め、幼稚園教諭として必要な資質を養うことを目的とします。		
学修成果	1. 教育方法の定義、意義、守備範囲などの概念についての基本的知識を理解することができるようになります。 2. 教育方法の歴史的変遷について理解できるようになります。 3. 授業についての概要を知り、学習指導の形態と方法について理解することができるようになります。 4. 教育技術の革新について理解するとともに情報機器の活用を説明することができるようになります。 5. 生徒指導の原理と方法及びその実際について知り、学習指導と生徒指導の関係について理解することができるようになります。 6. 幼児の発達と幼児教育（保育）の方法について理解することができるようになります。		
テキスト	幼児教育・保育のための教育方法論/垂見 直樹・池田 竜介/ミネルヴァ書房/2021年 (ISBN978-4623090914)		
参考書	幼児学用語集/小田 豊等監修/北大路書房/2013年 (ISBN978-4762828119) 幼稚園教育要領解説/文部科学省/フレーベル館/2018年 (ISBN978-4577814475) 保育所保育指針解説/厚生労働省/フレーベル館/2018年 (ISBN978-4577814482) 幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説最新版/内閣府・文部科学省・厚生労働省/フレーベル館/2018		

	年 (ISBN978-4577814499)
授業外学修	予習：毎回の授業の中で、予習課題を出します。インターネットや参考図書等で調べることが必要なものもあります（所要時間90分から120分）。 復習：毎回の授業の中で、復習課題を出します。授業の中の説明やインターネット、参考図書等も必要に応じて使いながら整理して記述するようにしてください（所要時間90分から120分）。
フィードバックの方法	授業中に課した小レポートについては、修正や再度の説明が必要な個所については次回の授業で口頭にて説明します。小テスト及びレポートについては、次回以降の授業時に返却し、コメントの書き込み又は全体への説明が必要なものについては授業の中で取り上げます。
定期試験の有無	有
成績評価基準	定期試験(60%)、レポート・小テスト(25%)、講義への参加の態度等(15%)により総合的に評価します。
受講の心構えとメッセージ	本授業では、こどもの成長に合わせた、教育方法について考えます。また、保幼小の連携も視野に入れた学びの連続性についても考える機会とします。そのため、保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領について、事前に熟読して理解しておくようにしておいてください。 また、保育や教育系の雑誌などを読み、常に、自身の情報量を増やすよう、心がけてください。
オフィスアワー	曜日と時間は初回の授業時にお伝えしますが、授業後90分をオフィスアワーとしています。会議や出張などにより不在となる可能性もありますので、事前に先生と時間調整するようにしてください。
実務経験の有無	無
実務経験の概要	
その他の事項	授業で配付するプリント類は、各自ファイルしておくこと。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2年	2単位（30時間）	選択
担当教員			
稲垣 順子			
科目ナンバリング：3018C②	授業形態：演習	幼免必、保必	
添付ファイル			

授業概要	保育の出発点は、子どもを理解することから始まります。子ども理解のためには、発達理解はもちろん、子どもの遊びの様子や葛藤場面を観察する力も求められます。加えて、保育における保育士の援助は、子ども理解に基づいて行われます。この授業では、子どもを理解するための考え方や方法、援助や態度の基本について学びます。 授業の形態は「演習形式」が中心となります。講義の時間では、ビデオ・パワーポイントにより授業を進めていき、実際の事例検討や相談支援のロールプレイなど、アクティブラーニングも取り入れます。		
授業計画	1	子どもの実態に応じた発達や学びの把握 1 保育における子ども理解の意義	
	2	子どもの実態に応じた発達や学びの把握 2 子どもの理解に基づく養護と教育の一体的展開	
	3	子どもの実態に応じた発達や学びの把握 3 子どもに対する共感的理解と保育	
	4	子どもを理解する視点 1 子どもの生活と遊び	
	5	子どもを理解する視点 2 保育の人的環境としての保育者と子どもの発達	
	6	子どもを理解する視点 3 子どもの集団での育ち	
	7	子どもを理解する視点 4 葛藤やつまずき	
	8	子どもを理解する視点 5 保育の環境の理解と構成	
	9	子どもを理解する視点 6 環境の変化や移行	
	10	子どもを理解する方法 1 子どもを理解するための観察・記録・省察・評価	
	11	子どもを理解する方法 2 職員間の対話	
	12	子どもを理解する方法 3 保護者との情報共有	
	13	子どもの理解に基づく発達援助 1 発達の課題に応じた援助と関わり	
	14	子どもの理解に基づく発達援助 2 特別な配慮を要する子どもの理解と援助	
	15	子どもの理解に基づく発達援助 3 発達の連続性と就学への支援	
授業科目の目的	子どもを理解するために、乳幼児の発達及び学びの過程で生じるつまずき、その要因を把握するための原理について学びます。また、子どもが自己理解を深め、好ましい人間関係を築き、集団生活の中で適応できる力を育むために、子ども理解に基づいた支援ができるようになることを目指します。そのために、個性の伸長や人格の成長を支援する教育活動の在り方について、こどもの発達の状況に即した支援ができるよう、心理的特質や教育的課題を捉える力を身につけるとともに、本人またはその親や保育者などに適切な援助ができるようになることを目指します。		
学修成果	1. 保育実践において、実態に応じた子ども一人ひとりの心身の発達や学びを把握することの意義を理解できるようにします。 2. 子どもの体験や学びの過程において、子どもを理解する上での基本的な考え方や方法について理解できるようにします。 3. 子どもの理解に基づく保育者の援助や態度の基本について理解できるようにします。		
テキスト	テキストは使用せず、必要に応じてプリントを配付します。		
参考書	幼稚園教育要領解説／文部科学省／フレーベル館／2018年 (ISBN978-4577814475) 保育所保育指針解説／厚生労働省／フレーベル館／2018年 (ISBN978-4577814482) 幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説最新版／内閣府・文部科学省・厚生労働省／フレーベル館／2018年 (ISBN978-4577814499)		

授業外学修	講義にのぞむにあたっては、ニュースや新聞から子どもの問題について、事例を集めるように心がけ、どの事例にどのように対処するか考えをまとめておいてください。この予習作業に120程度かかります。 また、授業で配付するプリントを読み返し、自分なりに要点をまとめてください。この振り返りに、120分程度かかります。
フィードバックの方法	前回の授業の振り返りを、授業の始めに行います。その際に、各自家庭で収集した事例を発表しあい、理解を深めます。また、家庭で復習した内容の質問に対して、教員が説明します。前回までの学習内容を十分に理解したうえで、授業を始めます。
定期試験の有無	有
成績評価基準	定期試験(60%)、レポート(30%)、講義への参加の態度等(10%)により総合的に評価します。
受講の心構えとメッセージ	この授業では、子どもの発達をどのように理解するか、また、子どもと子どもに関わる人(保護者、友人)などに対して、どのような支援をしていくかを学びます。ここで必要なことは、普段から子どもを取り巻く諸問題に対して、常に関心をもつということです。
オフィスアワー	随時
実務経験の有無	有
実務経験の概要	小学校で5年間勤務した実務経験があります。
その他の事項	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2年	2単位（30時間）	選択
担当教員			
大西 由美子			
科目ナンバリング：3019C②	授業形態：講義	保必	
添付ファイル			

授業概要	乳幼児保育の歴史的な歩みと現代における乳児保育の現状など、乳幼児保育の基本的な知識を身に付けます。また、3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育の内容と、安全管理・保育現場における具体的取組みや連携などの運営体制を学びます。さらに乳幼児保育の場における職員間の連携・協働のあり方や保護者との連携や子育て支援への理解を深め、保育者としての人との関係性やその重要性を学びます。保育者として子どもの人格形成の基礎を培う重要な乳児期に関わることへの深い認識をもち、具体的な保育のあり方や心構えを学んでいきます。授業は講義形式が基本です。内容によっては講義に加え演習・グループワークを行い双方向型の授業を行います。		
授業計画	1	オリエンテーション 「乳幼児保育」とは何か	
	2	乳幼児保育の意義・目的と役割 1 乳幼児保育の意義・役割と歴史的変遷	
	3	乳幼児保育の意義・目的と役割 2 乳幼児保育の役割と機能、養護と教育	
	4	乳幼児保育の現状と課題 1 乳幼児保育及び子育て支援をめぐる社会的状況と課題	
	5	乳幼児保育の現状と課題 2 保育所における乳児保育	
	6	乳幼児保育の現状と課題 3 保育所以外の児童福祉施設（乳児院等）、家庭的保育等における乳児保育	
	7	3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育 1 3歳未満児の生活と環境	
	8	3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育 2 3歳未満児の遊びと環境	
	9	3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育 3 3歳以上児の保育に移行する時期の保育	
	10	3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育 4 保育者の援助 保育における配慮	
	11	乳幼児保育における指導計画 1 保育の計画の必要性 全体的な計画・指導計画	
	12	乳幼児保育における指導計画 2 指導計画に基づく保育実践・省察・評価	
	13	乳幼児保育における連携・協働 1 職員間の連携・協働	
	14	乳幼児保育における連携・協働 2 保護者との連携・協働	
	15	乳幼児保育における連携・協働 3 自治体や地域の関係機関等との連携・協働	
授業科目の目的	1. 歴史とともに変遷を重ねてきた乳幼児保育を概観しながら、現代における乳幼児保育の重要性やそのあり方、子育て支援の重要性についての知識を広げていきます。 2. 保育所・乳児院等多様な乳児保育の実践を学び、保育所以外での乳幼児保育に携わることができる柔軟な保育者としての専門性と資質を養います。 3. 乳児期の心身の発達を学び、子ども一人ひとりへの応答的・感性的な関わりの実際と、その重要性を理解し、実践につながるようにします。 4. 園（所）内外における様々な連携について学び、保育実践に活かすことができるよう知識を広げます。		
学修成果	1. 乳幼児保育の理念と歴史的変遷及び乳幼児保育の役割について、現代社会の保育と関連付けて考えることができます。 2. 保育所・認定こども園・乳児院等多様な保育の場における乳幼児保育の現状と課題について理解できるようになります。 3. 3歳未満児の発育・発達を踏まえた実践的な保育内容のポイントを理解できるようになります。 4. 乳幼児保育における職員間の連携・協働及び地域の関連機関との連携のあり方と重要性を実践に結び付けて考えられることができるようになります。		
テキスト	乳幼児保育／國光みどり・山中ます子他著／豊岡短期大学／2019. 保育所保育指針解説（最新版）／厚生労働省／フレーベル館/ISBN：978-4-577-81448-2 NDC376		

参考書	授業の中でプリント、資料を配付します。
授業外学修	予習として、授業前にはテキストを読み疑問点があれば各自で調べておくようにしましょう。授業後には学びを確認するための復習として課題レポートの作成を行い確実に提出するよう心がけましょう。予習に120分程度、復習に120分程度の学習時間を要します。
フィードバックの方法	皆さんの授業中における気付き及び感想などのレポートについて、修正や再度の説明が必要な個所については次回の講義で口頭により説明していきます。
定期試験の有無	有
成績評価基準	授業態度10%、課題・レポート提出30%、定期試験60%により数量化して総合的に評価します。
受講の心構えとメッセージ	新しい保育制度の中で、乳児・1歳以上3歳未満児の保育の重要性が改めて強調されています。乳幼児は保育者の心のこもった養護と、心と心のふれあいを通して乳幼児の情緒が安定し、人や自分の生活する世界への信頼感を獲得していきます。保護者同様、乳幼児にとって最も身近な存在である保育者の関わりが、乳幼児の人格形成に大きな影響を与える、といっても過言ではありません。真摯な気持ちで受講してください。
オフィスアワー	初回の授業日に曜日・時間帯をお伝えいたします。
実務経験の有無	有
実務経験の概要	幼稚園・保育所・認定こども園等に35年間勤務した実務経験があります。
その他の事項	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2年	1単位（15時間）	選択
担当教員			
大西 由美子			
科目ナンバリング：3020D②	授業形態：演習	保必	
添付ファイル			

授業概要	乳幼児保育Ⅱでは、乳幼児保育Ⅰで学習した基礎的知識を踏まえながら、より実践的な乳幼児との関わりの意義や具体的な方法を学び、一人ひとりの子どもと受容的、応答的な関わりができるように数多くの保育技術を習得します。3歳未満児の発育・発達を踏まえた子どもの生活援助や保育環境の構成、及び子どもの成長発達を促す遊びの実践・手作りおもちゃの作成・沐浴実践など、保育の場を想定した実践的な学びを深めます。授業は講義形式が基本です。内容によっては講義に加えグループワーク・模擬実習を行い双方向型の授業を行います。		
授業計画	1	オリエンテーション／乳幼児保育の基本 1 子どもの主体性の尊重と自己の育ち（事例で学ぶ）	
	2	乳幼児保育の基本 2 個々の子どもに応じた援助、受容的・応答的な関わり	
	3	乳幼児保育における子どもの発達・発育を踏まえた生活と遊びの実際 1 0歳児の発育・発達を踏まえた生活と援助の実際	
	4	乳幼児保育における子どもの発達・発育を踏まえた生活と遊びの実際 2 1～3歳未満児の発育・発達を踏まえた生活と援助の実際	
	5	乳幼児における発育・発達と遊びの実際 1 手作りおもちゃの研究・制作 1	
	6	乳幼児における発育・発達と遊びの実際 2 手作りおもちゃの制作 2	
	7	乳幼児における発育・発達と遊びの実際 3 手作りおもちゃの発表・評価	
	8	乳幼児保育における発育・発達と生活の援助 まとめ 沐浴・調乳・授乳演習	
授業科目の目的	乳幼児保育Ⅰでの基礎的知識を素地として、3歳未満児の発育・発達の過程や特性を踏まえたより実践的な援助や関わりを理解します。養護と教育の一体性を踏まえ、3歳未満の子どもたちの生活や遊びと保育の方法及び環境について理解するとともに、保育者としてより実践的な保育技術を習得します。事例研究、グループワークを通して、乳幼児保育における配慮の実際を具体的に体験し、乳幼児への視野を広げていきます。多面的な保育の視点を養い、学びを集結し乳幼児の保育計画の作成についての知識を深めます。		
学修成果	1. 3歳未満児の発育・発達の特性を理解し、実践的な援助や関わり方を理解します。 2. 3歳未満児の発達を理解し、子どもの発達を促す遊びやその遊びに必要なおもちゃの作成を通して、子どもにふさわしい遊びの環境づくりが理解できるようになります。 3. グループワーク・模擬保育を通して乳幼児保育の実際を体験し、子どもたちに必要な援助・配慮の在り方を理解し、実践に応用できるようになります。 4. 各年齢における乳幼児の生活を多面的に理解し、具体的な保育を想定した指導案の作成をすることができます。		
テキスト	保育所保育指針解説／厚生労働省／フレーベル館／ISBN：978-4-577-81448-2 NDC376 幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説／内閣府、厚生労働省、文部科学省／フレーベル館／ISBN：978-4-577-81449-NDC376 必要に応じてプリントを配付します。		
参考書			
授業外学修	毎回の授業において予習・復習が必要です。 予習では、授業内に配付されるプリントを熟読し、学びのポイント・キーワードを理解しておきましょう。この学びには120分程度の学習時間を要します。 復習では毎回の授業を振り返りながら、レポートをしっかりと作成し学びのポイントをまとめておきましょう。この復習には120分程度の学習時間を要します。		
フィードバックの方法	皆さんの疑問や気づき及び感想などのレポートについて、修正や再度の説明が必要な個所については、次回の授業の中で説明・補足していきます。		
定期試験の有無	有		
成績評価基準	授業態度10%、レポート40%、定期試験50%により、数値化して総合的に評価します。		
受講の心構えとメッセージ	皆さんが保育者として自信をもって社会で貢献していくことができるように、乳幼児保育Ⅱでは乳幼児保育Ⅰで学んだ基礎知識を基にして、より専門性を高めていくための学びを多く取り入れています。また、保育実習での経験を活かして、グループワークなどのより実践的な授業にしていきたいと思っています。		
オフィスアワー	初回の授業日に曜日・時間帯をお伝えいたします。		
実務経験の有無	有		

実務経験の概要	幼稚園・保育所・認定こども園に35年間勤務した実務経験があります。
その他の事項	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1年	1単位（15時間）	選択
担当教員			
大西 清文、稲垣 順子			
科目ナンバリング：3021B④	授業形態：演習	保必	
添付ファイル			

授業概要	全国には、612の児童養護施設（31）、144の乳児院（9）51の児童心理治療施設（1）、58の児童自立支援施設（2）、4742の里親家庭（141）あり、親と暮らせない事情を抱えた約46000人が、いずれかの場所等で生活しています。それぞれの施設に措置対象となる子どもは異なり、そこでの暮らしも全く異なります。（※括弧内の数字は兵庫県内での実数） この授業では、彼らの暮らす場所の特性とそこでの生活、そしてどのような支援とその計画が取り組まれているのか等の支援の実を理解します。また、社会的養護における「保育の専門性」や「相談援助」の知識・技術、家庭支援の理解を深めることも重要です。さらにこの授業での学びが、保育実習（施設）につながっていく授業を進めていきます。
授業計画	1 社会的養護における子どもの理解 子どもの権利擁護／子どもの理解を深める 2 社会的養護の内容 日常生活支援／治療的支援／自立支援 3 施設養護の特性と生活の実際 子どもの状態に応じた施設の特性や生活等の実際について 4 家庭養護の生活特性及び実際 家庭養護とは／里親制度 家庭養護と家庭的養護の高機能化の推進 5 アセスメントと個別支援計画の作成 アセスメントと個別支援計画／自立と自立支援計画 6 社会的養護に関わる相談援助の知識・技術とその実践 相談援助の定義／ソーシャルワークにおける支援 7 社会的養護に関わる専門的技術 社会的養護における保育の専門性 8 社会的養護における家庭支援／社会的養護の課題と展望 家庭支援をするとはどういうことか 社会的養護の課題と将来像
授業科目の目的	日本における児童福祉の法や制度体系など、社会的養護の全体像の把握とその養護を要する子どもの現状理解と彼らへの支援に関する知識の理解とその相談援助にあたるための技術の理解・実践を目指しています。 また、社会的養護の背景にある児童虐待の防止や家庭支援について、今日の子どもを取り巻く様々な問題を踏まえながら理解を進めます。 特に「子どもの権利擁護と最善の利益を守る」という原理を視座に据えた上で、事例検討を交えながら、その実際を考え、施設実習に向かう学びとなることを目指します。
学修成果	1. 子どもの理解を踏まえた社会的養護の基礎的な内容について具体的に理解できる。 2. 施設養護及び家庭養護の実際について理解できる。 3. 社会的養護における計画・記録・自己評価の実際について理解できる。 4. 社会的養護に関わる相談援助の方法・技術について理解できる。 5. 社会的養護における子ども虐待の防止と家庭支援について理解できる。
テキスト	社会的養護入門／ 芝野松次郎 ・新川泰弘・山川宏和 編著／ミネルヴァ書房／2021年（ISBN 9784623092239） 保育福祉小六法／保育福祉小六法編集委員会 編／みらい／2025年（ISBN 978-4860156497）
参考書	「真に」子どもにやさしい国をめざして／ 未来叢書（ISBN:978-4905239581） より深く理解できる施設実習／松本峰雄監修／萌文書林（ISBN：9784893472212） 五訂 福祉施設実習ハンドブック／岡本幹彦 他／みらい（ISBN：9784860154813） 保育所・施設・幼稚園実習ステップブック [第2版]／山本美貴子他編／みらい（ISBN：9784860155179） 児童養護施設運営ハンドブック／厚生労働省 乳児院運営ハンドブック／厚生労働省
授業外学修	予習については、テキスト指定範囲の読了や参考資料探索・整理等、復習については、授業内容の振り返り等、授業前後で指示された内容に取り組みます。各授業において、予習復習にはそれぞれ120分程度の学習時間を要します。
フィードバックの方法	授業開始時に、前回の重要な内容や質問などをフィードバックしながら授業を進めます。
定期試験の有無	有
成績評価基準	授業態度10%、レポート・小テスト等30%、定期試験60%により総合的に評価します。
受講の心構えとメッセージ	社会的養護Ⅰでは、原理や法律、制度体系について詳しく学習をしました。そこから続く社会的養護Ⅱでは、その制度や施設の実際について、講義と演習形式で理解を深めていきます。そのためには、社会的養護Ⅰの復習をしておく必要があります。

オフィスアワー	授業時に曜日と時間を伝えますが、週 1 回90分をオフィスアワーとしていますので、自由においでください。急な会議や出張などにより対応ができなくなる場合もあるので、必ず事前連絡をしてください。
実務経験の有無	有
実務経験の概要	大西：社会福祉施設等に18年間勤務した実務経験があります。 稲垣：小学校に5年間勤務した実務経験があります。
その他の事項	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	2年	4単位（120時間）	選択
担当教員			
長谷 雄一、小西 浩美			
科目ナンバリング：3022CD①⑤	授業形態：実習	幼免必	
添付ファイル			

授業概要	保育現場で幼児との関わりを数多く経験しながら幼児理解を深めます。また、保育の内容・方法・保育者の役割等を理解し、実践力を養います。 豊岡キャンパスでは、このとり認定こども園で40時間、学外の幼稚園または幼保連携型認定こども園、幼稚園型認定こども園で80時間の実習を行います。姫路キャンパスでは、学生の出身園を主とした幼稚園、幼保連携型認定こども園、幼稚園型認定こども園で120時間の実習を行います。
授業計画	実習期間は、以下の予定です。ただし、実習先の状況により変更する場合があります。 ・豊岡キャンパス 〔このとり認定こども園〕 令和 7年 9月 8日（月） ～ 9月 12日（金）の期間に40時間実施。1班 令和 7年 9月 16日（火） ～ 9月 22日（月）の期間に40時間実施。2班 〔学外幼稚園・認定こども園〕 令和 7年 10月 14日（火） ～ 10月 27日（月）の期間に80時間実施。 ・姫路キャンパス 〔学外幼稚園・認定こども園〕 令和 7年 10月 6日（月） ～ 10月 27日（月）の期間に120時間実施。
授業科目の目的	教育実習は、幼児や保育に関して修得した知識や理論を保育の実際の中で実践・確認し、体験的に学ぶ機会です。「教育実習で何を学びたいか」という明確な目的や課題をもち、自分自身は保育者を目指す者であるという心構えで積極的に臨むとともに、保育者としての能力・適性についての自覚を得ることが目的です。
学修成果	1. 幼児の観察や関わりを通して、幼児への理解を深め、説明できるようにします。 2. 幼稚園教諭・保育教諭の専門性と職業倫理について、具体的な実践に結び付けて理解できるようにします。 3. 幼稚園教諭・保育教諭としての自己課題を明確にし、言葉で表現できるようにします。
テキスト	教育実習事前・事後指導／豊岡短期大学
参考書	幼稚園教育要領解説／文部科学省／フレーベル館 保育所保育指針解説／文部科学省／フレーベル館 幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説／内閣府・文部科学省・厚生労働省／フレーベル館
授業外学修	実習中は、実習日誌の記載や部分実習の準備などで日々4時間程度の学修を要します。
フィードバックの方法	（豊岡キャンパス） 1年生から実施する「教育実習事前・事後指導」の授業において、レポート課題等で皆さんの理解度を確認し、解説や補足が必要な場合、また質問に関しての解説を次の授業で行います。2年生は9月に実施するこのとり認定こども園における実習後に反省会をもち、質問事項を解説する場を設けます。自分自身の今後の課題を探り10月の学外実習がさらに充実するように教員とともに学び合います。 （姫路キャンパス） 1年生から実施する「教育実習事前・事後指導」の授業内で実施するレポート課題等で、皆さんの理解度を確認し、解説や補足が必要な場合、質問事項に関しての解説を次の授業で説明するなど、課題を解決し学び合う場を設けます。
定期試験の有無	無
成績評価基準	（豊岡キャンパス） 各実習園からの評価（実習態度・資質・指導能力）80%、実習日誌の内容20%により総合的に評価します。 （姫路キャンパス） 実習園からの評価（実習態度・資質・指導能力）80%、実習日誌の内容20%により総合的に評価します。
受講の心構えとメッセージ	・保育現場では、学生であっても幼児達にとっては「先生」です。保育者としての自覚をもち、身だしなみ、言葉遣い、立ち居振る舞い等、わかまえのある態度で実習に臨んでください。 ・幼児をさまざまな視点から観る目と、感性を養う努力をしてください。また、先輩保育者から学ぼうとする謙虚で素直な姿勢で意欲的に臨んでください。 ・保育者が保育を楽しむと幼児達も楽しいと感じます。何よりも皆さん自身が保育の楽しさを見つけましょう。 ・体調管理を十分に心掛けましょう。また、諸注意を遵守し責任をもって行動しましょう。
オフィスアワー	初回の「教育実習事前・事後指導」の時間に、曜日と時間はお伝えします。ただし、臨時の会議や出張等により不在となる可能性もありますので、事前に声を掛けてください。
実務経験の有無	有
実務経験の概要	長谷：高等学校に5年間勤務した実務経験があります。 小西：幼稚園に39年間勤務した実務経験があります。

その他の事項	
--------	--

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
1年～2年通年	1年～2年	1単位（30時間）	選択
担当教員			
長谷 雄一、小西 浩美			
科目ナンバリング：3023ABCD①⑤	授業形態：演習	幼免必	
添付ファイル			

授業概要	教育実習は、学生の立場から幼児を導く立場に立って考える機会です。実習に向けて、実習生としての心構えを学びます。また、実習の意義・目的を理解し、保育についての知識・技能、態度等を総合的に学びます。授業は保育の実践を学ぶため、DVDを視聴し保育の場をより明確にイメージしながら議論したり、模擬保育を実践したりし、教育実習に向かうための実践的な知識と技能を深めていきます。		
授業計画	1	オリエンテーション 幼稚園教育の特質、実習の意義と目的 個人調書の作成	
	2	保育者としての倫理・実習内容と実習の方法 実習生としての心構え、守秘義務 観察実習・参加実習・責任実習	
	3	教育課程・指導計画 長期指導計画・短期指導計画	
	4	実習日誌の記録方法 環境構成・幼児理解・教師の援助及び配慮	
	5	実習日誌の記録方法 環境構成・幼児理解・教師の援助及び配慮	
	6	実践的演習 幼児の発達に応じた歌・手あそび演習（秋） 幼児の発達を考慮した絵本・導入と読み聞かせの実際	
	7	指導案の作成から模擬保育へ 指導案とは 指導案の立案と作成 模擬保育の話し合い（グループワーク）	
	8	指導案の作成から模擬保育へ 模擬保育の話し合い（グループワーク）・準備	
	9	模擬保育（グループワーク） 模擬保育と振り返り・考察	
	10	模擬保育（グループワーク） 模擬保育と振り返り・考察	
	11	模擬保育事後指導 模擬保育を通しての学び 環境構成・教師の援助 幼児理解について	
	12	教育実習前オリエンテーションに向けて 実習に向けての心構え 実習日誌の取り扱い・提出物についての事務確認	
	13	教育実習直前指導 実習生としての心構え 身だしなみの確認 提出物の提出期日の確認 お礼状について	
	14	教育実習の振り返り 実習体験発表	
	15	教育実習の振り返り・まとめ 自己評価と課題 実習体験文集原稿作成 実習日誌提出期日の確認	

授業科目の目的	教育実習の意義と目的、実習生としての心構えを学びます。また、幼児の発達の特性和発達過程を踏まえ、観察の視点と方法、指導案の作成等を習得することを目的とします。 また、実習後には実習の振り返りを行いながら自己評価を行い、自分自身の課題や学修目標を明確にすることを目指します。
学修成果	1. 幼児教育の基礎理論を学ぶことができますようにします。 2. 実習の意義と目的を理解し、保育について総合的に学ぶことができますようにします。 3. 保育者の専門性と職業倫理について学び説明することができますようにします。 4. 観察や幼児との関わりを通して、幼児への理解を深め記録することができるようにします。 5. 幼児理解や教師の援助の方法、環境構成等について学び、指導案を作成することができるようにします。 6. 事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、新たな課題や学習目標を明確に立てることができるようにします。
テキスト	幼稚園教育実習事前・事後指導／赤澤誠一／豊岡短期大学 幼稚園教育要領解説／文部科学省／フレーベル館／ISBN:978-4-577-81447-5NDC376 授業内で適宜プリント等の資料を配付します。
参考書	保育所保育指針解説／文部科学省／フレーベル館／ISBN：978-4-577-81448-2NDC376 幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説／内閣府・文部科学省・厚生労働省／フレーベル館／ISBN:978-577-81449-NDC376
授業外学修	予習：各回の授業前に、テキストの内容をしっかりと読んでおいてください。この予習には30分程度を要します。 復習：この授業は実習に関わる多くの事前準備を整えることになります。そのためには心構えや指導案の作成を含むことになります。各回の授業後、その内容について、自分自身の考えをまとめたり、必要な資料等を作成してください。この復習には30分程度を要します。
フィードバックの方法	幼児から見ると、実習生は身近な大人であり保育者です。一人の教師としての振る舞いが身に付くよう普段の学校生活の中で挨拶や言葉遣い、気遣いや心配り等についても常に意識がもてるよう伝えていきたいと考えています。もちろん、保育についての基礎知識、実習日誌の記録方法、発達年齢に合った指導案の立案等は具体的に指導していきます。 レポート等の提出物にはコメントし、返却します。
定期試験の有無	無
成績評価基準	授業態度・意欲40%、観察記録・指導案等の提出物60%により総合的に評価します。
受講の心構えとメッセージ	実習を通して「保育者になりたい」という気持ちが高まることを願っています。そのためには、実習で子どもと関わることの楽しさ・保育の楽しさを体験することです。事前指導で、実習生に求められる心構え、身だしなみ、言葉遣いを始め、実習の意義・目的、幼児への理解・観察の視点、さらに指導案の作成等を学びます。しっかりと学んで自信をもって臨みましょう。
オフィスアワー	初回の授業の中で曜日・時間帯などをお伝えします。担当者が不在の場合もあり、事前に「Melly」での予約をしていただきます。
実務経験の有無	有
実務経験の概要	長谷：高等学校に5年間勤務した実務経験があります。 小西：幼稚園に39年間勤務した実務経験があります。
その他の事項	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
1年～2年通年	1年～2年	1単位（30時間）	選択
担当教員			
長谷 雄一、小西 浩美			
科目ナンバリング：3023ABCD①⑤	授業形態：演習	幼免必	
添付ファイル			

授業概要	教育実習は、学生の立場から幼児を導く立場に立って考える機会です。実習に向けて、実習生としての心構えを学びます。また、実習の意義・目的を理解し、保育についての知識・技能、態度等を総合的に学びます。授業は保育の実践を学ぶため、DVDを視聴し保育の場をより明確にイメージしながら議論したり、模擬授業を実践したりし、教育実習に向かうための実践的な知識と技能を深めていきます。		
授業計画	1	オリエンテーション 幼稚園教育の特質、実習の意義と目的 個人調書の作成	
	2	保育者としての倫理・実習内容と実習の方法 実習生としての心構え、守秘義務 観察実習・参加実習・責任実習	
	3	教育課程・指導計画 長期指導計画・短期指導計画	
	4	実習日誌の記録方法 環境構成・幼児理解・教師の援助及び配慮	
	5	実習日誌の記録方法 環境構成・幼児理解・教師の援助及び配慮	
	6	実践的演習 幼児の発達に応じた歌・手あそび演習（秋） 幼児の発達を考慮した絵本・導入と読み聞かせの実際	
	7	指導案の作成から模擬保育へ 指導案とは 指導案の立案と作成 模擬保育の話し合い（グループワーク）	
	8	指導案の作成から模擬保育へ 模擬保育の話し合い（グループワーク）・準備	
	9	模擬保育（グループワーク） 模擬保育と振り返り・考察	
	10	模擬保育（グループワーク） 模擬保育と振り返り・考察	
	11	模擬保育事後指導 模擬保育を通しての学び 環境構成・教師の援助 幼児理解について	
	12	教育実習前オリエンテーションに向けて 実習に向けての心構え 実習日誌の取り扱い・提出物についての事務確認 お礼状について	
	13	教育実習直前指導 実習生としての心構え 身だしなみの確認 提出物の提出期日の確認 お礼状について	
	14	教育実習の振り返り 実習体験発表	
	15	教育実習の振り返り・まとめ 自己評価と課題 実習体験文集原稿作成 実習日誌提出期日の確認	

授業科目の目的	教育実習の意義と目的、実習生としての心構えを学びます。また、幼児の発達の特長や発達過程を踏まえ、観察の視点と方法、指導案の作成等を習得することを目的とします。 また、実習後には実習の振り返りを行いながら自己評価を行い、自分自身の課題や学修目標を明確にすることを目指します。
学修成果	1. 幼児教育の基礎理論を学ぶことができるようにします。 2. 実習の意義と目的を理解し、保育について総合的に学ぶことができるようにします。 3. 保育者の専門性と職業倫理について学び説明することができるようにします。 4. 観察や幼児との関わりを通して、幼児への理解を深め記録することができるようにします。 5. 幼児理解や教師の援助の方法、環境構成等について学び、指導案を作成することができるようにします。 6. 事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、新たな課題や学習目標を明確に立てることができるようにします。
テキスト	幼稚園教育実習事前・事後指導／赤澤誠一／豊岡短期大学 幼稚園教育要領解説／文部科学省／フレーベル館／ISBN:978-4-577-81447-5NDC376 授業内で適宜プリント等の資料を配付します。
参考書	保育所保育指針解説／文部科学省／フレーベル館／ISBN：978-4-577-81448-2NDC376 幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説／内閣府・文部科学省・厚生労働省／フレーベル館／ISBN:978-577-81449-NDC376
授業外学修	予習：各回の授業前に、テキストの内容をしっかりと読んでおいてください。この予習には30分程度を要します。 復習：この授業は実習に関わる多くの事前準備を整えることになります。そのためには、心構えや指導案の作成を含むことになります。各回の授業後、その内容について、自分自身の考えをまとめたり、必要な資料等を作成してください。この復習には30分程度を要します。
フィードバックの方法	幼児から見ると、実習生は身近な大人であり保育者です。一人の教師としての振る舞いが身に付くよう普段の学校生活の中で挨拶や言葉遣い、気遣いや心配り等についても常に意識がもてるよう伝えていきたいと考えています。もちろん、保育についての基礎知識、実習日誌の記録方法、発達年齢に合った指導案の立案等は具体的に指導していきます。 レポート等の提出物にはコメントし、返却します。
定期試験の有無	無
成績評価基準	授業態度・意欲40%、観察記録・指導案等の提出物60%により総合的に評価します。
受講の心構えとメッセージ	教育実習事前・事後指導は、授業1コマ1コマが保育現場において実際に保育者として幼児達と関わるための重要な要素を学びます。欠席することなく真剣に取り組んでください。この授業の中で保育の基礎知識と基礎技能をしっかりと身につけ、ゆとりをもって教育実習に臨むことで、皆さんが教育実習を通して「保育者になりたい」という気持ちがさらに高まることを願っています。一緒に頑張ってください。
オフィスアワー	初回の授業の中で曜日・時間帯などをお伝えします。担当者が不在の場合もあり、事前に「Melly」での予約をしていただきます。
実務経験の有無	有
実務経験の概要	長谷：高等学校に5年間勤務した実務経験があります。 小西：幼稚園に39年間勤務した実務経験があります。
その他の事項	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2年	2単位（80時間）	選択
担当教員			
栗岡 あけみ、野村 圭乃			
科目ナンバリング：3026C①⑤	授業形態：実習	保選	
添付ファイル			

授業概要	社会の状況が変化し「子育て・子育て」の課題が複雑化する中、支援の拠点として保育所はこれまで以上に重要な存在となっています。そこで活躍する保育士の役割も多岐にわたり、より高い専門性が求められています。保育士をめざす者は、各教科で学んだ内容を結び付け、保育の実践現場で活用したり応用したりできるような学びが求められます。そこで、「保育実習Ⅱ」では、各教科で習得した知識や技能の内容と「保育実習Ⅰ」における保育現場での学びをもとに実習を進めていきます。
授業計画	実習期間 以下はおおよその日程です。 豊岡キャンパス 8月中旬から2週間 参加実習・全日実習 姫路キャンパス 8月中旬から2週間 参加実習・全日実習 実習計画 保育全般への参加と保育技術の習得 子どもの個人差理解と対応方法の習得 個々の発達や生活環境にともなう子どものニーズ理解とその対応 指導計画の立案と実践 子どもの家族とのコミュニケーション方法の習得 地域社会（保護者）に対する理解と連携方法 子どもの最善の利益への配慮 保育士としての職業倫理理解 保育所の保育士に求められる資質・能力・技術に照らし合わせて、自己課題の明確化
授業科目の目的	保育実習Ⅱは、保育実習Ⅰを基礎とした指導実習です。保育所の生活に参加し、乳幼児の内面理解と保育所機能を深めるとともに、子育て支援や保護者との連携など保育士の職務について学ぶことを目的とします。
学修成果	1. 積極的に保育実践に参加し、保育に必要な知識や技術を習得することができるようになります。 2. 既習学習の内容を活かしながら保育の計画を立て、自ら実践することができるようになります。 3. 指導計画の作成、実践、観察、評価、を行い、その重要性を説明することができるようになります。 4. 子どもの個人差やニーズについて理解し、その対応について説明することができるようになります。 5. 保育士の職務内容や職業倫理について具体的な実践に結び付けて説明することができるようになります。 6. 保育士としての自己課題を自分の言葉で説明することができるようになります。
テキスト	保育実習指導／豊岡短期大学 保育のマナーと言葉／わかば社
参考書	保育所保育指針／厚生労働省／フレーベル館 保育所保育指針解説／厚生労働省／フレーベ (ISBN978-4-577-81448-2) 保育用語辞典／一藝社 (ISBN978-4-86359-106-6) 幼保連携型認定こども園教育・保育要領／内閣府・文部科学省・厚生労働省／フレーベル館 幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説／内閣府・文部科学省・厚生労働省／フレーベル館 (ISBN978-4-577-81449-9)
授業外学修	実習中は、実習日誌の記載や部分実習の準備などで日々1時間程度の学修を要します。
フィードバックの方法	実習終了後、実習簿を利用した振り返り授業を行います。
定期試験の有無	無
成績評価基準	実習園による評価（実習態度・保育所理解・幼児理解など）80%、保育実習簿の内容（字の丁寧さ・ねらいと内容の理解・保育の考察力・内省力など）20%を総合して評価します。
受講の心構えとメッセージ	実習はこれまでの講義や演習で得られた知識や技術をもとに、多くの学びが得られるものです。そのために、以下のことに注意し実習に臨んでください。 ・現場ではどんなことが知りたいのか、自分の課題を最初に立てておきましょう。 ・記録はとても大切です。自分の思いや考えなど文章で適切に表現できるようにしましょう。 ・体調管理をしっかりと行い、諸注意を厳守し、責任をもって行動しましょう。
オフィスアワー	授業、会議、出張などにより不在となる場合を除き、随時オフィスアワーとして対応します。事前に声を掛けてくれると確実です。
実務経験の有無	有
実務経験の概要	栗岡：幼稚園に33年間勤務した実務経験があります。 野村：保育所・幼稚園・こども園に40年間勤務した実務経験があります。
その他の事項	本実習科目を履修するにあたっては、保育実習Ⅰを履修していることが必要です。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	2年	1単位（15時間）	選択
担当教員			
栗岡 あけみ、野村 圭乃			
科目ナンバリング：3027CD①⑤	授業形態：演習	保選	
添付ファイル			

授業概要	保育実習指導Ⅱは、保育所実習の準備と事後学習のためのものです。「保育実習Ⅰ」「保育実習Ⅱ」の継続性を理解し、指導実習に必要な保育指導案の立て方について学んでいきます。また、保育所実習全体を通して、子ども、家庭、地域への理解を深め、子育て支援の必要性や内容を学習します。実習の総括と自己評価を行い、新たな課題や学習目標を明確にしていける授業です。授業の進め方は、演習や発表を行います。内容によってはグループワークや討議を行います。		
授業計画	1 保育実習における総合的な学び 保育実習Ⅱの心構え（子どもの最善の利益） 保育実習Ⅱのねらいと内容 諸手続きについて① 2 実習園への依頼の仕方 日程調整するための電話のかけ方 内諾を取りに行くために準備すること 諸手続きについて② 3 保育の実践力の育成1 実習日誌の記入方法 総合（全日）実習（遊びと教材研究） 4 保育の実践力の育成2 事前訪問について（実習先の理解）と 指導計画の立案・作成について 5 保育実践力の育成3 子どもの状態に応じた適切なかわり 表現技術を生かした保育実践発表（模擬保育） 6 実習直前指導 実習直前指導（諸注意）と礼状の書き方 7 事後指導における実習の総括と評価1 実習の総括と自己評価 8 事後指導における実習の総括と評価2 自己課題の明確化		
授業科目の目的	保育実習Ⅱの学びを深めることを目的にした科目です。保育実習Ⅰにおける学びや反省を踏まえ自己の課題を明確にして主体的に学びます。観察・参加・指導実習のなかで子どもや保育の理解を深められるよう、子ども理解の方法、指導計画作成の実際について学びます。 また、子ども・保護者・同僚とのコミュニケーション能力を身につけ実践力を養い、家庭や地域を理解することも学びます。実習後は、実習を丁寧に振り返り、自己評価、グループ演習などを通して自己課題を明確化することが目的です。		
学修成果	【事前指導】 ・保育実習Ⅰとの違いと保育実習Ⅱの内容を理解し、自己課題をもち積極的に実習に臨むことができるようになります。 ・子どもの最善の利益を理解したうえで、個々の発達を踏まえた指導計画を立てることができるようになります。 ・観察、記録、自己評価などの方法について具体的に理解し、実習簿に記述できるようになります。 【事後指導】 ・実習先での学習を客観的に振り返ることができるようにします。 ・自身の今後に繋がる成果と課題を明らかにし、文章化することができるようにします。		
テキスト	保育所保育指針解説書／フレーベル館 幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説書／フレーベル館 一年次に購入したテキストを継続して使用します。		
参考書	必要に応じて随時紹介します。 授業の中でプリント、資料を配付します。（リングファイルを準備しておくこと）		
授業外学修	保育ボランティアに参加して、子どもと理解や関り方の学びをしましょう。 各授業毎に予習・復習が必要です。予習復習はそれぞれ120分程度の学修を必要とします。		
フィードバックの方法	実習後は、実習簿を使って実習記録や指導案の見直しを行い振り返ります。振り返り授業までに実習先から返却受け取りを済ませて、授業に臨みましょう。また、実習体験を文集にまとめ、自己課題を明確にします。		
定期試験の有無	無		
成績評価基準	受講態度・意欲30%、提出物とレポート40%、発表態度と内容30%を総合して評価します。		
受講の心構えとメッセージ	保育士・保育教諭を目指すためには、子ども、家庭、地域への理解まで求められます。「専門職になる」という意識を常に持ち、授業に出席してください。これからの授業の学びと実体験を繋げていきましょう。 先輩保育士・保育教諭から学ぶ謙虚な姿勢で臨み、積極性と意欲をもって多くを吸収してもらいたいです。子どもの良いモデルとなれるよう言葉遣い、態度、所作に日頃から注意しましょう。		

	また、保育関係の図書を読み、子どもの育ちや保育者の役割、保育のあり方について、自主的に学習したり、他教科より保育に関係する社会的課題や子育て支援等についても理解を深める努力が必要です。 実習前には教材研究、保育の計画、指導案の作成などを行い実習先で困惑しないように、積極的に教員の助言を求めて準備をしましょう。 実習後は実習記録や指導案の見直しを行います。実習簿の提出期日を遵守し、振り返り授業に臨みましょう。 ※授業へは全出席すること。やむを得ない理由によって欠席した場合は、科目担当教員の指示を仰ぎ補習を受けること。
オフィスアワー	初回の授業時に曜日と時間はお伝えしますが、週1回、オフィスアワーとしていきますので、自由にお越しください。ただし、臨時の会議や出張などにより不在となる可能性もありますので、事前に声をかけてくれると確実です。
実務経験の有無	有
実務経験の概要	栗岡：幼稚園に33年間勤務した実務経験があります。 野村：保育所・幼稚園・こども園に40年間勤務した実務経験があります。
その他の事項	保育士資格を取得するための履修科目が不十分な者、事前・事後指導を正当な理由なく欠席した者、課題・手続きが未了の者、指示・指導に従わない者（学生便覧「実習の心構え」参照）は、実習の履修あるいは単位を認められない場合があります。また、実習意欲が感じられないと判断される者（学生便覧「実習の心構え」参照）は、実習先に迷惑がかかるため、実習を取り止めになることもあります。授業には緊張感をもって臨んでください。8回の授業です。出欠日数に気を付けましょう。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2年	2単位（80時間）	選択
担当教員			
大西 清文、稲垣 順子			
科目ナンバリング：3028C①⑤	授業形態：実習	保選	
添付ファイル			

授業概要	保育所以外の児童福祉施設における実習であり、8月中旬～下旬に10日間（80時間以上）の実習を行います。1年次からのすべての学びと実習の経験を生かし、さらに専門性の高い実習を行います。
授業計画	「保育実習Ⅲ」は、8月中旬～下旬の10日間で80時間以上の実習を行います。実習の概要は次に示しますが、具体的には、各施設の指示によって実施していきます。 1. 実習施設の役割と機能について理解する。 2. 実習施設における支援内容の概要を把握する。 3. 利用者を理解し、個々に応じた支援を実践する。 4. 個別の支援計画に沿った支援を実践する。 5. 利用者の家族への支援について学ぶ。 6. 他職種との連携について学ぶ。 7. 地域の子育てへの支援など、地域社会との連携について学ぶ。 8. 多様な業務及び職業倫理について学ぶ。 9. 実習日誌の記入によって考察を深める。 10. 実習を通して自己の課題について考察し、今後の目標を明確化する。
授業科目の目的	1. 児童福祉施設の役割や機能について、実践を通して理解を深めることを目的とします。 2. 子ども・施設職員との関わりを通して、保育士の業務内容や職業倫理について理解することを目的とします。 3. 家庭と地域の生活実態にふれ、子ども家庭福祉、社会的養護、障害児支援に対する理解を深めることを目的とします。 4. 実践を通して、保護者支援、家庭支援のための知識、技術、判断力を習得することを目的とします。 5. 実習を通して、自らの福祉観・援助観を構築し、保育士としての自己の課題を明確化することを目的とします。
学修成果	1. 児童福祉施設等の役割や機能について実践を通して理解できるようにします。 2. 施設における支援の実践について理解できるようにします。 ・施設利用児を受容し、共感する態度を理解し、実践できるようにします。 ・施設利用児の個性や生活環境に伴う子どものニーズを把握し、理解できるようにします。 ・施設における個別支援計画の作成と個別支援計画に基づく支援について認識を具体化します。 ・子どもの家族への支援の実態について認識を具体化します。 ・多様な専門職との連携について理解を深め実践できるようにします。 ・地域との連携・協働の実態について認識を具体化します。 3. 保育士の多様な業務と職業倫理について実践を通して説明できるようにします。 4. 保育士としての自己課題を認識できるようにします。
テキスト	授業内でプリント等を配付します。
参考書	より深く理解できる施設実習／松本峰雄監修／萌文書林（ISBN：9784893472212） 五訂 福祉施設実習ハンドブック／岡本幹彦他編／みらい（ISBN：9784860154813） 保育所・施設・幼稚園実習ステップブック〔第2版〕／山本美貴子他編／みらい（ISBN：9784860155179） 児童養護施設運営ハンドブック／厚生労働省 乳児院運営ハンドブック／厚生労働省
授業外学修	実習中は、実習日誌の記載や部分実習の準備などで日々1時間程度の学修を要します。
フィードバックの方法	実習期間中に訪問先を訪問し、実習内容や実習態度に関する面談を行います。面談では、実習前半の振り返りを行うとともに、後半に向けての指導助言を行います。
定期試験の有無	無
成績評価基準	実習施設評価(実習態度・実習内容)80%、実習日誌の内容(文字の丁寧さ・ねらいと内容の理解・考察など)20%で総合評価します。
受講の心構えとメッセージ	福祉の現場で実習の機会をいただくことに感謝し、誠実かつ意欲的に取り組みましょう。利用者の心に寄り添い、より良い支援ができるよう努力を重ねることが必要です。一生懸命な姿勢が何より大切です。体調管理には十分に気をつけ遅刻や欠席は絶対にしないこと、身だしなみを整えること、諸注意を厳守し各自が責任をもって行動することが望まれます。自立した人間としての強い自覚の上、職業実習として捉えることが望まれます。
オフィスアワー	授業、会議、出張などにより不在となる場合を除き、随時オフィスアワーとして対応します。事前に声を掛けてくれると確実です。
実務経験の有無	有
実務経験の概要	大西：社会福祉施設等に18年間勤務した実務経験があります。 稲垣：小学校に5年間勤務した実務経験があります。
その他の事項	本実習科目を履修するにあたっては、保育実習Ⅰを履修・修得していることが必要です。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	2年	1単位（15時間）	選択
担当教員			
大西 清文、稲垣 順子			
科目ナンバリング：3029CD①⑤	授業形態：演習	保選	
添付ファイル			

授業概要	保育実習Ⅲの事前学習と事後学習を行います。事前学習では、保育実習Ⅰ（施設）で学んだことを基礎に、本実習の意義・目的・方法を明確にし、より専門的な実習となるよう学びを深めます。さらに実習計画の立案や事前手続きを行います。また、実習に必要な社会人・職業人としてのマナーを身につけます。事後学習では、実習の振り返りとまとめを行い、保育士としての新たな目標、自己の課題や認識を明確にします。この授業の形態は「講義形式」です。講義の時間では主にパワーポイントにより授業を進めていきます。
授業計画	1 オリエンテーション 施設実習の意義と目的 2 施設の機能と役割 1 養護系施設実習の意義と目的 3 施設の機能と役割 2 障害児系施設の理解 4 実習計画の作成と事前準備 実習計画と事前書類の作成等 5 実習日誌の記入方法 実習日誌の意義・記入の仕方 6 実習直前指導 実習生としての心構え・準備物 7 実習体験の振り返り 1 体験発表 8 実習体験の振り返り 2 自己評価と課題
授業科目の目的	（実習前） ・実習施設の役割、利用者、職員、専門知識・技術について理解することを目的とします。 ・利用者の人権の尊重や実習生としての心構えなど実習に際しての留意事項を理解することを目的とします。 ・実習簿の記録方法、実習計画の作成方法、事前準備や手続きについて理解することを目的とします。 ・社会人、専門的職業人の視点に立った実践力と自覚を高めることを目的とします。 （実習後） ・施設保育士の役割について、発表や文章化を通して、再度考察を行い認識を深めることを目的とします。
学修成果	1. 保育実習Ⅲの意義や目的を言葉で説明できるようにします。 2. 実習や既習の教科内容を関連付けて、保育実践力を養うことができるようにします。 3. 観察、記録、評価に基づいた保育の方法について意識し実践できるようにします。 4. 児童福祉施設の機能、そこで暮らす児童の状況、利用者の自立を支える保育士の役割について、具体的に述べるができるようにします。 5. 実習での体験を普遍化し、現在の保育現場の課題、自己の保育者としての課題を明確化できるようにします。
テキスト	保育士をめざす人のための施設実習ガイド／株式会社みらい（ISBN:978-4-86015-503-2）
参考書	「真に」子どもにやさしい国をめざして／未来叢書（ISBN:978-4905239581） より深く理解できる施設実習／松本峰雄監修／萌文書林（ISBN：9784893472212） 五訂 福祉施設実習ハンドブック／岡本幹彦 他／みらい（ISBN：9784860154813） 保育所・施設・幼稚園実習ステップブック［第2版］／山本美貴子他編／みらい（ISBN：9784860155179） 児童養護施設運営ハンドブック／厚生労働省 乳児院運営ハンドブック／厚生労働省
授業外学修	（実習前） ・手遊びや歌、ゲームなど、指導できる遊びの種類を増やしてください。（目標30種類以上） ・ペープサート、エプロンシアター、ハンドパペット、手作りおもちゃなど、子どもとの遊びに使用できる材料・道具の作成・収集に努めてください。 ・実習期間中に使用する名札を作成してください。 各授業毎に予習・復習が必要です。予習復習はそれぞれ120分程度の学修を必要とします。
フィードバックの方法	「実習生身上調査書」と「実習計画書」の作成については、完成まで添削と面談を行います。 実習後の授業では、実習簿を使った振り返りを行います。授業に実習簿を持参できるよう、実習先への最終提出及び受取日に留意してください。 実習後の課題総括については、別途、体験文集の原稿作成を通して行います。
定期試験の有無	無
成績評価基準	受講態度30%、提出物など40%、発表態度と内容30%を総合して評価します。

受講の心構えとメッセージ	施設実習実施のための必須科目であることを自覚してください。授業では、施設保育士の業務を理解し実践力を高めるために、事例討議や課題学習への積極的な取り組みを期待します。この科目の提出物は、実習施設に提出する大切なものが多く、期限を守り、確実に提出することが必要です。実習に向けて、自らの体調管理に努めるとともに、社会人としての自覚を高め、諸注意を厳守して行動することの必要性を認識し、より良い実習ができるよう学びましょう。実習では利用者とともに生活させていただくので、普段から社会で暮らしていく基本的生活習慣について、考えながら行動していきましょう。
オフィスアワー	授業、会議、出張などにより不在となる場合を除き、随時オフィスアワーとして対応します。事前に声を掛けてくれると確実です。
実務経験の有無	有
実務経験の概要	大西：社会福祉施設等に18年間勤務した実務経験があります。 稲垣：小学校に5年間勤務した実務経験があります。
その他の事項	以下の教科の内容が十分に理解できていることを前提として授業を運営します。 「社会福祉論」、「こどもの発達と家庭支援」、「社会的養護Ⅰ」 「社会的養護Ⅱ」、「障害児保育」

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2年	2単位（30時間）	選択
担当教員			
長谷 雄一、小西 浩美			
科目ナンバリング：3030D①⑤⑥	授業形態：演習	幼免必、保必	
添付ファイル			

授業概要	これまでの授業や実習などで形成してきた教師・保育者としての資質能力を確認し、これからの自己の課題の自覚と克服に努めます。さらに、専門職業人としての円滑なスタートができるように、保育・教育現場に立った様々な場面でのリスクマネジメントや保育カンファレンス等を通して、実践的指導力を身につけます。授業は講義に加え、DVD視聴により保育の実際を学び、授業内容に応じてグループワークや討議を行いながら、双方向型の授業を進めていきます。		
授業計画	1	オリエンテーション 授業の概要と到達目標の確認、自分自身を知ることから自己変容へ	
	2	教師という職業 1 教職の意義、保育者の専門性	
	3	教師という職業 2 保育者の使命感や責任感、教育的愛情・倫理観	
	4	保育者としての学級経営 1 子ども理解と集団づくり	
	5	保育者としての学級経営 2 課題のある子ども・理解しにくい子どもへの対応	
	6	保育者としての学級経営 3 発達に遅れのある子どもへの対応	
	7	保育者としての学級経営 4 教職保育職における対人関係 保育者と保護者・組織的な協働	
	8	保育者としての学級経営 5 人権教育の観点からの保育 ー子どもの権利条約ー	
	9	特別支援教育への理解と対応 特別支援教育と教師・保育者における役割と保育の援助	
	10	保育カンファレンス 1 生きる力を育てる保育ーまなびー	
	11	保育カンファレンス 2 生きる力を育てる保育ーかかわりー	
	12	保育カンファレンス 3 生きる力を育てる保育ーいのちー	
	13	信頼される保育者 危機管理と危機対応	
	14	保幼小連携 幼保小のなめらかな接続のために	
	15	学修のまとめ 履修カルテの作成と活用 今後に向けての課題	
授業科目の目的	本科目では、幼稚園教諭・保育士の養成課程で学んできた知識と保育・教育実習等で得られた実践力の統合を図り、教師・保育士・保育教諭としての使命感や責任感のある実践的指導力を身につけていきます。また、専門職業人としての研修の必要性和自己研鑽に努める自覚をもち、人を教え育てる専門家としての生活の円滑なスタートを目指すことを目的とします。		
学修成果	1. 教師・保育士としての資質・能力とは何か、また教員として働く意味や使命感・責任感について再確認し高めることができます。 2. 教師・保育士に求められる社会性や対人関係力を高めることができますようにします。 3. 教師・保育士としての実践的な指導力を保育カンファレンス等を通して身につけることができます。 4. さまざまな子どもや保護者との出逢いを想定しながら保育力を養うとともに、保護者に対する子育て支援の実際を学び保育の実践力を養うことができます。 5. 危機管理についての知識をもち、安全・安心な保育の意義を理解し保育実践に結び付けて考えていくことができます。		
テキスト	保育・教職実践演習/豊岡短期大学 プリント等必要に応じて配布します。		
参考書	授業の中で紹介します。		
授業外学修	予習：テキストの該当部分をしっかり読み、疑問点等を整理しておいてください。この予習には120分程度の時間を要します。		

	復習：講義のレジメ、配布資料や実践事例を用いての口頭説明など、学びの要点をまとめておきましょう。この復習には120分程度の時間を要します。 予習・復習は各授業毎に必要です。
フィードバックの方法	レポートは、その日の学習の要点となります。次週の授業で振り返り、さらに理解を深めてほしい部分については再度授業の中で取り上げていきます。
定期試験の有無	有
成績評価基準	定期試験50%、提出物30%、授業態度・グループワークへの参加状況20%で数量化し総合的に評価します。
受講の心構えとメッセージ	本科目は、教職課程の科目やさまざまな活動を通して得た力が、教師・保育士として必要な資質能力として身に付いているか確認していく。また、将来教師・保育士になる上で自己の課題が何であるか、現時点で不足しているものは何かを見つめ、補いながらその定着を図ることで教師・保育士生活をスタートできるようにすることを目的としています。 授業を通して、教師・保育士という職業を見つめ返し、現時点よりさらに力を付けて保育現場に飛び込んでいけるようにしましょう。グループ討議の場を大切にしたいと考えています。予習・復習を心がけ意欲的に参加してください。
オフィスアワー	初回の授業の中で曜日・時間帯などをお知らせします。教員が不在のことがあるので、事前に「melly」からの予約をしてください。
実務経験の有無	有
実務経験の概要	長谷：高等学校に5年間勤務した実務経験があります。 小西：幼稚園に39年間勤務した実務経験があります。
その他の事項	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年	1単位（15時間）	選択
担当教員			
栗岡 あけみ、野村 圭乃			
科目ナンバリング：3031A①	授業形態：講義		
添付ファイル			

授業概要	保育・教育現場での体験授業として、実習は行われます。実習の意義・目的を理解します。さらに、実習に際しての留意事項として子どもの人権と最善の利益の配慮、プライバシーの保護と守秘義務等について学び、実習生としての自覚や態度を醸成します。遊びを通して指導案の書き方を学び保育実践を想定し具体的に事例を通して学びます。
授業計画	1 オリエンテーション・保育所実習の内容と位置づけ 2年間における実習の回数・期間・種類・準備する書類について 実習の目的とその概要について（保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育指針、幼稚園教育要領） 子どもの人権と最善の利益の考慮について 2 保育所実習への依頼について・保育所の役割と守秘義務の重要性について 実習先への手続きについて（姫路Cのみ） 保育所の役割・保育士の仕事を知る（養護の理念について） プライバシーの保護と守秘義務の重要性について 3 実習生としてマナーの重要性 実習生としてのマナーとは 正しい言葉遣いと書き言葉について知る 4 実習生の自己紹介と年齢に合わせた遊び選びについて 実習で使用する手作り玩具づくりについて 実習における自己紹介とは 自己紹介に使用するグッズづくりとそのポイント 5 指導案を立てるときの基本① 指導案の立案方法①（前日までの子どもの姿・ねらい・内容・時間・予想される子どもの活動・保育者の援助の項目の理解） 6 指導案を立てるときの基本② 指導案の立案方法②（自己紹介から遊びの流れを立案し、実践発表をする） 7 指導案を立てるときの基本③ 指導案の立案方法③（自己紹介から遊びの流れを立案し、実践発表をする） 8 実習生として心構えについて 実習マナーを理解した上で、実習生としての心構えを知る。 自分の心構えを文章にして、実習簿に繋げていく。
授業科目の目的	実習における輝度的なマナーや知識、技術を身に付けることを目的とします。子どもの生活や保育者の役割などの動画を見ながら子どもの発達や関わり方を学びます。簡単なわらべ歌や手遊び、絵本の読み聞かせの発表を行い実践からも学びます。手作り玩具や自己紹介のグッズ作りの意義を知り、自己紹介や遊びを基にした指導案の大切さについても学びます。
学修成果	1. 実習について理解できるようにします。 2. 実習生のマナーについて理解できるようにします。 3. 子どもの発達を理解し、それぞれに合わせた遊びを考え、指導案の作成方法を学びます。 4. 立案した指導案を使い、実践発表を行い振り返り反省ができるようにします。 5. 子どもの人権と最善の利益の考慮、プライバシーの保護と守秘義務について理解できるようにします。
テキスト	保育のマナーと言葉/わかば社（ISBN:978-4-907270-35-3） 実習の記録と指導案/ひかりのくに（ISBNコード：978-4-564-60910-7）
参考書	保育所保育指針解説／フレーベル館（ISBN：9784577814482） 幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説／フレーベル館（ISBN：9784577814499）
授業外学修	1. 日々、自分の生活を見直す習慣を身に付けましょう。保育者として人としてふさわしい生活ができるように努力しましょう。 2. 図書館を利用して、子どもの発達や遊び研究をしましょう。 3. 授業後の感想を仲間と共有しましょう。 各授業毎に予習・復習が必要です。予習・復習には、それぞれ120分程度の学修が必要となります。
フィードバックの方法	1. 課題レポートは、返却時に添削コメントまたは解説をします。 2. 模擬保育については、発表時に適宜指導して返します。
定期試験の有無	無
成績評価基準	受講態度（マナー・意欲など）20%、確認テスト（わらべうた・手遊び・絵本の読み聞かせ）30%、レポート・提出物（玩具づくり・指導案含む）50%
受講の心構えとメッセージ	実習は、中学・高校で行った保育参加やボランティアとは何が違うのか、を理解してほしいです。また、豊岡短期大学生としてのマナーや言葉遣いを身に付けて実習に向かってほしいです。さらに、授業参加だけで終わらせるのではなく、自分で立案した指導案や、作った保育教材を用いて表現力豊かに演じることができるよ

	うになってほしいと願っています。立案した指導案や制作した保育教材は、すぐに実習や保育現場で使える財産です。玩具作りに必要な材料は、使用する授業日までに準備して整えておきましょう。実践をイメージしながら真面目に愛情をこめて立案、制作してください。そして、後期の保育実習Ⅰ・保育実習指導Ⅰに繋げていきましょう。
オフィスアワー	授業、会議、出張などにより不在となる場合を除き、随時オフィスアワーとして対応します。事前に連絡があれば確実です。
実務経験の有無	有
実務経験の概要	栗岡：幼稚園に33年勤務した実務経験があります。 野村：保育所・幼稚園・こども園に40年間勤務した実務経験があります。
その他の事項	実習を履修する学生は、必ず、受講してください。実習の基礎となる授業です。 配布資料は、保育実習指導Ⅰで使用します。リングファイルに綴じておきましょう。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1年	2単位（80時間）	選択
担当教員			
栗岡 あけみ、野村 圭乃			
科目ナンバリング：3032B①⑤	授業形態：実習	保必	
添付ファイル			

授業概要	保育所・認定こども園で、実践的指導力のある指導保育士・指導保育教諭のもとで保育体験をし、保育所保育、認定こども園教育・保育を理解します。また、基礎的な能力と態度を養い、自らの課題を明確にする科目です。
授業計画	1 実習期間等 実習期間 以下はおおよその日程です。実習先の状況により前後する場合があります。 【保育実習Ⅰ（保育所実習）】10日間（80時間以上） 豊岡キャンパス 令和8年2月上旬～3月中旬 観察実習・参加実習 姫路キャンパス 令和8年2月上旬～2月中旬 観察実習・参加実習 ※【履修上の注意事項】 保育実習指導Ⅰ（保育所）の履修が必要です。実習の詳細については、幼児実習基礎・保育実習指導Ⅰ（保育所）で提示します。
授業科目の目的	保育現場の実際に接し、子どもの観察や関わりを通して、子どもへの理解を深めます。そして、実習園（所）の役割や機能、保育士・保育教諭の役割や職務内容を具体的に理解することが目的です。
学修成果	1. 観察・参加実習を通して、保育所・認定こども園及び乳幼児理解を確かなものにする。 2. 保育所・認定こども園の機能と保育士・保育教諭の職務内容や職業倫理、チームワークについて理解する。 3. 生活や遊びの一部を担当し、保育技術を身に付ける。 4. 実習における観察・記録及び評価を記入する。また、自らの課題を明確にする。
テキスト	保育実習指導／豊岡短期大学 保育所保育指針解説／フレーベル館（ISBN：9784577814482） 幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説／フレーベル館（ISBN：9784577814499）
参考書	保育のマナーと言葉／わかば社（ISBN:978-4-907270-35-3） 実習の記録と指導案／ひかりのくに（ISBNコード：978-4-564-60910-7）
授業外学修	実習中は、実習日誌の記載や部分実習の準備などで日々1時間程度の学修を要します。
フィードバックの方法	2年生前期で、保育実習Ⅰの振り返り授業を行います。その時は、実習簿を利用し、振り返りを行いますので、きちんと実習先（保育所・認定こども園）に提出して最終返却してもらい、授業時には、実習簿を携帯して臨みましょう。
定期試験の有無	無
成績評価基準	実習簿の内容 20%、各実習園による評価（実習態度、保育所・認定こども園理解、子どもとの関わりなど）80%で総合評価します。
受講の心構えとメッセージ	実習はこれまでの講義や演習で得られた知識や技能をもとに、多くの学びが得られるものです。そのためにも、以下のことに注意し実習に臨んでください。 ・現場でどんなことを知りたいのか、自分の課題を最初に立てておきましょう。 ・記録はとても大切です。自分の考えや気づきなどを文章で適切に表現できるようにしましょう。 ・体調管理をしっかりと行い、諸注意を厳守し、責任を持って行動しましょう。 ・学生指導委員会の指導を繰り返し受けた人は、実習に臨めない場合があります。学生便覧「学生生活」をよく読み、保育者となる人として、ふさわしい生活態度を心がけましょう。
オフィスアワー	授業、会議、出張などにより不在となる場合を除き、随時オフィスアワーとして対応します。事前に連絡があれば確実です。
実務経験の有無	有
実務経験の概要	栗岡：幼稚園に33年間勤務した実務経験があります。 野村：保育所・幼稚園・こども園に40年間勤務した実務経験があります。
その他の事項	【本実習科目の履修条件】 ・保育士資格取得必修科目（1年次科目）8教科中、5教科以上の修得が必要です。 ☆注意しましょう。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1年	2単位（80時間）	選択
担当教員			
大西 清文、稲垣 順子			
科目ナンバリング：3033B①⑤	授業形態：実習	保必	
添付ファイル			

授業概要	保育実習Ⅰ（施設）は、児童養護施設や乳児院などの児童福祉施設や障害者支援施設等で行う実習です。利用者に関わりながら保育士をはじめとする施設職員の業務に補助的に携わることを通して、授業で学んだ内容と実践の統合を図る科目です。
授業計画	1 実習期間等 以下はおおよその日程です。実習先の状況により前後する場合があります。 ・実施日数 おおむね10日間（80時間） ・実習期間 令和8年2月中旬～3月下旬 ・実習内容 観察実習、参加実習 ※履修上の注意事項 保育実習指導Ⅰ（施設）の履修が必要です。実習の詳細については、保育実習指導Ⅰ（施設）で提示します。
授業科目の目的	児童福祉の実際に接し、利用者の観察や関わりを通して、利用者への理解を深めます。そして、実習施設の役割や機能、保育士の役割や職務内容を具体的に理解することが目的です。
学修成果	1. 児童福祉施設や障害者支援施設等の生活に参加し、施設及び利用者とその家族について理解を深めることができるようになります。 2. 児童福祉施設や障害者支援施設等の機能と保育士や他の職員の職務について理解し、身につけることができますようにします。 3. 生活や支援の一部を担当し、養護技術を習得できるようにします。
テキスト	保育実習指導／豊岡短期大学 保育所保育指針解説／フレーベル館（ISBN:9784577814482）
参考書	
授業外学修	実習中は、実習日誌の記載や部分実習の準備などで日々1時間程度の学修を要します。
フィードバックの方法	2年生前期で、保育実習Ⅰ（施設）の振り返り授業を行います。その時は、実習簿を利用し、振り返りを行います。実習終了後、速やかに実習簿を実習先に提出して、最終返却を受け、授業時に実習簿を携行できるよう努めて下さい。
定期試験の有無	無
成績評価基準	実習簿の内容20%、実習施設による評価（児童利用者との関係、保育・養護の知識・技術、実習態度）80%で総合評価します。
受講の心構えとメッセージ	実習はこれまでの講義や演習で得られた知識や技能をもとに、多くの学びが得られるものです。そのためにも、以下のことに注意し実習に臨んでください。 ・現場でどんなことを知りたいのか、自分の課題を最初に立てておきましょう。 ・記録はとても大切です。自分の考えや感想などを文章で適切に表現できるようにしましょう。 ・体調管理をしっかりと行い、諸注意を厳守し、責任を持って行動しましょう。 ・学生指導委員会の指導を繰り返し受けた学生は、実習に臨めない場合があります。学生便覧「学生生活」をよく読み、保育者になる人物として、ふさわしい生活態度を心がけましょう。
オフィスアワー	授業、会議、出張などにより不在となる場合を除き、随時オフィスアワーとして対応します。事前に声を掛けてくれると確実です。
実務経験の有無	有
実務経験の概要	大西：社会福祉施設等に18年間勤務した実務経験があります。 稲垣：小学校に5年間勤務した実務経験があります。
その他の事項	【本実習科目の履修条件】 ・保育士資格取得必修科目（1年次科目）8教科中、5教科以上の修得が必要です。 ☆注意しましょう。

講義科目名称： 保育実習指導Ⅰ（保育所）

授業コード： H3034A H3034B T3034A
T3034B

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
1年後期～2年前期	1年～2年	1単位（30時間）	選択
担当教員			
栗岡 あけみ、野村 圭乃			
科目ナンバリング：3034BC①⑤	授業形態：演習	保必	
添付ファイル			

授業概要	事前指導では、幼児実習基礎を基に、実習意義や目的、観察参加実習の意義、指導案の意義や役割を深く理解します。観察参加における記録の取り方（実習簿の整理）、観察参加実習の心得を学びます。これらのことを踏まえて、指導案を作成し、教材制作をします。また、模擬保育をティーム・ティーチングまたは単独で実施します。事後指導では、個々の実習簿を基に保育を振り返ります。授業形式は「講義形式」です。ビデオ・パワーポイントにより授業を進めます。		
授業計画	1	オリエンテーション・実習簿の書き方理解① 実習簿の意義・記入の諸注意について学ぶ 手作り玩具・名札・の発表	
	2	実習簿の書き方理解② 実習日誌の書き方について学ぶ	
	3	実習簿の書き方理解③ 実習日誌の書き方ポイントについて確認する	
	4	保育所見学 子どもの姿・保育者の関わり・環境構成について	
	5	保育所見学の振り返り 見学内容を日誌の書き方に生かす 発達年齢の違いを知る	
	6	グループで保育教材について考える 年齢に応じた遊び研究を行う (ペープサート・大型絵本・手遊び・手袋シアターなど)	
	7	グループで保育教材の制作研究を行う① グループワーク・グループ制作を行う（材料の準備必須） プログラム作りの方法・指導案作成	
	8	グループで保育教材の制作研究を行う② 保育教材を使って演技方や表現の仕方を学ぶ	
	9	グループで保育教材の制作研究を行う③ 指導案を生かした実践方法の理解	
	10	遊びのグループ発表と振り返り 実践発表と振り返り発表	
	11	実習園でのオリエンテーションについて 連絡方法・態度・持ち物・事前準備（手作り玩具など）・提出書類などを知る	
	12	部分実習の指導案作成について 実習で実践したいクラスを想定して、指導案を立案する。 実習園（所）との打ち合わせについて（豊岡C)	
	13	保育所実習直前指導 実習のまとめ・準備事項の確認を行う。	
	14	2年前期 実習体験の振り返り 体験発表と記録に基づく自己評価	
	15	全体総括 保育所実習課題の明確化	
授業科目の目的	保育所の実態を知ることを通して、保育者としての心構えを養います。振り返りでは、実習の成果や反省を踏まえ、新たな課題を見出し、保育観を育成するための足掛かりとします。		
学修成果	1. 実習の意義と目的、内容を認識し、保育所に必要な専門知識、援助技術を理解し、実習に生かすことができるようにします。 2. 保育実習への基本姿勢、実習に必要な書類や手続き等について理解することができるようになります。 3. 実習計画、実践、観察、記録、評価の方法について具体的に文章で記述することができるようになります。 4. 実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、新たな課題や学習目標を自分の言葉で説明したり文章に記したりすることができるようになります。		
テキスト	保育実習指導／豊岡短期大学 保育所保育指針解説／厚生労働省／フレーベル館（ISBN：9784577814482） 幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説/内閣府/フレーベル館		
参考書	保育のマナーと言葉／わかば社（ISBN:978-4-907270-35-3） 実習の記録と指導案／ひかりのくに（ISBNコード：978-4-564-60910-7） 授業の中でプリント、資料を適宜配付します。リングファイル（授業で渡されたプリントなどを整理できるもの）を必ず持参すること。		

授業外学修	適切な部分実習が選択できるように、季節感のあるもの・行事に関するもの・年齢に合わせたものなど、日頃からいろいろ調べておきましょう。立案した指導案の練習をしておきましょう。授業中に作成した指導案通りに実習を行い、実際に経験した子どもたちの反応や頂いた先生方の助言指導をしっかりと記録しておきましょう。 各授業毎に予習・復習が必要です。予習復習はそれぞれ60分程度の学修を必要とします。
フィードバックの方法	提出課題については、添削後、授業の中でフィードバックします。2年生の保育実習指導Ⅰの授業で、実習簿を使った、振り返り授業を行います。授業に実習簿が携帯できるように、実習園への最終提出や受取日に留意しましょう。
定期試験の有無	無
成績評価基準	受講態度・学習への関心30%、提出物（身上書、ワクチン接種済み書など）、課題（指導案、製作物など）の取り組み40%、発表態度や内容など30%を総合して評価します。 ただし、実習意欲が感じられないと判断される者（学生便覧「実習の心構え」参照）は、実習先に迷惑がかかるため、実習を延期または取り止めることがあります。授業には緊張感をもって臨んでください。
受講の心構えとメッセージ	実際に子どもたちと共に生活する実習では、机上の学びでは体験できない出会いや、感動がたくさん待ち受けていることでしょう。同時に自分が試されたり、揺らぎを感じたりすることもあります。子どもの傍らにある保育者として、共感すること、子どもを受け止めることとはどういうことを一緒に考えていきましょう。実りある実習にするために、基本的な知識を身につけながら、自身の保育観を養ってください。そのためには、テキストや保育所保育指針解説を読み、予習することが大切です。心構えがあれば、楽しい授業に自ら作り上げられます。是非、学びを深めてください。
オフィスアワー	授業、会議、出張などにより不在となる場合を除き、随時オフィスアワーとして対応します。事前に声を掛けてくれると確実です。
実務経験の有無	有
実務経験の概要	栗岡：幼稚園に33年間勤務した実務経験があります。 野村：保育所・幼稚園・こども園に40年間勤務した実務経験があります。
その他の事項	学生便覧「学生生活」を熟読しておきましょう。園見学や実習事前打ち合わせ（オリエンテーション）では、スーツ着用です。準備しておきましょう。園見学・体験授業については、園との日程調整でシラバスが変更になる場合があります。時間割表を必ず確認してください。※リングファイルを必ず持参してください。

講義科目名称： 保育実習指導Ⅰ（施設）

授業コード： H3035A H3035B T3035A
T3035B

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
1年後期～2年前期	1年～2年	1単位（30時間）	選択
担当教員			
大西 清文、稲垣 順子			
科目ナンバリング：3035BC①⑤	授業形態：演習	保必	
添付ファイル			

授業概要	保育実習指導Ⅰでは、1年次に実施される保育実習Ⅰ（施設）の事前学習を行います。児童福祉法に規定される施設：乳児院・児童養護施設・障害者支援施設など（80時間）の実習において要求される事前手続きから、基礎的な知識や社会人としてのマナー、実習生としての配慮などを学びます。この授業の形態は「講義形式」です。講義の時間では、ビデオ・パワーポイントにより授業を進めていきます。		
授業計画	1	【1年後期】施設実習オリエンテーション 下記項目について学びます。 ・「保育実習指導Ⅰ（施設）」の概要 ・施設実習の意義と目的 ・「保育実習Ⅰ（施設）」の概要 ・「保育実習Ⅰ（施設）」開始までの流れ ・「保育実習Ⅰ（施設）」に際しての留意点	
	2	【1年後期】実習施設の種類と機能を理解する 下記項目について学びます。 ・養護系施設の種類と機能 ・障がい系施設の種類と機能 ・施設種類毎の特性	
	3	【1年後期】施設で生活する子ども（利用者）を理解する（1） ・乳児院や児童養護施設など、養護系施設の子ども（利用者）の生活やニーズなどについて理解を図ります。	
	4	【1年後期】施設で生活する子ども（利用者）を理解する（2） ・知的障害児入所施設や障害者支援施設など障がい系施設の子ども（利用者）の生活やニーズなどについて理解を図ります。	
	5	【1年後期】施設の保育者の業務を理解する（1） 施設の保育者の業務のうち、下記の項目について学びます。 ・日常生活支援 ・治療的支援 ・自立支援 ・家庭支援 ・アフターケア ・学習支援 ・療育指導など	
	6	【1年後期】施設の保育者の業務を理解する（2） 施設の保育者の業務及び留意点のうち、下記の項目について学びます。 ・職業倫理 ・職種間連携 ・地域支援 ・地域との連携	
	7	【1年後期】「保育実習Ⅰ（施設）」の準備（1） 「保育実習Ⅰ（施設）」に向けて必要な下記の項目について理解を図ります。 ・実習に臨む心構え、実習に取り組む姿勢 ・実習に対する不安の軽減と課題の明確化 ・実習先に関する事前学習	
	8	【1年後期】「保育実習Ⅰ（施設）」の準備（2） 実習先の子ども（利用者）の理解を図る上で基本となる下記の項目について学びます。 ・観察の方法 ・記録の取り方 ・子ども（利用者）との関わり方 ・実習簿への記入の仕方	
	9	【1年後期】「保育実習Ⅰ（施設）」の準備（3） 実習先で行う部分実習に向けた指導案を作成する上で必要な下記の項目について学びます。 ・子ども（利用者）のニーズを踏まえた指導案の作成方法の理解	
	10	【1年後期】「保育実習Ⅰ（施設）」の準備（4） 実習先の子ども（利用者）のニーズを踏まえた指導案の作成を練習します。	
	11	【1年後期】「保育実習Ⅰ（施設）」の準備（5） ・実習生身上調書を作成します。 ・実習計画書の作成方法を学び、自らの課題にそった設計を行います。	
	12	【1年後期】「保育実習Ⅰ（施設）」の準備（6） ・実習計画書を作成します。 ・実習施設におけるオリエンテーションについて理解し、質問や確認などの準備を行います。	
	13	【1年後期】施設実習直前指導	

	「保育実習Ⅰ（施設）」実施直前のこの回では、第1回～第12回までの学習内容を振り返り、特に下記の項目についての確認を図ります。 ・準備事項の確認 ・実習関係書類の準備と取り扱い ・実習先でのマナー 14 【2年前期】実習体験の振り返り（施設） 体験発表と記録に基づく自己評価を行います。 15 【2年前期】全体総括（施設） 保育実習課題の明確化を図ります。
授業科目の目的	児童福祉施設における保育実習を円滑かつ効果的に進めるために、実習の意義、目的、方法などを明確にし、保育士の専門性について理解を深めます。また、施設の子ども（利用者）の理解を深め、保育士の役割や仕事について学習します。 その上で、実習の結果について自己評価を行い、今後の保育士としての自己課題を明確にします。
学修成果	1. 実習の意義と目的、内容を認識し、保育所・施設実習に必要な専門知識、援助技術を理解し、実習に生かすことができるようにします。 2. 保育実習への基本姿勢、実習に必要な書類や手続き等について理解することができるようにします。 3. 実習施設における子どもの人権と最善の利益の考慮、プライバシーの保護と守秘義務について理解できるようにします。 4. 実習計画、実践、観察、記録の方法について理解し、具体的に文章で記述することができるようにします。 5. 実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、新たな課題や学習目標を自分の言葉で説明したり文章に記したりすることができるようにします。
テキスト	保育士をめざす人のための施設実習ガイド／株式会社みらい（ISBN:978-4-86015-503-2）
参考書	「真に」子どもにやさしい国をめざして／未来叢書（ISBN:978-4905239581） より深く理解できる施設実習／松本峰雄監修／萌文書林（ISBN：9784893472212） 五訂 福祉施設実習ハンドブック／岡本幹彦 他／みらい（ISBN：9784860154813） 保育所・施設・幼稚園実習ステップブック〔第2版〕／山本美貴子他編／みらい（ISBN：9784860155179） 児童養護施設運営ハンドブック／厚生労働省 乳児院運営ハンドブック／厚生労働省
授業外学修	子どもや利用者の理解を深めたり、関わり方を知ったりするために、児童福祉施設におけるボランティア活動に積極的に参加しましょう。 各授業毎に予習・復習が必要です。予習復習はそれぞれ60分程度の学修を必要とします。
フィードバックの方法	2年生の保育実習指導Ⅰの授業で、実習簿を使った、振り返り授業を行います。授業に実習簿が携帯できるように、実習施設への最終提出や受取日に留意しましょう。
定期試験の有無	無
成績評価基準	受講態度・学習への関心30%、提出物（身上書、ワクチン接種済み書など）、課題（指導案、実習計画書など）の取り組み40%、発表態度や内容など30%を総合して評価します。 ただし、実習意欲が感じられないと判断される者は、実習先に迷惑がかかるため、実習を取り止めることがあります。授業には緊張感をもって臨んでください。
受講の心構えとメッセージ	実際に子どもたちと共に生活する実習では、机上の学びでは体験できない出会いや、感動がたくさん待ち受けていることでしょう。同時に自分が試されたり、揺らぎを感じたりすることもあります。子どもの傍らにある保育者として、共感すること、子どもを受け止めることとはどういうことかを一緒に考えていきましょう。実りある実習にするために、基本的な知識を身につけながら、自身の保育観を養ってください。、そのためには、テキストや参考資料を読み、予習することが大切です。心構えがあれば、楽しい授業に自ら作り上げられます。是非、学びを深めてください。
オフィスアワー	授業、会議、出張などにより不在となる場合を除き、随時オフィスアワーとして対応します。事前に声を掛けてくれると確実です。
実務経験の有無	有
実務経験の概要	大西：社会福祉施設等に18年間勤務した実務経験があります。 稲垣：小学校に5年間勤務した実務経験があります。
その他の事項	学生便覧「学生生活」を熟読しておきましょう。実習事前打ち合わせ（オリエンテーション）では、スーツ着用です。準備しておきましょう。